

(2) 2023 年度第 2 クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	149
人文学部	人類文化学科	150
人文学部	心理人間学科	154
人文学部	日本文化学科	157
外国語学部	英米学科	160
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	164
外国語学部	フランス学科	166
外国語学部	ドイツ学科	166
外国語学部	アジア学科	168
経済学部	経済学科	168
経営学部	経営学科	173
法学部	法律学科	179
総合政策学部	総合政策学科	183
理工学部	ソフトウェア工学科	189
理工学部	データサイエンス学科	190
理工学部	電子情報工学科	192
理工学部	機械システム工学科	194
国際教養学部	国際教養学科	195
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	196
教職センター		197
外国語教育センター		198
体育教育センター		200

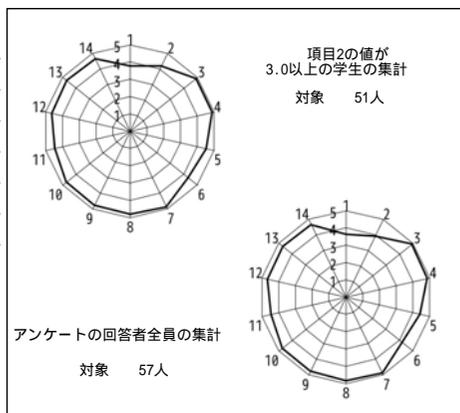
非常勤教員

【所属】

人文学部	人類文化学科	201
人文学部	心理人間学科	203
人文学部	日本文化学科	205
外国語学部	英米学科	207
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	209
外国語学部	フランス学科	209
外国語学部	アジア学科	210
経済学部	経済学科	211
経営学部	経営学科	211
総合政策学部	総合政策学科	213
人間文化研究科	人類学専攻(博士前期課程)	213
共通教育	仏語	214
共通教育	日本語	214
共通教育	共通	216
教職センター		225

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[P12]
授業コード 10A01-014
教員名 HERA, Marianus Pale
教員コード 102689
登録人数 73
回答数 57
回答率 78.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

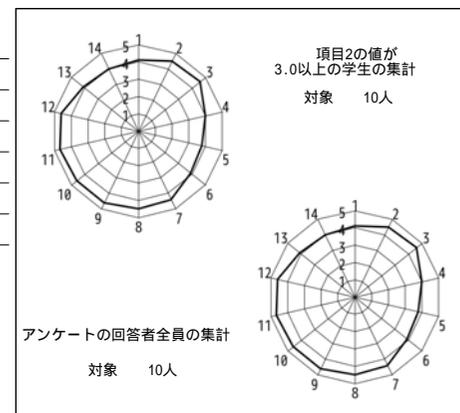
まず、例年と同様、質問1の結果からはっきりとわかるように、今年度も『宗教論』に対する学生の興味が低いということがよくわかります(3.63)。多くの学生は宗教に対して否定的なイメージを持っています。また、学生の中に「今まで宗教について知る機会がなかったので、理解できるか不安だった」という学生もいました。

しかし、授業評価の自由記述の回答や最後の感想文に、「宗教を身近に感じることができた」「宗教の価値観が様々な場で表れていることがよくわかった」「人類の歴史はある意味で宗教の歴史だと言える」「世界中の様々な宗教や日本人に根付いている宗教観を知ることができた」などの声があがっており、全体的に授業目標に達成できたと思っています。

授業運営に関して、WebClassや講義資料のページを利用することで、資料の送信や課題提出が大変便利になっています。また、「毎回映像や作品の紹介があったので、宗教を学ぶことのハードルが下がったし興味深く学ぶことが出来た」という声がありますので、今後も学生の興味を引き出す工夫をしていきたいと思っています。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織神学(三位一体論)
授業コード 21C38-001
教員名 DANCAR, Aleksander
教員コード 104655
登録人数 31
回答数 10
回答率 32.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

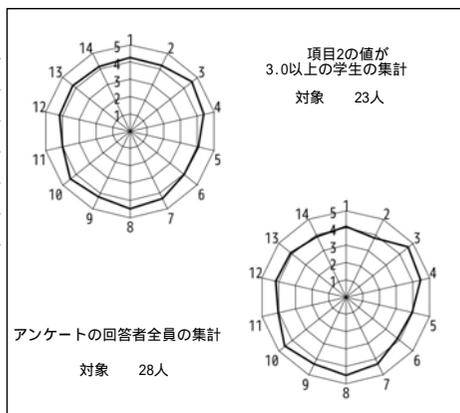


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) この講義の目的が達成されたかどうか、私には確信を持って判断することはできません。学生の評価に基づくと、このコースの目的は部分的に達成されたとはしか推測できません。この講義に真剣に積極的に取り組んでいる学生たちの中には、すでに三位一体論の人類学的基礎をある程度理解していて、三位一体についても一定の理解を持っている学生もいると思います。
- 2) このコースに適した指導方法を模索中です。私はこの理論をクリスチャンの学生だけでなく、非クリスチャンの学生にも教えていることにますます気づきました。彼らの中には、まったく宗教を持たないように見えても、三位一体の理論を知る学究的な精神を持っている人もいるみたいです。この状況は私にとって非常に困難です。講義内容の改作や基本的な事項の繰り返しは避けては通れません。
- 3) 特に出席者リストの記入に関して、さまざまな意見や批判に注意を払います。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教史I
授業コード 21C57-001
教員名 守屋 友江
教員コード 104474
登録人数 48
回答数 28
回答率 58.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

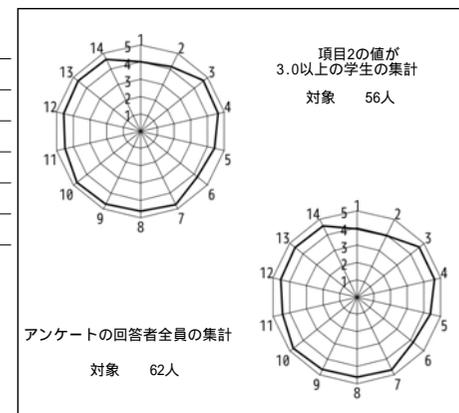
開講当初の目標として、学生たちが東海地域を中心とした近代日本宗教史について学ぶことを設定していたが、授業時に実施したリアクションペーパーや定期試験の解答を見たところ、出席してしっかり理解した受講生は目標に到達できたといえる。

意欲的な学生が多かったせいか、教員側としても学生の質問やリアクションペーパーから学ぶことができ、ありがたく思っている。各回のテーマについて、学生一人一人がよく理解し考察を深めていた。近代以降の日本において「宗教」がどういう意味をもって捉えられてきたのか、その変遷過程を宗教史を学ぶことで、それが現代の私たちとどう関わるのかを多くの学生が考えられている。学生たちのアンケートとしては主体性の点でやや低めになっているが、リアクションペーパーや定期試験の内容は良くできていると思う。

幅広く宗教について学べて良かったという反応が多く、その点は様々な専門分野の受講生を想定した授業内容であったことが要因だったと思われる。今後その方向で授業を運営していきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[P]3
授業コード 10A01-018
教員名 ANTONY SUSAIRAJ
教員コード 103820
登録人数 71
回答数 62
回答率 87.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

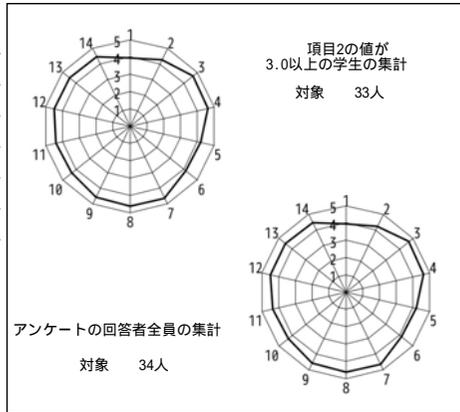


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goal of the course:
The course is aimed at introducing the students to different religions, practices and customs.
2. Overall Assessment:
The course is executed meticulously to introduce every religion, their customs and practices.
There were sufficient time given to ask questions on various topics of religion.
Students are given opportunity to summarise each lecture and understand the subject deeply.
The Scholars and people who follow Islam and Christianity were brought to classroom, and there was a chance given for interaction and clarify many doubts.
3. Future Plan
Find out the interest of Students on Religion at the beginning of the class, and respond to them during the course of the lecture.

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教に見る人間の尊厳9<国際科目群>
授業コード	10D01-902
教員名	MCMULLEN, Matthew
教員コード	103838
登録人数	108
回答数	34
回答率	31.5%
休講回数	1回
補講回数	0回



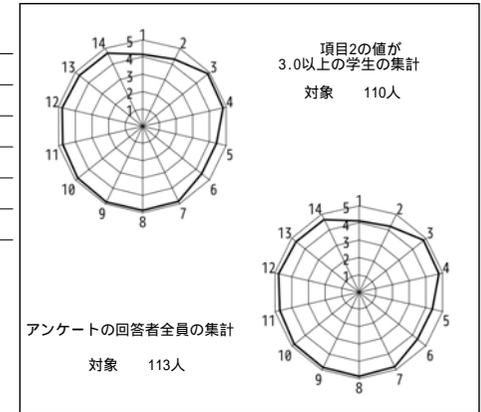
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the first time teaching this course. There were 150 students registered in the class when it began, and I had prepared the course for no more than 30. So I have to make lots of changes. The students who submitted the evaluations seem to have enjoyed it, but I need to refine the lecture content for next year.

The purpose of the course is to get students to think about what 人間の尊厳 means in practice, and whether Buddhism helps or harms in this endeavor. Students who attended regularly and had sufficient English, seemed to have really engaged in the discussion. Those who did not either stopped attending class or did not pay attention. I think limiting student enrollment will really improve the level of engagement next year.

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	哲学・倫理学における人間の尊厳4
授業コード	10D02-004
教員名	和泉 悠
教員コード	103645
登録人数	185
回答数	113
回答率	61.1%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

到達目標1～4それぞれについて、授業内課題の解答、期末テストの結果を踏まえるに、合格者は十分に到達できたと思う。

問題が異なるため単純比較はできないが、前年度より期末テストの平均点が上昇しており、また内容を理解して満点や満点近く得点獲得した履修者も多数いた。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

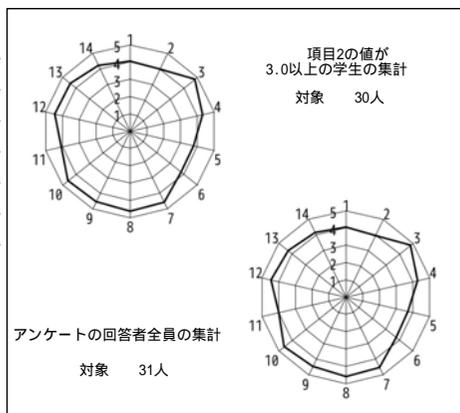
数値および自由記述も肯定的な回答が多いと考える。また、ウェブクラス等ができるだけ資料を共有する点、質問や課題の取り組みに時間を多く割いている構成なども肯定的回答が多いため、今後も講義におけるその要素は変えないようにする。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

オンライン以外での大規模講義が初であったため、私語の注意など講義内容以外の運営面で苦労した。回答にあるように、講義室が非常に狭かった点も運営の困難さに貢献していると考えた。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学A1
授業コード 12A01-001
教員名 谷口 佳津宏
教員コード 016550
登録人数 69
回答数 31
回答率 44.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

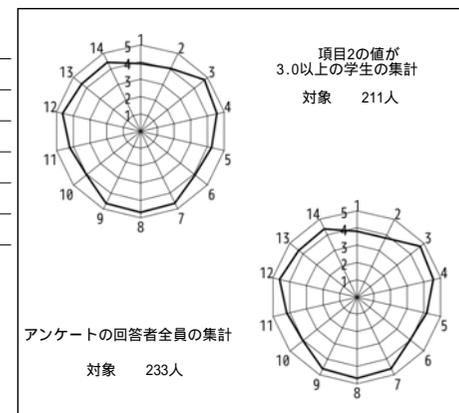


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業の到達目標は1.デカルト哲学の基本内容を知っている, 2.哲学書のある程度読みこなすことができる, 3.日常生活における哲学の意義を知っている, 4.デカルトと現代科学の関わりについて説明することができる, の四つであった。成績評価は期末試験で行なったが, 受験者数55名中合格者(C以上)45名(合格率82%)という結果をふまえると, これらの目標はおおよそ達成できたものと思われる。もっとも, 全体として評価は全学平均, 開講主体別平均いずれからもほぼすべての項目で平均値を下回っているので手放しでは喜べないが, かといって, これといった対策も今のところ思いあたらない。なお, 自由記述のうち, よかった点としては「デカルト哲学一つに的を絞っていたので, それまで哲学にあまり触れていなくても毎回の授業で全体像が徐々に明らかになって良かったと感じた」, 「哲学の専門用語や仔細な解説でデカルトを中心とした哲学について学べて良かった」, 「初学者にとって分かりやすい内容の授業だった」という意見などがあった。なお, 改善すべき点として「出席確認を行うのであれば, その旨をシラバスに掲載してほしい。」という意見があったが, 原則として授業では出席を確認するのが当然であると思われるので, その旨改めてシラバスに記載する必要はないと考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東洋史A
授業コード 12B05-001
教員名 石川 岳彦
教員コード 104800
登録人数 500
回答数 233
回答率 46.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

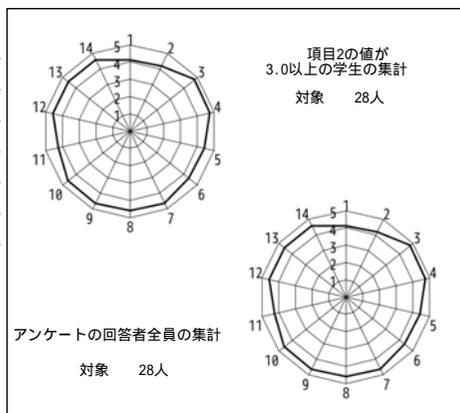
本学で担当する初年度の講義で、想定を大幅に上回る500名が履修登録したため、講義の際に対応に苦慮するところもあったが、アンケート結果や期末レポートからうかがえた履修者の授業内容理解度を見ると、開講当初の設定目標は概ね達成できたものと思われる。

自由記載項目にはアンケート回答者の約40%から良かった点について具体的な記載があった。PowerPointを用いて写真や図を多用し、自身がフィールドで撮影した動画等も準備して講義を進めた点等に関する「解説が詳細で楽しく受講できた」「視覚的にも聴覚的にも、とても理解しやすかった」「高校で世界史を学習していなくても or 歴史に自信がなくても、知識を得た上で受講できた」といった回答が目立った。これは関連する4・7・8・9・12の設問で基盤科目の平均値を上回ったことにも表れており、講義の内容や手法の評価は高かったと言える。一方、設問10の値が平均より低く、今後の課題が明確となった。一部に私語等をする学生や、出欠確認の時だけ大教室の後方から入る学生がおり、WebClassを使用した出欠確認方法の改善を講義期間中に行なったり、私語が聞こえる間は話さない等の対策をしたりしたが、受講者が多いことや大教室の構造上、発見できない場合も多く、個別対応が不十分だった。自由記載項目にも周囲で私語等の迷惑行為をする学生や、出欠確認の時だけ教室に入ろうとする学生がいることへの改善要望が複数あり、厳格な対応をする必要がある。

講義内容の難易度や手法については、今回の講義を踏襲し、さらにレベルアップさせたい。一方、問題点となった授業中の私語等に関しては、今後はより厳しく注意を与えていく。授業参加度をはかる方法も今回の手法を改め、リアクションペーパー等、履修者自身の講義内容の理解度確認にもつながるものを導入し、設問2・5・6の底上げをあわせて図りたい。また、学生からの改善要望点として「受講者が多すぎる」ことも挙げられており(3件)、次年度以降は履修者数の制限が必要である。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 科学技術論A
授業コード 12E05-001
教員名 中尾 央
教員コード 102505
登録人数 118
回答数 28
回答率 23.7%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

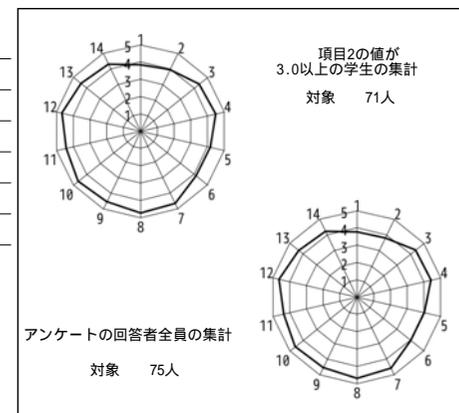
開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
アンケート項目5,6に関して、おおむね4.3以上の評価となっているので、おおよその目標は達成できたのではないかと考えている。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
自由記述欄で改善点は何も挙げられていなかった。良い評価を受けた点としてはたとえば「授業内容に関して、概ね分かりやすい説明がなされていた」「よく耳にする「科学」について、科学哲学を含む様々な観点から考察していて面白かった。またこの先生の講義を受けたいと思える内容だった」などとあったので、説明自体はおおむねわかってもらえたのかもしれない。数値データは1,2が低めなのでもう少しシラバスを丁寧に書いたり、授業内容の予習復習に関する何かを設けた方がいいのかもしれない。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
項目14の点数も4.5を超えていたので、次クォーター以降も同様の方針で授業を進めようとは考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジアとの出会い1
授業コード 13B02-001
教員名 宮沢 千尋
教員コード 019562
登録人数 200
回答数 75
回答率 37.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1-14の平均が学際科目の平均より0.13、3-14の平均が0.09低く、平均を下回った。しかし、レポートを採点してみると例年より成績が特に悪いということはないので、目標に到達できたと思う。

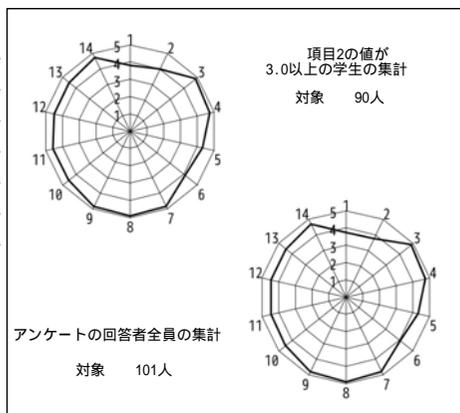
出席を取らないこともあり、自由記述は好意的なものが多い。「良かった点、評価できる点」が圧倒的に多い。「おもしろい話が多くて楽しかった。授業終わりに調べてしまうほど関心を持てる授業だった」「初めて面白いと思った授業でした」「アジアのことだけでなく、文献利用法を教えた点」という回答があった。その他、複数記述としては「毎回、レジメが講義資料サイトにアップされていたこと」「レジメが分かりやすく、講義で詳しく解説したこと」「授業の途中で質問と休憩の時間が十分取られていたことで集中できた」などがあって授業内容・方法は概ね評価された。

「改善してほしいこと」は「板書がわかりにくく後から見返してもわからない」「欠席するとその分の授業内容がレジメだけではわからない」「レジメをもっと詳しく書いてほしい」との記述があったが、これは授業内やwebclassでの質問（随時受け付けていると毎回授業で言っている）である程度対応できることなので今後は「欠席した授業への質問も可」などのアナウンスをすることにした。

授業内容をよりわかりやすくすることで履修者の満足度を向上させたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教論[HA・HP]2
授業コード	10A01-003
教員名	西脇 良
教員コード	100623
登録人数	149
回答数	101
回答率	67.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、宗教が個人・社会・歴史・文化に果たしてきた役割と意義について自分なりの見解をもつこと、イスラーム、ヒンドゥー教、神道、仏教、スピリチュアリティに関する基礎的知識をもつこと、を学修目標としました。概ね達成されたように思います。

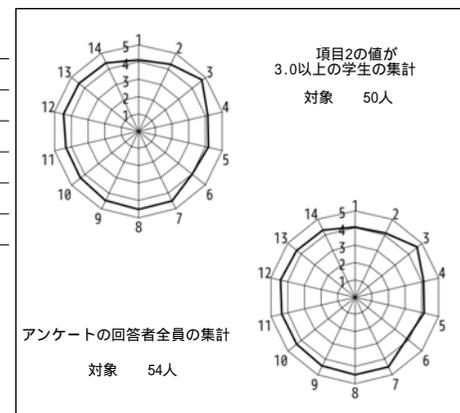
学生の皆さんからも「まあよし」との評価をいただいたように思います（全設問の平均値=4.47）。この値は、「宗教」科目の平均値（4.38）を若干上回り、評価対象科目全体の平均値（4.43）とほぼ同じでした。

自由記述についてですが、まず肯定的な意見として、「授業のレジュメの内容が詳しくて良かった。映像を鑑賞することで他の宗教の理解を深められた。」「宗教に関する一般教養を養える機会を学生に存分に与えてくれた。」「小レポートで宗教と実体験を絡めて自分なりの宗教観を生み出せること。」「先生が丁寧にユーモアを交えて教えてくださり、授業が苦ではなく、楽しく受けられた。」「適度なペースで授業が進んでいる点。」等の評価を頂戴いたしました。これからも、最新データを紹介しつつ、皆さんを知的に刺激できるような授業を追求して参りたいと思います。

他方、改善すべき点として、「時間の都合で授業資料を部分的に説明しているときが何度かあった。できれば資料の全部を網羅して説明してほしい。」「大半が高校生の頃に倫理の授業でやったようなことがほとんどだった。もう少し深掘りした情報が知りたかった。」「長いビデオだと眠くなるので、内容を減らすか短いものにするとよい。」「ビデオ（の内容）を講義資料に組み込んでほしい。」「学生の私語が気になり、授業に集中できないことがあった。」などのご意見をいただきました。専門的発展的な内容も適宜入れ込むようにしたいと思います。映像資料の内容を講義資料に含めるように準備したいと思っております。私語は以前に比べて制御できていると思っておりましたが、一層努力します。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	美術A2
授業コード	12A05-002
教員名	伊東 留美
教員コード	063834
登録人数	155
回答数	54
回答率	34.8%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

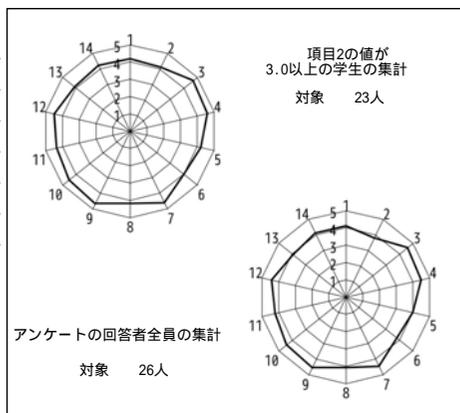
「美術A」は共通教育科目（基盤）に該当し、全学部（全学年）を対象としている。本科目は日本美術史の中で近代の美術作品を主に扱っている。美術の授業を履修するのが中学校以来であるという学生も少なくない。また美術館によく行く学生も少ないため、到達目標とは別に、いかに美術鑑賞に興味を持ってもらえるかということも意識して進めている。本授業評価の実施については履修生全体（155名）の内54名の回答があり、回答率はおよそ3分の1程度であった。

本科目の課題として2つのことを取り上げる。一つ目は到達目標についてである。該当する質問項目6の学生評価は3.89であり、質問項目5（この授業の到達目標を理解することができた）の評価（4.15）と比べても低い結果となったことは改善すべき課題である。2つ目は授業の進行についてであり、予定通りに進まなかった点を指摘するコメントもあった。

本科目を担当して今年度は5年目の年度であり、担当者も慣れてきた一方で、授業の内容と進め方について検討する必要性を感じた。コロナ禍で2020年度から2022年度までオンラインに対応してきた。そのため、担当者側も、オンラインで進めるやり方に慣れてきたところである。しかし、2023年度より対面実施となり、学生の前で講義を行うコロナ禍以前の状態に戻ったが、今回は内容を大きく変えずに行った。対面になり、こちらから質問をしたり、巡回したりすることも増えた。また今後は学生間での話し合いも含めたいと考え、時間配分をもう少し考える必要がある。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ころとは1
授業コード 13E01-001
教員名 藤田 知加子
教員コード 100382
登録人数 76
回答数 26
回答率 34.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
ころとは何かを、主体的に考えることを目標としていた。今年度は受講生がほぼ、心理学を学習したことのない学生であったことから、基礎的な内容から丁寧に説明をしつつ、心理学の枠組みで考えることに挑戦してもらった。受講生にとって難しいものがあったと思うが、最終的に提出されたレポート内容からは、多くの学生がある程度の考察に至っていたことから、目標はおおむね達成されたと考えている。

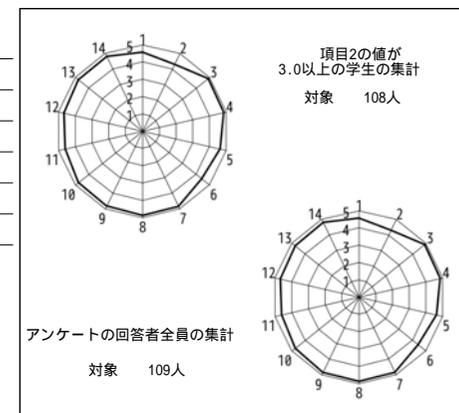
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

自由記述には、この授業の評価できる点として、資料の分かりやすさに関する記述、学生の感想へのフィードバックの丁寧さ、思考すべき点の明示などが挙げられていた。「学生に考えさせる問いが多く設けられているため、主体的に行動する習慣がつくと思う。映像資料や図などで視覚的にわかりやすい。先生が楽しそに明るく話しているので雰囲気良く、授業を受けやすかった。」という感想から、教材だけではなく授業の雰囲気づくりの重要性にも改めて気づかされた。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生からの自由記述を参考に、改善していきたい。ただし、「機材トラブルが多く不安だった」、という点は大学施設の問題点として改善していただきたく思う。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ころとは2
授業コード 13E01-002
教員名 解良 優基
教員コード 103910
登録人数 197
回答数 109
回答率 55.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本授業の目標は、以下の2点であった。
・習得した心理学の基礎知識について説明することができる。
・学習した知識や心理学的視点から、日常的な問題について考えることができる。
これらの目標が達成できたかを評価するために、毎週の小レポートと最終レポートによって本授業は評価を行った。
学生の提出物を評価した結果、一定程度目標は達成できたと考えられる一方で、例年と比べると全体的な評価は低かった。
授業内容を改めて精査したり、評価方法の説明をより丁寧にを行うなどの課題が考えられる。

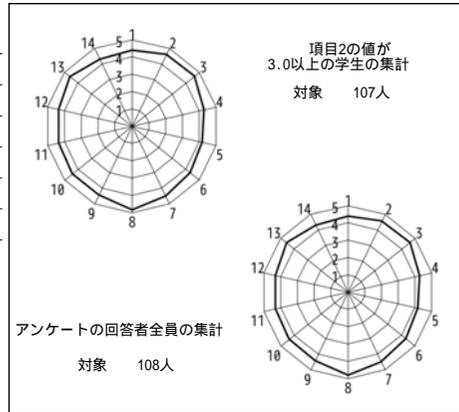
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

回答数は109と、約55%程度の回収率であった。
アンケートへの回答は、概ねポジティブな評価が多かったように思われる。
「この授業を通して、新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理解が深まったと感じますか」という設問の平均値は4.75、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という設問の平均値は4.78と、(回答してくれた)多くの学生は、授業を通して新たな知識を獲得したと感じ、授業に対して満足していた様子うかがえる。
改善すべき点の自由記述数は少なかったが、「私語への注意をもっとしてほしい」という意見もあったため、次年度以降留意したい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理学概論
授業コード	23A01-001
教員名	浦上 昌則
教員コード	018788
登録人数	144
回答数	108
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



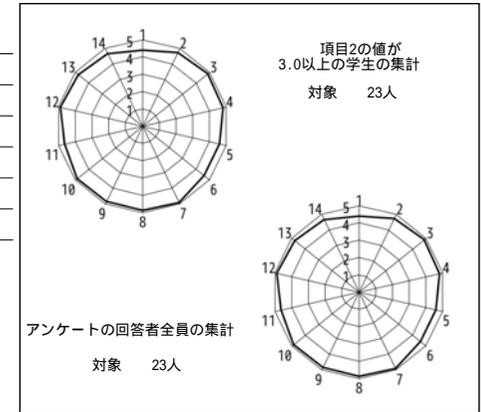
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、今後心理学を学んでいくための導入という位置づけである。心理学の考え方の特徴を踏まえつつ、心理学の歴史、心の仕組みや働きについて扱う。心理学の考え方を支える科学的知識を理解することや、代表的な6つの心理学領域の概要や特徴についての理解などを目指した。例年通り、各自で調べ、受講生同士で紹介するというペアワークを6回採用した。

授業評価の回答は、平均値がほぼ4程度であり、数値的には目標に近づけたといえるのではないだろうか。自由記述の評価できる点に記述された内容は、ペアワークへの言及がほとんどであった（「2人ペアになってのプレゼンは自分の知識も深まり、2人ということ相手のプレゼンをしっかり理解しようとするにより、聴く姿勢を保つことができ、内容が頭に入りやすかった。」、「一方的に聞くだけでなく、自分でちゃんと調べてこないとプレゼンが出来なかったり、積極的に取りくまなきゃいけない方式だった点。」など）。ただし、改善点の指摘内容もペアワークに関するものであり、時間の不足が指摘された。準備時間が少ないことは、授業開始時から繰り返し指摘し対応を求めているが、やってみないとわからないことも多いので、十分な対応は難しいのも理解できる。しかし、クォーター制の中でこの指摘に対応するのは難しく、事前に一層の注意を促すしかないと考えている。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	質的研究法I
授業コード	23C49-001
教員名	川浦 佐知子
教員コード	055855
登録人数	34
回答数	23
回答率	67.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



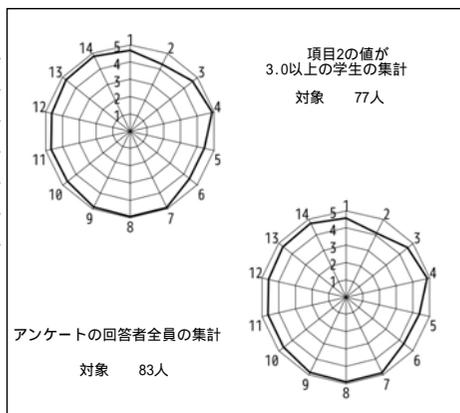
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、1) 質的研究の特徴及び理念の理解、2) 質的研究の手法の理解、3) 研究実施に関わる倫理的問題の理解であった。データ分析の実際を理解するため、サンプルデータを用いてGTAの実習を行い、データ収集の手法であるインタビューについては、ロールプレイ実習を行なった。2つの実習を、データからボトムアップで仮説を立てる質的研究の特徴を理解する機会とした。質的研究の基盤となる「社会構成主義」を理解しないまま、研究デザインを行う学生が多いため、データ収集・分析の実習においてもその理念を具体的な例を挙げながら説明した。

学生は毎週課題に取り組み、提出週の授業において他の学生とペアになって互いにフィードバックを交わした後、教員に課題を提出。教員は課題にコメントを付して翌週返却し、授業内でいくつかの提出課題をケースとして取り上げ、優れた点、改善点などを示した。設問1の平均は4.39で、授業内容への当初の興味は非常に高いとは言えないものの、設問13の平均は4.78で、授業を通して新しい知識を得たと感じている様子が伺えた。学生からは、「毎回先生から課題に対するフィードバックがあったので、何を修正すればいいのかが明確だった」、「学生の感想などを授業冒頭で取り上げ、前回の復習をする時間がよかった」、「基礎から丁寧に学ぶことができた」、「課題を他の学生と分かち合うことで、自分の考えを深めることができた」、といったコメントが寄せられた。「私語を注意してほしい」というコメントが寄せられたので、学生と授業の到達目標を共有しつつ、全体のモラルを高めることを意識したい。授業評価実施日の参加者は30名以上であったが、実際の回答者が23名であったことについて改善策を考えたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 臨床心理学(臨床心理学概論)
授業コード 23C67-001
教員名 中西 美和
教員コード 104813
登録人数 103
回答数 83
回答率 80.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

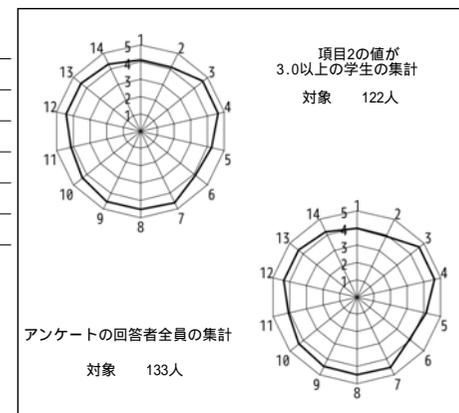
開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できた。こちらからの情報提供が多く感じられたので、受講生が考える時間や、受講生同士のディスカッションを通して気づきや学びが得られるような方法を考えたい。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価に関して、伝えたいことが伝わっていたことが確認され、概ね満足と納得のいく結果であった。出欠については、もう少し厳密に管理する方法を考えたい。授業中に学生のコメントを聞く際に、偏りがないようにマイクを回すように意識したい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針などに関しては、上記で記したことの改善を試みる。具体的には、出欠については、webclassからの出席入力時間をより厳密に管理することで、遅刻者や欠席者のチェックをしたい。また、受講生同士でディスカッションする時間や、小グループごとで学びをまとめる時間を設定し、学びを深めることを試みたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い13
授業コード 13B01-003
教員名 辻本 裕成
教員コード 019042
登録人数 283
回答数 133
回答率 47.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げた到達目標は以下の通りであった。

- 1 前近代の日本の社会や文化のあり方を考える糸口をつかんでいる。
- 2 日本人の外来文化の受け入れ方について考える能力をつけている。
- 3 異文化の受容について考えるきっかけをつかんでいる。

レポートを読むと、如上の目標はある程度達せられたと思うが、大人数のため、必ずしもすべての受講生に目配りができたとはいえず、途中でリタイヤする受講者も若干名いた。

この授業は、受講者数が300人ほどとなり、大人数での授業となった。

また、共通教育科目であるので、担当者の専攻とは遠い学科の受講生がほとんどであった(時間割の関係からか、法学部の一年生が極めて多かった)。

そのことを考慮して授業することには毎年苦慮しており、さまざまな工夫を行っているが、どこまで通用しているかは心もとない。

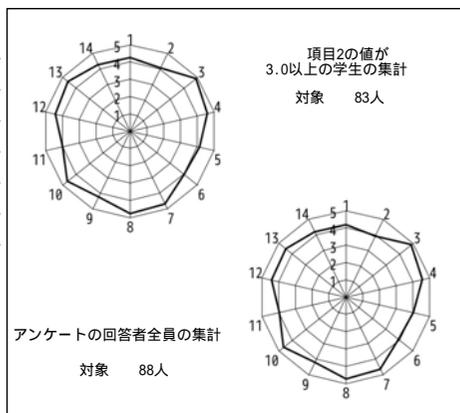
一方的な講義であることを考え、100分の講義の途中に5分程度の休息を入れたが、これについては評価する自由記述と、批判する自由記述が両方あった。

受講生に身近な話題を入れる事、ビジュアルな資料を増やすことなどを考え、一層の工夫をしていきたい。

その点を考えると、

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは3
授業コード 13E02-003
教員名 初山 洋介
教員コード 041806
登録人数 106
回答数 88
回答率 83.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

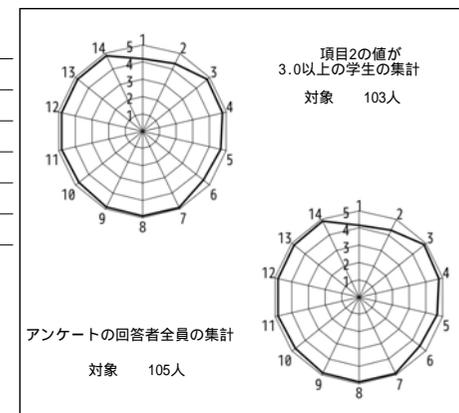


授業評価結果を踏まえた点検・評価

筆記試験（90%）および小課題（10%）の結果から判断して、到達目標に十分に達した受講者は20%強、相当程度達した者は30%弱であった。一方、授業の内容を部分的に身に付けた者は40%弱、授業の内容が身に付かなかった者は10%強であった。包括的に言うと、熱心に授業に取り組み成果を挙げた受講者が相当数いる一方で、そうとは言えない受講者が一部いたという状況であった。自由記述として「言語学的な事項について多くの具体例を挙げていたため、わかりやすかった」「私たちの世代に合わせて、授業内容が考えられていた」「専門性の高いことを学ぶことができた」等の意見があったので、今後も続けていきたい。また、「今までわかっていたような当たり前の内容を改めて考える非常に大学生らしい授業でとても楽しく、不思議な気持ちになりました」という記述もあった。一方、「授業の構造や人数の関係で学生が受け身になりがちではあったので、もっと毎回の小課題の比重を重くし、学生の意見が共有されやすくなるとよい」という意見もあったので、授業の運営方法をさらに工夫していきたい。以上を踏まえ、熱心な学生が満足する授業内容、授業運営方法を継続的に検討し、実践していきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 多文化共生と教育
授業コード 20A18-001
教員名 上田 崇仁
教員コード 103619
登録人数 148
回答数 105
回答率 70.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎回の授業コメントのやり取りや最終課題の提出物を見る限り、受講していた学生のほぼ全員が想定していた目標に到達したと考える。

回答1の数値が低いのは、シラバスを見ただけでは想像しにくい授業であったということが反映していると考え。次年度のシラバス作成を工夫したい。回答2の数値が低いことと、自由記述においてフィードバックの評価が高いこととの解釈に困っているところだが、事前に何らかの予習課題を与えたほうが良いのか、検討している。また、毎回のフィードバックはおおむね好評であった一方で、グループワークに対する評価は二分化されている印象である。担当している教員の想定を超える受講者であったため、学期前に準備していた教材が足りず、想定2~3倍の人数でのグループワークになった。担当者でも何とかしなければと思う情報交換の困難さは、当然、学生のコメントにも反映している。なお、グループワークに際しては、3回にわたり、臨時に空き教室を手配してくださった教務課の担当者に感謝したい。約150人のコメントに毎回すべて回答をしていく作業はなかなか大変なものだったが、教室内での個別対応ができない以上、この方法しか考えられなかった。評価されており率直にうれしい。

グループワークの際のグループの人数を抑えるために、来年度は、定員を設けることを検討している。毎回のコメントへの返答自体は、今回経験してみても何とかなる人数ではあったが、グループワークを意味ある活動にするために考えていきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語学概論

授業コード 24C04-001

教員名 平子 達也

教員コード 104112

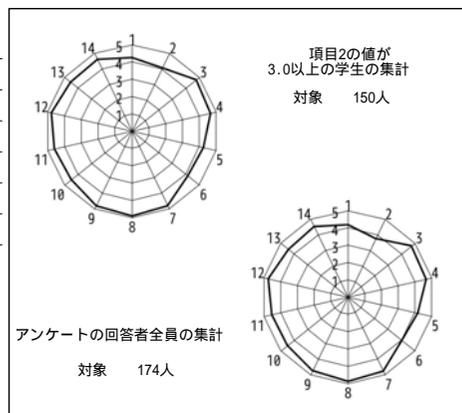
登録人数 201

回答数 174

回答率 86.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は学生が日本語に関する言語学的研究のための基本的な知識と基礎的な力を身に付けることにあり、それを授業内試験によって評価することにしてきた。単純な正誤問題ではあるが、基本的な知識が正確に身につけていないと解答できない問題である。80%以上の正答率の学生が大半であり、概ね目標は達成できたと思う。数値データおよび自由記述等を踏まえて、この科目について自己点検・評価すると、以前より使用する教科書自体が難しいとの指摘があったため、今年度からそれを予習課題によって補うことを目指した。また、授業内容の復習がしやすいように、かつ、試験対策として復習問題も設けた。自由記述欄からは多くの学生がこれらに好意的な評価を示しており、この試みは概ね成功したと考える。ただし、数値データとwebclass上のアクセス人数などから登録者の半分弱の学生は、必ずしも予習・復習に積極的ではなかったようである。予習課題・復習問題に取り組む動機づけが1つの課題として残った。予習課題に解答をつけたり、復習問題に解説をつけるなどの技術的な課題はあるが、むしろ大きな課題はそれに取り組むための動機づけである。これは究極的には学生本人のやる気の問題だとも考えられるが、学問自体の面白さを伝えることで、学生のやる気を引き出せることが理想である。引き続き研鑽していきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代文学研究

授業コード 24C35-001

教員名 岸川 俊太郎

教員コード 103907

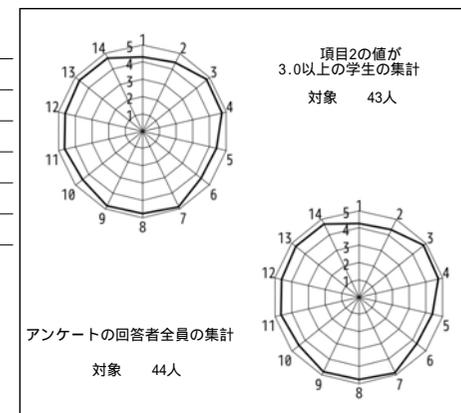
登録人数 96

回答数 44

回答率 45.8%

休講回数 1 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2023年度Q2の開講科目「近現代文学研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

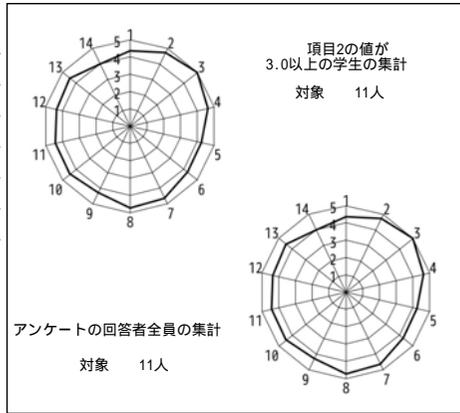
まず、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと思う。この点については、「学生による授業評価」の設問5で4.39という評価を得たことから確かめられる。

次に、数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、設問1-14の平均値（全体）を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.68、4.70という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）については、他の項目より評価が低かったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。具体的には、予習に関しては適切な事前課題を課し、復習に関してはリアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックすることで、学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、授業で配布するレジュメについても学生の理解がより深まるように内容の改善に努めたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学A3
授業コード	12C04-003
教員名	原田 健二郎
教員コード	104468
登録人数	47
回答数	11
回答率	23.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、指定する教科書を用いてイギリス政治の歴史と現況を学ぶものだった。授業の到達目標は、1. 現代イギリス政治の特徴を理解し、説明すること、2. 政治学的思考と社会科学的分析態度を養うこと、3. 現代の民主政治に関する主体的・実践的な考察を展開すること、である。

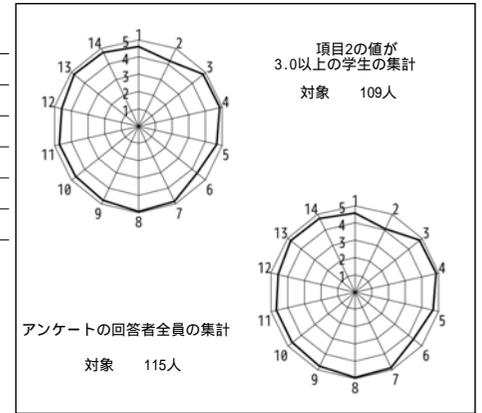
目標到達度については、各種提出物を見る限り、授業への出席と予復習をしっかりと行った学生については、高いレベルで達したと考えられる。逆に、そうでない学生については、目標到達に至らない場合が多かった。

本年度のこの授業では、主体的な学修態度を持ってもらうために、様々な形で読書・文献読解を課したほか、授業時間の約5分の2を質問への回答にあてた。そこで形成・提起された問いが、期末ペーパーの内容にも活かされたケースは多かった。共通教育科目において受講者全員の意欲と能力を引き出すことは常に大きな課題であるが、今後とも工夫を講じていきたい。

自由記述欄にも書かれていた出席確認の方法については、不断に改善していきたい。またアンケート回答率についても、十分な周知によって向上に努めたいと考える。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相9
授業コード	13C06-009
教員名	手塚 沙織
教員コード	103911
登録人数	155
回答数	115
回答率	74.2%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

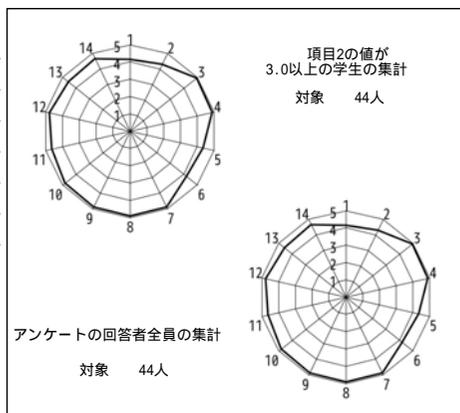


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、学年学部問わず、履修できる授業であるが、「政治」「経済」と聞くと、苦手意識を持つ学生がいることは過去のリアペなどから学生からよく聞いていたため、「政治」「経済」に苦手意識を持つ学生であっても、また、政治学や経済学を全く理解していない学生でも、学生自身が「政治」「経済」が実世界でいかに密接に繋がっているか、世界の「経済」「政治」で何が起きているのかを理解してもらえるような授業の内容に努めた。到達目標として、「1. 政治と経済に関する基礎的な知識を理解できる」、「2. 政治と経済の関係を把握できるようになる」、「3. ある事象に対して、多角的に学び、議論できる能力を身につけられる」の3点を設定した。学生のリアペの出来や試験の出来を見る限り、大多数の学生がこれらの三点は到達できたのではないかと感じる。また、学生からの評価において、「授業をやっていると言うよりかは、私たちの将来のためにお金について考える場を儲けてくださっているように感じた。」といった感想から、学生の将来を思う気持ちで授業を行なっていることが伝わっていることが嬉しく感じた。また、学生の評価から「ただ一方的に講義を受けるだけでなく、映像を通してお金に関する問題の現状を目にすることで、自分の中で問題意識が芽生えたり、その問題が記憶に残りやすくなりたりした点。」といった形で、授業を通じて政治や経済に関する問題意識が学生に芽生えたことが嬉しく思う。これからもこれらの評価を励みに頑張りたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A1
授業コード	31B04-001
教員名	鈴木 達也
教員コード	017871
登録人数	52
回答数	44
回答率	84.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、国際研究に関する基本的な概念と最近の問題について理解することであった。受講生は、この到達目標を理解した上で(4.36)、主体的に授業に参加し(4.30)、多くの受講生が到達目標に向かって力がついてきていると実感している(4.18)。全体としての授業の満足度も4.66の評価を得ており、すべて英語で行う授業としては、まずまずの成功を収めることができたと感じている。

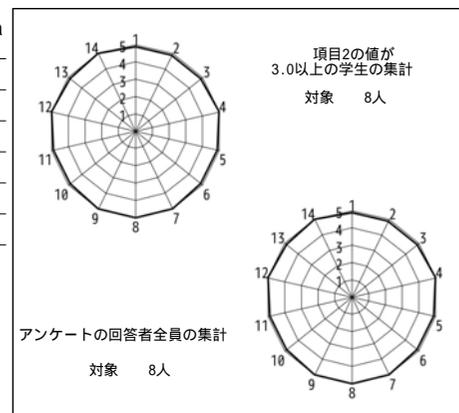
自由記述欄のコメントによれば、ディスカッションの時間を多く取ったことが好評であったようである。学生同士のディスカッションを通して、様々な意見、視点に触れることができ、視野が広がったのではないかと考える。

52名の受講生を対象に英語で行った授業であったため、学生同士のディスカッションをコントロールするのは容易ではなかったが、クラス全体でのディスカッションも適宜挿入する等の工夫を施して、最後まで授業の緊張感を保つことができたと考える。動画等、授業の理解を助ける教材の準備にかなりの時間を費やしたが、教員の授業に対する姿勢についての評価が4.89であったことから、思いは受講生に十分伝わっていたようである。

英語の歴史、差別の問題、人権など様々なことが勉強できたことが自由記述欄の「良かった点、評価できる点」として挙げられていた。これらについて、さらに理解を深めてもらえるような授業を目指して、工夫を重ねていきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A3
授業コード	31B04-003
教員名	CRIPPS, Anthony
教員コード	102357
登録人数	25
回答数	8
回答率	32.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

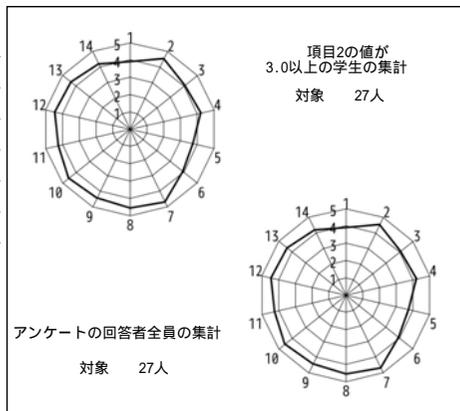
- The goal of this course is to help students improve their English presentation skills. I feel that all students improved their presentation skills over the period of one quarter.
- Considering the evaluation of my course, I think that the students were very satisfied. Their evaluation of my course was high and they were pleased with their progress. Here are three representative comments from them that I received in the form of feedback:
 - (A) 大事な知識をたくさん身につけることができ役に立った。
 - (B) 先生の授業に対する熱意が伝わり、授業の雰囲気がとてもよかったこと。
 - (C) 先生がとにかく優しく、かつ私たちのやる気を出してくれる素晴らしい先生でした。
 プレゼンテーションのフィードバックも今までにないくらい細かく、丁寧にして下さり、自分自身の成長につながりました。今までに授業で一番良かったです。
- As usual I will continue to try and improve my teaching.
n.b. Although I had to cancel one class I provided two informal make-up classes for the students. In these classes the students were free to consult me about how to improve their presentation skills and how to write their final report.

Summary

I am very pleased with the attitude of the students and their progress.

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: International Studies B3
 授業コード 31B05-005
 教員名 TEE, Ve-Yin
 教員コード 101626
 登録人数 46
 回答数 27
 回答率 58.7%
 休講回数 2 回
 補講回数 2 回

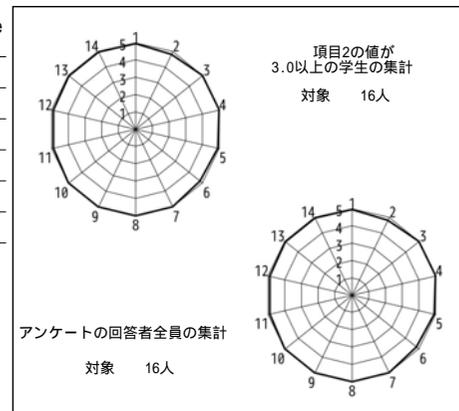


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The main goal of the course was to get students to consider Western and Asian perspectives on international trends and issues. I was pleasantly surprised by the quality of the work produced, which was the best of all my courses for Q1 and Q2. Students commented on the ample opportunities for discussion in English and Japanese, as well as the clear guidance and explanation I provided in class. Nevertheless, the evaluation of this course was only average, pulled down by a significantly lower-than-average assessment of their own engagement with the course (question 2). I can only speculate from the negative responses that a few students found the textbook (*On Donuts and Telekinesis*) too challenging and didn't read much – or, indeed, any – of it and so weren't able to participate actively in discussion or benefit from the explanation that was offered in class. This course simply exposes students to the kind of prose found in a regular novel: a student who cannot follow the textbook on this course just doesn't have the English reading ability to engage with ANY American or British novel aimed at adults. There was a separate comment from a student who wished I had given more advanced notice on the timing of the makeup lessons: this is not a problem that will recur, as I will avoid international trips during the teaching semester from now on.

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture E <国際科目群>1 (英米学科生用)
 授業コード 31C10-901
 教員名 今井 隆夫
 教員コード 104239
 登録人数 25
 回答数 16
 回答率 64.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標として、ESLドラマでの英語学習を通して、英語表現の意味を感覚英文法の観点から考えることと、英語の学習/教育法について身に付けることを目標としたが、学生評価の数値4.81より、ほぼ到達できたことがわかる。また、最終レポートの記述から、多くの受講生が、この授業を受講後の話す力の向上を指摘しており、授業目標には掲げていなかったが、暗に目指していたことであるので、今後は、目標に加えたいと思います。数値データは、満足度4.94、個々の項目も4.81~5.00の範囲の評価を受けており、総合的な、うまくいった授業と言える。記述コメントでは、次のものがあつた。「発言をしやすい環境だった/使える英語が学べたこと。高校生の時に丸暗記した英語を、再び深く理解する機会があつたこと。/中高では学んだことのないような色々な英語の表現が学べて良かった。/ディスカッションなどがとても楽しくできた。/良かった点、評価出来る点は、毎回違う人とグループ活動できるところです。同じ人と固まるのもいいですが、毎回別の人と話すのも新鮮で楽しかったです。/毎回グループワークをすることでたくさんの人と仲良くなれた。」総合的に、この授業は成功していると言えるので、今後は、受講生の状況に合わせて、新しい内容を加えるなどの微調整を行い、次年度に繋げたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Language B1
授業コード	31C12-001
教員名	RYAN, Anthony
教員コード	104650
登録人数	26
回答数	4
回答率	15.4%
休講回数	0回
補講回数	0回

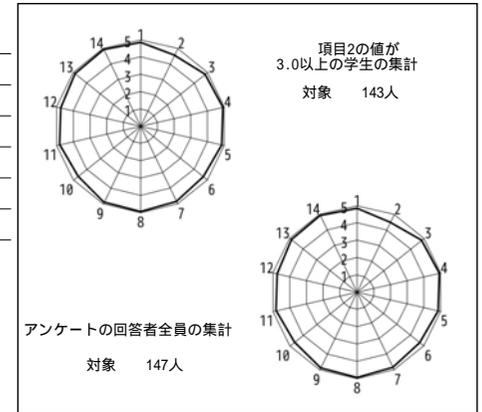
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The primary objectives of this course were to (a) develop students' awareness of casual conversation structure and (b) to increase 'noticing' or awareness of their own abilities and deficiencies in their English language use during spoken discourse. Their answers to specific questions regarding these objectives in the final reports that were submitted show clearly that these objectives were met. A comment from this survey also reinforces that: "Before taking this class, I had never thought about communication-process, but in this class, we can learn such a thing, so that's nice."
2. Some minor changes in content will be made but other than that the instructor sees no reason to change his lesson style or delivery.
3. There will be some changes made to the future syllabus and lesson flow brought on by the registration process and the fact that the class list is rarely fixed until Week 2 of the quarter.

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	コミュニケーション研究の基礎
授業コード	31D04-001
教員名	今井 達也
教員コード	102469
登録人数	249
回答数	147
回答率	59.0%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

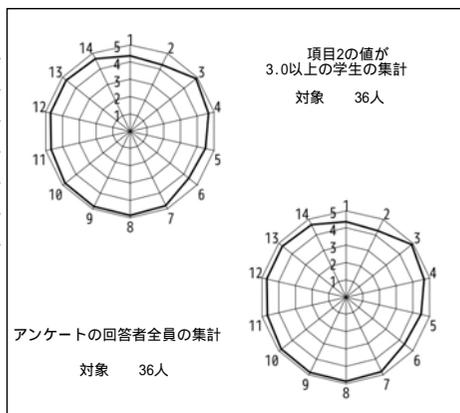
開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
この授業の目標は、対人コミュニケーション研究の基礎の知識を学び、その知識を応用にまで到達させることである。
動画や映画を使い、理解の促進を図ったことで、知識の定着はある程度達成されたと感じる。そして、授業の最後にはワークを行うことで、知識をどのように応用すればよいかの指導も行うことができた。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値は、平均で4.82と、この授業では過去最高の数値となった。久々の対面での講義となったが、学生も協力的で、到達目標にも効率的に近づけたと感じる。記述回答では、おおかた満足をしている様子が確認できた。特に応用的、実践的な内容が好まれたと感じる。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
自由回答にある通り、途中で退出するような学生の取締りが不十分であった。うるさい学生への対応ももっと厳しくするべきだと学んだ。授業のパフォーマンスも向上させ、クラスマネジメント(トラブルになる学生の対応など)も向上させ、より良い授業環境を整えていきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学研究の基礎(アメリカ)
授業コード 31D07-001
教員名 大井 由紀
教員コード 101888
登録人数 50
回答数 36
回答率 72.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、

- 1.) アメリカ社会が抱える諸問題を理解する
- 2.) 社会学で用いられる概念・理論を学ぶ
- 3.) 自分や社会が抱える問題を自力で考える力を養う

でした。

全体を通底するテーマとして、「共に生きるとはどういうことか、どのようにか
のうになるのか」という問いを設定した講義のなかで、人種・ジェンダー・セ
クシュアリティ・環境・階層・テロリズムなどの視点から、どのように対立が
起きており、なにが焦眉の問題なのか、そこからどのように共生が可能なの
か、講義だけでなく、ディスカッションを通して理解を深めることができたと思
います。

今後改良したい点としては、ディスカッションにおける問いを、受講生の方が
自分自身に引き付けて考えられるような問いにしていけることが挙げられます。
また、ディスカッションの運び方としても、単なるグループディスカッション
ではなく、グループを交換して同じ問いについて考察する等、視野をさらに広
げ、自分のポジショナリティに自覚的になれるような運営を目指したいと思
います。

2学期は、自分の研究上の締め切りが続き、講義準備とのバランスをとるのが
大変でした。バランスを取りながら両方進めていくことは、引き続き今後の課
題でもあります。研究を教育に還元できるようにしていきたいと思
います。

設備について、下記の改善をお願いできれば幸いです。

- 1.) 教室の大きさに比してモニターが小さすぎる
- 2.) 授業開始・終了のブザーが聞こえない時がある

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語科指導法D
授業コード 15B64-001
教員名 ESCANDON, Arturo
教員コード 102090
登録人数 6
回答数 4
回答率 66.7%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

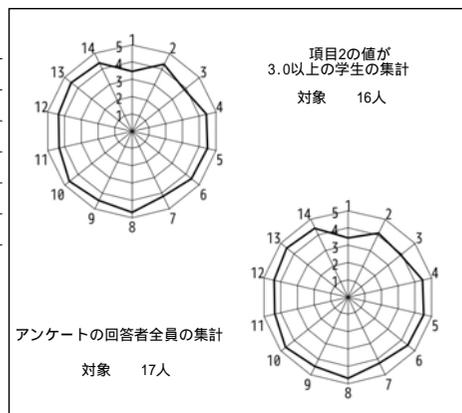
The goals set for the course were amply achieved. Students were able to a) understand how learners develop higher psychological functions; b) apply a pedagogic design that allowed to produce learner development; c) understand the importance of organizing pedagogy around theoretic concepts or theoretic models; d) grasp the basics of a sociocultural theory approach to teaching and learning.

The response from learners was good, not only through the survey, but during the class as well. Students researched a particular concept or model and were able to produce appropriate pedagogic interventions. During the process, they expressed a good attitude toward the course.

I have a few ideas about developing better learning materials for this course so as to maximize the relation between pedagogic theory and practice.

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 基礎演習1
授業コード 32A07-001
教員名 永田 智成
教員コード 103900
登録人数 26
回答数 17
回答率 65.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



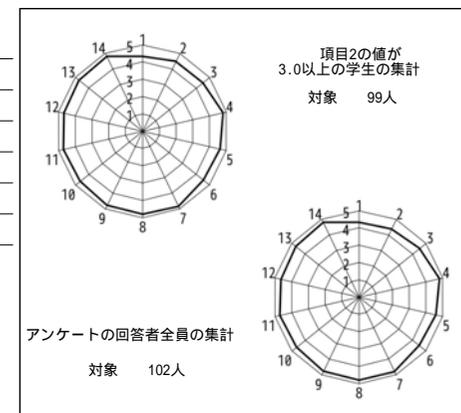
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定したこれから大学で学ぶ上で必要な知識を習得するという目標は達成できたと思う。設問1の評価が相対的に低いことから、この講義が当初期待されていなかったことがわかる。他方で、講義で新たな知識が深まったという回答があり、良い意味で期待を裏切る講義ができたと理解している。自由記述については、好意的なコメントが多かった。唯一、小レポートの回収方法において、アナログではなくデジタルにしてもらえないか、すなわち、合研の開室時間が短く、提出が難しいため提出ができないという意見があった。しかし、何でもアクセスのしやすさを求めるというのも違う気がしており、小レポートについては手書きでやらせるという意味からも、提出方法について変更しないことにする。

内容としては、論文の書き方・研究方法の回の講義内容について、検討の余地がある。重要な単元であることは承知しつつも、論文どころかレポートもきちんと書いたことがない学生に教える方法はなかなか見つからず、学生も聞いてよくわからず、寝てしまうからである。毎年改良を施しているが、引き続き検討していきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン文学A
授業コード 32C01-001
教員名 小阪 知弘
教員コード 103689
登録人数 148
回答数 102
回答率 68.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと判断している。なぜなら、到達目標としていたスペイン文学の起源から18世紀文学まで滞りなく扱うことができたからである。また、講義目標としていた、ヨーロッパ文学におけるスペイン文学の位置づけも明確に説明できたし、スペイン語文学としてのスペイン文学、つまり、ラテンアメリカ文学との違いもわかりやすく説明できたからである。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検に関しても、おおむね良い結果を得ることができたと捉えている。数字は14項目全て4.0以上であった。最低値は4.31で、最高点は4.82であったことから、総合的に見て良い講義を展開できたと見なしている。自由回答も建設的なコメントが多かったので、このまま精進したいと考えている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針についてであるが、改善点としては出席の際、後ろの方に座っている学生の幾人かは、呼ばれる声が聞こえにくかったとコメントしているため、必ずマイクを使って大きな声で学生ひとりひとりの声を呼ぶよう心掛けることにする。今後もスペイン文学の魅力さをさらにわかりやすく伝えるよう研鑽を積む所存である。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ヨーロッパとの出会い1

授業コード 13B04-001

教員名 真野 倫平

教員コード 100083

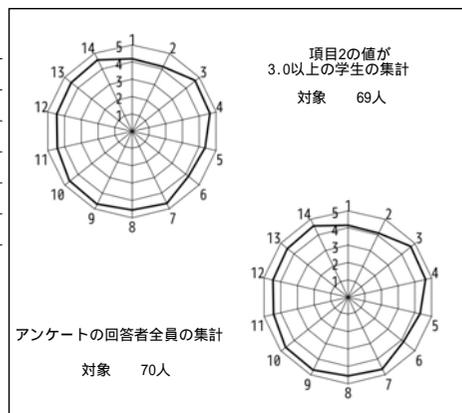
登録人数 196

回答数 70

回答率 35.7%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は全学の1年次生以上を対象とする学際科目であり、フランスの文化や社会を予備知識のない履修者に幅広く紹介することを目的とする。授業では、歴史・文学・思想・芸術・演劇・映画・音楽など毎回異なる一つのテーマを設定し、多面的な角度からフランスの文化や社会を紹介した。毎回、授業プランならびに関連資料(pdfで配付)に基づき、パワーポイント資料も活用しつつ講義を行い、課題としていくつかの設問への回答を授業後に提出させた。成績評価は毎回の課題(70%)ならびに最終レポート(30%)で行った。目標と到達の程度については、毎回の課題の結果から判断するに、1)フランスの歴史・社会・文化・芸術に関する基礎知識を獲得する、2)異文化理解のためのさまざまなアプローチを修得する、という目標は十分に達成できたように思われる。自由記述においてもフランスの文化・社会に関して深く知ることができたとの声が見られた。総合的な自己点検・評価については、設問3~14の平均は4.47で、全体平均4.43を上回った。項目別にみると、設問2(予習や復習)と設問6(到達目標)、設問8(教員の声・音声)と設問12(質問・相談の機会)においてのみ平均をやや下回った。改善点・今後の抱負については、基本的には授業を順調に運営できているものの、項目別評価から推測されるように、履修生に授業全体の到達目標をより強く意識させることが今後の課題になるように思われる。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 音楽A1

授業コード 12A07-001

教員名 畑野 小百合

教員コード 104422

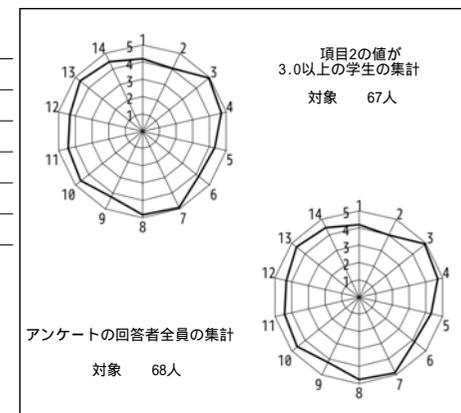
登録人数 118

回答数 68

回答率 57.6%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義について開講当初に設定していた目標は、以下のものでした。

1. 西洋音楽史の基本的な枠組みを理解している。
2. 音楽を対象とする歴史特有の問題を認識している。
3. 音楽を社会の営みの一部として捉えることができる。

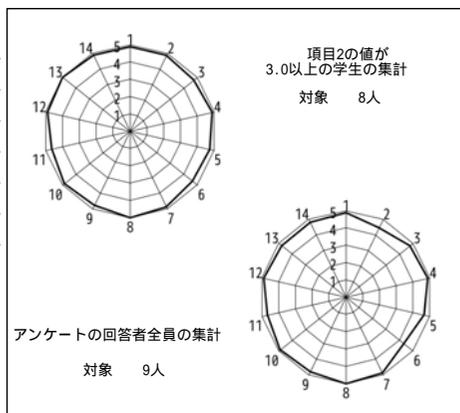
駆け足ではありましたが、予定通り古代から第二次世界大戦後までの音楽を扱うことができ、さまざまなパースペクティヴから社会と音楽の関係を検討することができましたので、上記の目標は達せられたかと思えます。また今年度は、リュート奏者の方をお招きし、授業内で講演を行ってもらうことができました。実際に楽器を見て、繊細な音の響きを感じ、奏者の方の実感のこもった話を聞くことが履修者の皆さんにとっても有意義な体験となったことは、このアンケート結果の記述欄からも確認できました。

授業全体に対しても、教員の熱意や数多くの音楽作品に触れることのできる内容を高く評価して下さったことがわかり、また、話が「聞きやすい」ものであったとの声が多く、安堵しています。

レジュメやパワーポイントを配布して欲しいという声は毎年ありますが、授業内でも述べたように、この授業では能動的に音楽を聴き、聞き取ったことをご自身でまとめ、理解することを重視しています。履修人数の多い講義で一人一人に頭と体(指先だけでも)を動かして参加していただくためには、情報をまとめた教材の配布が適切であるとも言い難いと考えています。その分、授業の概要を知るのに役立つ安価な参考文献もご紹介し、それを購入し、書き込む形で受講していただいても良いと、授業内でもご案内しています。授業のスピードや情報量を調整しつつ、より能動的な体験のできる講義を目指して、来年度以降も検討を重ねていきたいと思えます。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語実践演習B2
授業コード 34D03-002
教員名 太田 達也
教員コード 101967
登録人数 21
回答数 9
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

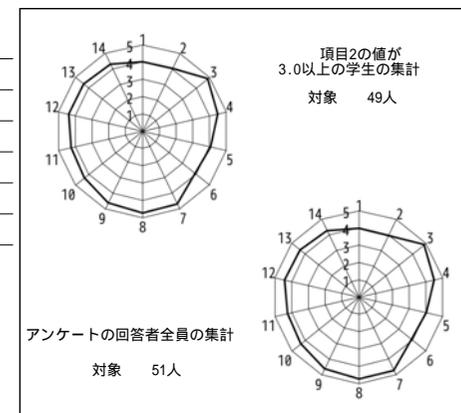


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、担当者にとっても初の試みであったが、基本ドイツ語しか使わず、文法説明や会話練習なども一切行わずに、純粹に行動・タスク中心の構成とした。受講条件としてCEFRのB1以上の言語能力とシラバスに明記していたが、実際にはほぼ全員がA2であったため、それに合わせて授業を行った。しかし受講者の間にも当然差があったため、その点は授業運営上難しさを感じた。到達目標には、「他者とドイツ語で意見交換できること」「複雑なテーマについてドイツ語で議論できること」「プロジェクトにおいて他者と協働できること」「ディスカッションの結果をドイツ語でわかりやすくプレゼンできること」を掲げていたが、学習者としては「複雑なテーマについてドイツ語で議論できるようになった」とはなかなか自己評価しにくいところであろう。そのことは、設問項目11の平均点が他の項目と比べて低いことにも表れている。しかし全体的には、項目3から14の平均が4.78と比較的高めの評価であり、また自由記述では「良かって点、評価できる点」として「自分たちで学ぶ、という環境が作られていたこと」が挙げられていたことに鑑みると、ある程度は自律的な学習を促進することができたのではないかと考える。今後はより一層、学習者が授業中に主体的に発言し行動できるような授業運営をこころがけていきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ文学史
授業コード 34D05-001
教員名 麻生 陽子
教員コード 104628
登録人数 140
回答数 51
回答率 36.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

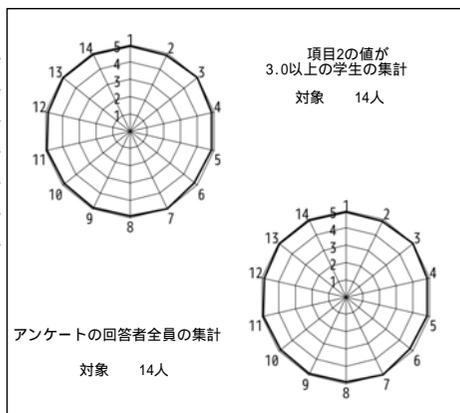
昨年度よりも内容面での充実を目指した。200年以上もの文学史の歴史をわずかに14回で講義を行うこと自体には制約があるが、学生にとってあまり馴染みのないだろう100年以上前のテキストを中心に授業で取り上げることができた点はよかった。納得のいく程度には当初の目標を八割近くは達成できたと思われる。

ほかのヨーロッパの文学とは異なるドイツ文学の特徴を知ってもらうべく、ドイツ語圏およびヨーロッパの歴史も適宜紹介しながら、時代の変化のわかるようなテキストを選択した。そのさい、たんなるあらすじ紹介だけではなく、じっさいにテキストの引用を見ながら考える機会があったことが、アンケートの記述にあるような、学生のドイツ文学への関心につながったのではないかとと思われる。

受講生の私語にたいしては、担当者のほうからも授業中に明確に2、3度全体にむけて注意を行った。しかし、やはり大講義という性質上、注意の効果もその場限りになってしまうことが多かったように思われる。この点を改善するためにも、来年度の開講については、受講者数の大幅な制限を検討している。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語1語法1
授業コード	35A07-001
教員名	中 裕史
教員コード	017830
登録人数	16
回答数	14
回答率	87.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

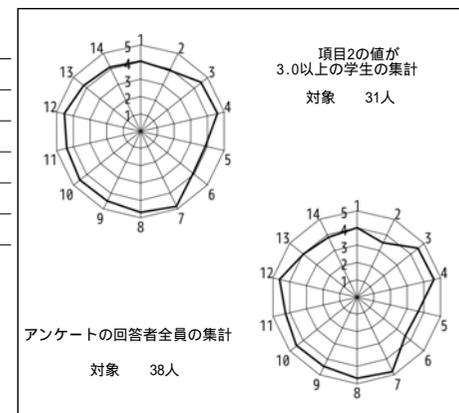
本授業の到達目標は、動詞を中心とした構文やテンス、アスペクトを使いこなせること、および中国語検定3級程度に相当する文法の知識を持っていることの2点である。22年度はこの科目の担当から外れていたために把握していないが、受講者数は20名前後であった21年度以前とほぼ同じであったので、開講して2週目には受講者の名前と顔を一致させることができ、一人一人に声をかけながら授業内容を理解できている学生はこれを誉め、理解が十分でない学生には丁寧に説明をしたことが、彼らの学習意欲を引き出すことにつながったものと思われる。期末試験の結果から判断しても、また授業中の受講生の理解度から見ても、当初の到達目標は概ね達成できたと感じている。

設問項目の評価平均値もこのことを反映した数字となっている。授業前の関心を問う設問1の平均値は4.93であったが、授業後の知識や理解の深まりを問う設問13と満足度を問う設問14の平均値もともに設問1の平均値と同じであった。自由記述でも、わからないところを丁寧に教えてくれた、こまめに1年次の復習を取り入れた、などの回答があり、受講生の理解度に気を配りながら授業を進めた点が評価されている。

次年度以降もこの科目を担当する際には、受講生に対して一対多ではなく一対一のつもりで向き合い、一人一人の理解度を引き上げることによって受講生全員が到達目標を達成できるように心がけたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相2
授業コード	13C06-002
教員名	蔡 大鵬
教員コード	103260
登録人数	50
回答数	38
回答率	76.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

[1] 授業目標および達成度

本講義は、経済学の基礎的な知識を理解できるようになることおよびグローバル化の現状とその問題点に対する関心が深まることを目標としています。授業評価の結果から、一部の学生を除き、上記の目標をほぼ達成できたと考えられます。

[2] 点検・評価

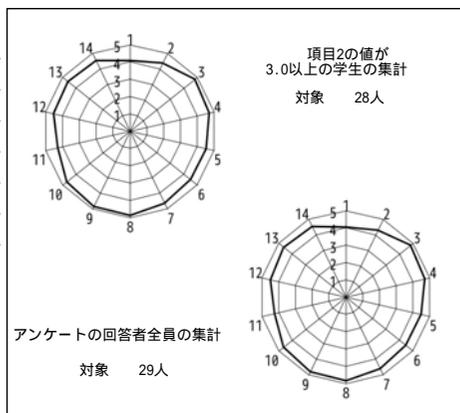
授業評価の結果として、設問1から14の平均値は「4.22」となっており、全体平均を下回っています。具体的には、「設問7」と「設問9」および「設問12」が全体平均を上回り、授業に関する取り組みについては学生から高い評価を得ている一方、「設問2」、「設問5」、「設問6」、「設問13」、「設問14」が全体平均よりもかなり低い点数となっています。これにより、少なくとも一部の学生が、主体的に授業に参加できていない可能性や到達目標についての理解が足りていない可能性が示唆されています。

[3] 次学期以後に向けての改善点等

授業内容について、「興味をそそられる内容だった」とか「スライドと説明がわかりやすかった」といった声がありました。一方で、「授業のペースが速く、たまについて行けなくなることがあったので、もう少し丁寧に解説してほしいところがあった」とか「経済学部ではない私にとっては、グラフの説明がとても難しかったです」といった指摘もありました。経済学の基礎科目を未履修の一部の学生にとっては、授業内容が難しいようです。今後は、特に経済学部以外の受講生にも意識を向け、主体的に授業に参加してもらうよう工夫し、また基礎に関する解説にもさらに気を配っていきたいと考えています。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データ処理入門1
授業コード 40B03-001
教員名 大鐘 雄太
教員コード 103641
登録人数 48
回答数 29
回答率 60.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「ワードとエクセルの基本的な操作ができること」を目標とした。(1)授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうかに関する設問(設問6)が4.48であったこと、(2)提出された課題がよくできていたこと、の2点から判断して、目標に到達できたと考えている。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

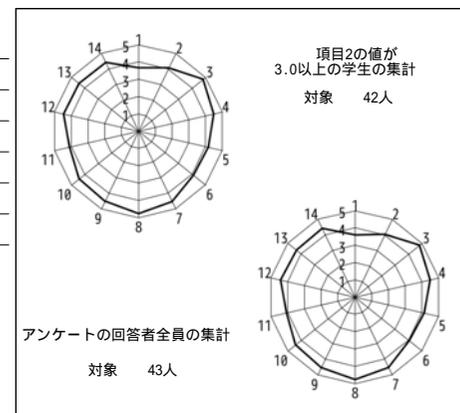
前回開講時と比べて、(1)設問3から設問14までの12項目のうち、設問3以外はすべて上昇したこと、(2)全体の満足度に関する設問(設問14)が4.22から4.52に上昇したこと、(3)設問3から設問14の平均が4.36から4.61に上昇したこと、の3点から判断して、総合的にはよくできたと考えている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次回開講時には、4.50に満たなかった「授業の到達目標に関する項目(設問6)」と「積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導や情報提供に関する設問(設問11)」を改善することにより、全体的な満足度のさらなる向上を図る予定である。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データ処理入門4
授業コード 40B03-004
教員名 宮崎 浩伸
教員コード 101892
登録人数 48
回答数 43
回答率 89.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



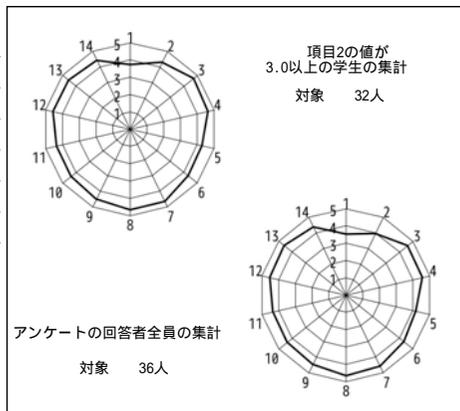
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価結果は、設問1~14の平均値が4.33、設問3~14の平均値は4.42であった。この結果は、この授業での過去の結果と比べると、悪くなっており、残念に思う。また、自分でも、開講当初に設定していた目標に対する到達度も不十分な点もあったように思う。評価の低い質問項目は5,6,11であり、この授業の到達目標の理解、これに向けての実感、学生の学習意欲への働きかけ等が今後の課題といえる。具体的には、適宜、毎回の授業の中でも、これらの点について繰り返しふれ、授業で学んだことにより、以前より知識やスキルが上がっていることを感じてもらえるようにしていきたい。

自由記述欄では、「分かりやすく解説してよかったです。」、「分からなかったらまた聞いてくださいと言あって、質問しやすい環境だった。」等の肯定的な意見をたくさんもらうことができ、今後もこのようなスタンスで、きめ細かな授業を心掛けたいと思う。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門6
授業コード	40B03-006
教員名	吉根 勝美
教員コード	018358
登録人数	48
回答数	36
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、副題の「経済データの処理とレポートの作成」が示すように、日本語ワープロと表計算ソフトウェアの基本操作を習得した上で、データを分析して見つけたことをレポートにまとめる能力を獲得し、PCを利用する他の経済学科開講科目を受講するのに支障がない程度にまで到達することを目標としている。

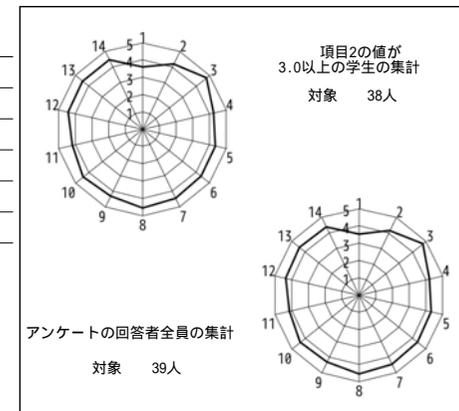
設問1～14に対する回答については、設問1、設問2、設問5の評価の低さが目立った。本授業は新生対象の必修科目で自動登録されるため、設問1「履修前の興味」について評価が低いのはやむを得ない。設問2「主体的な授業参加」については、必修科目ゆえの「やらされ感」が否めず、設問5「到達目標の理解」についても、理解しようがしまいが受講しなければならないことから評価が低くなるのだろう。

自由記述回答については、設問15「良かった点」には計7名から回答（説明の丁寧さ、わかりやすさへの言及が5名、質問対応のよさが2名）があり、設問16「改善点」には「レポートが難しそう」という回答1名のみであったことから、まずまずの評価を得たと判断する。

今後、最優先で改善すべき点は、本授業の到達目標を受講者に理解してもらうことである。カリキュラムにおける本授業の位置づけと到達目標を提示し、なぜ1年次の必修科目として指定されているかを理解できれば、授業に主体的に参加するモチベーションも高まることが期待される。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門7
授業コード	40B03-007
教員名	川本 真哉
教員コード	103865
登録人数	48
回答数	39
回答率	81.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業の目標として、論文やレポート作成に役立つ日本語ワープロの基礎の学習、現実の経済データを利用して統計的データ分析の初歩的手法の学習、データの加工手法について表計算ソフトを用いて学習、プレゼンテーションの有用な手法としてのグラフの使用法の学習、などがあった。当初予定していたトピックについて解説をすることができたため、対象テーマの範囲としては初期の目標を達成できたと理解している。

総合的な自己点検・評価

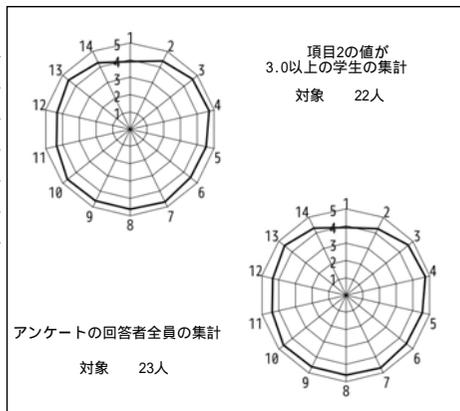
質問項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は4.38ポイントとなっており、概ね肯定的な評価をもらったものと理解している。特に、項目3、項目7、項目8、項目13が4.4を超えており、時間管理、声の通りやすさ、授業に臨む姿勢、受講生にとって新たな知見の提供が重要であることがわかった。

今後の抱負、方針

受講生の声からは、授業性の作業状況を確認し、必要があればこちらから声をかけ、修正方法について助言することが重要であることが確認できた。ただし、授業の進行スピードについては速いという評価と遅いという相反する評価もあったので、受講生の取り組みを注意深く観察し、授業のペース配分について引き続き留意したい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(経済分析の方法)A
授業コード 40C02-001
教員名 上田 薫
教員コード 016832
登録人数 36
回答数 23
回答率 63.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

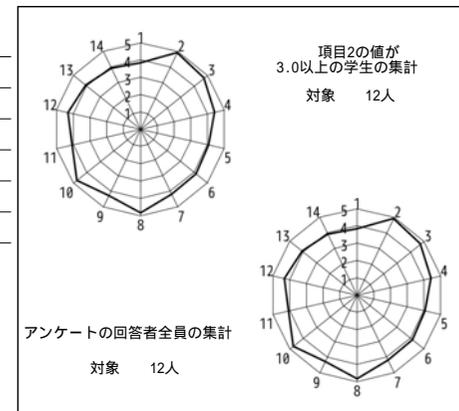
この授業は、ゲーム理論に関する文献を読んでその思考法に親しむと共に英語読解力を向上させることを学修目標としている。使用したテキストはIvan Pastine他著、Introducing Game Theoryで、イラストを交えた平易な英文により、的外れな解釈や誤解を含むことなく、基本的事項に関して適切に説明してくれる良質の入門書である。すでに期末試験の採点も終了しているが、多くの学生が高い点数を取っていることから、一定の成果が上がったものと考えている。

設問4、7、10の平均値のいずれも4.5を超えていることから、授業の行い方について概ね問題はなかったと考える。設問11、14の平均値がいずれも4.3を上回ったことから、学生の満足度も低くなかったことが推測され、担当者としても嬉しく感じる。これに関しては、40人規模の授業で一人一人の学生への目配りが比較的容易である点も影響していると思われる。また何と言っても、今回は良いテキストを見つけられたことが大きかったのではないかと感じる。次回外書購読を担当する際にも適切なテキストの選定を心掛けたい。

今後の課題という点では、テキストの準備に際し電子書籍の利用を認めたのだが、これにより期末試験の際に自身のテキストを利用できない学生が数名出現したことを挙げられる。当日印刷物の形で配布・回収する対応をしたが、将来的な検討案件と考える。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(国際)A1
授業コード 40C06-001
教員名 太田代 幸雄
教員コード 100347
登録人数 34
回答数 12
回答率 35.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【開講当初に設定していた目標と到達の程度について】

この科目は、経済学科2年次生以上向けの選択科目であり、国際経済学という経済学の一領域を英語文献を理解するための基礎を身に付けることを目的として開講されている。今回の講義においては、学生同志の教室におけるソーシャル・ディスタンスのような状況に気を遣うのはもちろんであるが、久しぶりにコロナ禍以前の状況に戻り、充実した講義を行うことができたつもりである。数値データで見ると、全設問の平均値4.33(設問3-設問14の平均値4.32)ということで、ほぼ学科科目の平均値となっており、課題も残るが、充実した感想を持ってもらえたのかと多少安堵している。

【数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価】

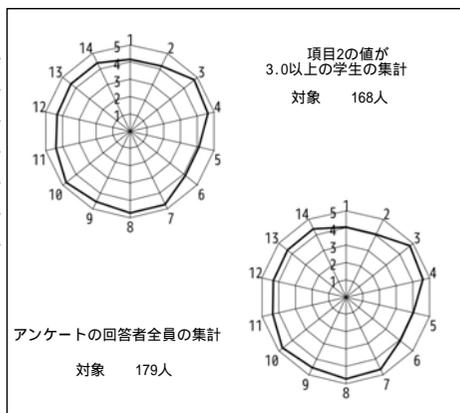
データとしては、回収率が全受講生中約35%と、ここ数年で見て低い値であったことが挙げられる。この点は改善して行かなくてはならないと考えている。また、アンケート結果としては、設問1、4、5、7、9、11、13、14で、いずれも僅かながらであるが、学科平均値を下回る結果となった。これらのような結果は、これまで無かったことであるので、もう1度講義の進行等について考え直したいと考えている。

【次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など】

自由記述欄を見ると、データとは異なり、説明等が判り易かったという反応が多く、今回の講義で気を付けてきた点で効果が出てきたことが分かり、非常に安堵している。今後、さらに受講生の理解が進むよう、更なる修正を試みたいと考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マクロ経済学特論
授業コード 40D22-001
教員名 稲垣 一之
教員コード 104110
登録人数 277
回答数 179
回答率 64.6%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について
講義は、シラバスに記載した計画通りに進めることが出来ました。そのため、目標としていた講義内容については、計画通りに講義を通じて解説することが出来ました。本学では1年生から履修できる講義ではあるものの、他大学では2, 3年生から受講が許可される講義内容であるため、可能な限り1年生でも理解できるようにポイントを押さえた説明を心掛けました。授業評価アンケートからは、内容を理解できたとうかがえる回答が多数確認されたため、1年生に向けて入門以上のレベルである経済学を分かりやすく解説するという目標は、十分に達成することが出来たと判断されます。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

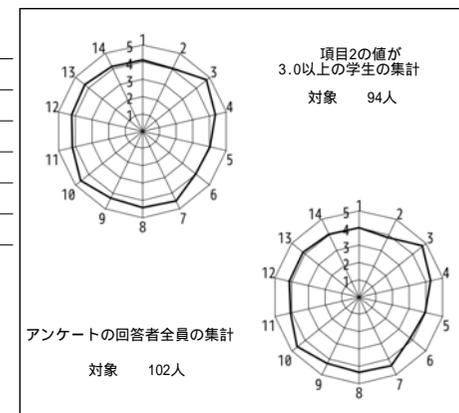
数値及び自由記述からは、特に問題なく講義を進めることが出来たと判断されました。

なお、2023年度入学の学生（1年生）が大半の履修者を占めるため、1年生であると思われませんが、私語が非常にひどい状態でした。南山大学に赴任して5年目となりますが、これほど講義中に私語を注意したことは過去にありませんでした。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
特に問題なく講義を進めることが出来たため、次回以降もこの調子を維持したいと思います。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 租税論A
授業コード 40D34-001
教員名 岸野 悦朗
教員コード 103035
登録人数 296
回答数 102
回答率 34.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について
この授業は、我国の租税制度全般及び所得税並びに相続税といった個人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について必要な知識を身につけるとともに、税に対する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。

授業に際しては、学生にも理解できるようにパワーポイント資料を見直す等改善に努めた。評価方法は、定期試験に加え期中に行う課題テストも加味することとした。その結果、試験成績は昨年度よりも良好で、これは課題テストにより復習する機会が増え、知識等が定着したことが要因と考える。また、100分授業での集中力を持続する観点から、5分間の休憩時間を設けることとした。

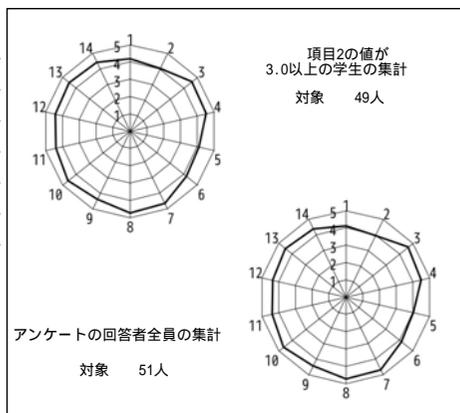
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

数値データは昨年度に比べ上昇した。自由記述欄ではパワーポイント資料に対する評価が多かった。また、パワーポイントの字が細かすぎる、求める知識量が多い旨の批判的なコメントが見受けられたが、一方でパワーポイントは見やすい、知識が深まってよかった等評価するコメントも多く、今後は説明によりメリハリをつける等学生が重点項目を中心に理解できるよう工夫したい。なお、授業の冒頭の新聞記事の紹介については評価する意見が多く、今後も継続したい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
次学期以降、各科目について充実した内容となるよう上記評価を踏まえて取り組んでまいりたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会保障論A
授業コード 40D38-001
教員名 神野 真敏
教員コード 103880
登録人数 149
回答数 51
回答率 34.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



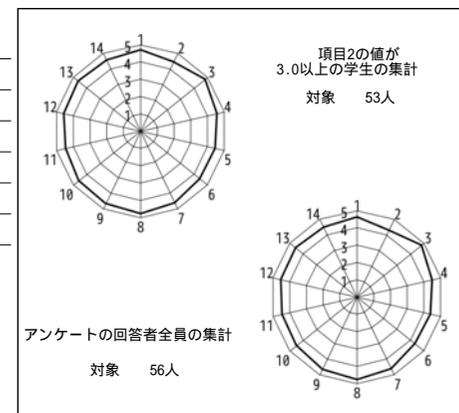
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、なぜ社会保障制度が必要なのか、そもそも社会保障とはどのような制度なのかなど、実際のデータを用いつつ理論的に社会保障の重要性・問題点などについて、特に年金・医療・介護の分野について講義した。目標としては、社会保障を経済学的視点から分析できるようになる、社会保障の存在意義と問題点を理解し、自らの言葉で説明できるようになる、望ましい社会保障制度を経済学的視点のもと、自ら考えられるようになるの3点を掲げた。項目3から14までの平均は、4.45と、経済学科平均を上回って評価してもらえたのはとてもありがたい。また重ねて、項目13新しい知識についての評価は4.51と、履修生への知識的な部分への貢献もできて、とてもうれしく思っています。

ただ、その一方で、「スライドが細かすぎる」、「スライドの色が見にくい」と、教材についての改善点を挙げている学生が複数存在したことは、反省すべき点である。スライド作りは、毎年改訂しているものの、細かさ・見にくさを毎回指摘されている。引き続き、改訂をすすめ、改善に努めていきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B5
授業コード 12C09-005
教員名 山下 忠康
教員コード 101152
登録人数 160
回答数 56
回答率 35.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

1. 税金および税額計算の基本的な仕組みを理解できる。
2. 不動産に関する基本事項を理解できる。
3. 相続の基本を理解できる。
4. 財産評価の基本を理解できる。
5. FP3級試験に合格できる。

これらの到達目標に関して、定期試験（マークシート）の平均点が65点というのはやや期待外れの面もあるが、定期試験のレベルを実際のFP3級に合わせて実施していることを考えると、おおむね目標は達成していると評価する。

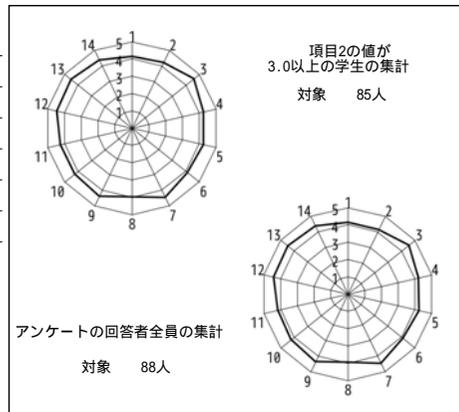
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

回答者数が履修者のうち、3分の1というのはあまりに少なすぎる。この点は、授業時間内にアンケートを実施することができず、履修者任せにしていたことが影響していると考えられる。しかし、授業の絶対的容量が多いため、アンケートを授業時間内に実施できないことも事実であり、対応に苦慮している。数値データに関しては、平均的な水準であり、問題はないと認識している。また、自由記述についても特段のネガティブコメントもなく、前向きなコメントは当方の授業への取組み態度の動機づけになっている。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。毎年、制度が変わるため、授業内容をアップデートする必要がある。教科書を満遍なくぞっていき退屈な授業がもしれないが、履修者の金融リテラシーの向上に寄与したいと考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会システムと環境3
授業コード 13D06-003
教員名 長谷川 高則
教員コード 000162
登録人数 198
回答数 88
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標

この授業では、今後の住環境の在り方を検討するために、住宅政策の変遷を確認し住生活基本法について学習している。今年度はアフターコロナに関する記事を取り上げ、職住融合・少子高齢社会に対応する住環境整備、ZEHゼッチ・省エネルギー住宅について考察し、持続可能な社会システムと住環境について検討した。

2. 目標達成度

今回はアフターコロナに関する内容を追加して授業を行ったが、反省点としては教材が難しく説明に時間がかかってしまった。最終課題のレポートは授業内容を反映してアフターコロナにおける住宅・住環境のあり方について各自まとめることができたと思う。

3. 授業評価

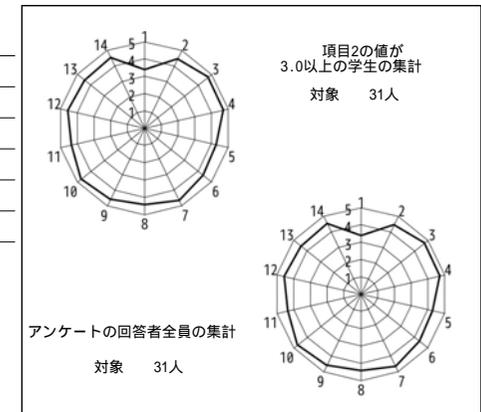
設問の項目1から14の平均は4.28であり、前回の値よりも僅かながら向上した。設問3(授業の開始と終了の時間)の平均値が4.56、設問13(新しい知識を得た)の平均値が4.48と高評価であり、リアクションペーパーによる多くの質問もあった。設問8(教員の声や音声機器の音)の平均値が3.95と低評価なので、音声の聞き取り調査をより正確に実施する必要性を強く感じた。自由記述の回答については、それぞれ検討し今後の授業で改善していきたいと思う。

4. 今後の抱負

教育のデジタル化の可能性を追求し、ICT環境をもっと有効活用できるようにしたい。未来の住宅に関するテーマも積極的に取り入れ夢が持てるような授業内容にし、これからの環境に優しい持続可能な社会システムについて考えられる授業にしていきたいと思っている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学I3
授業コード 42B03-003
教員名 池田 亮一
教員コード 101880
登録人数 105
回答数 31
回答率 29.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

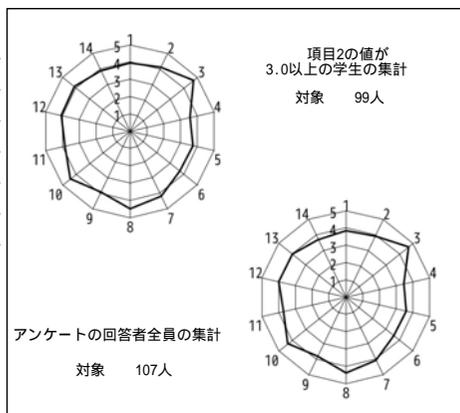


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の目標は 行列や行列式の性質を知り、計算できるようになることであったが、試験の結果を見ると概ね出来ていたようである。講義自体は昨年度と特にこちらのやり方は変えていないものの、講義の出席者数が昨年と比べ大分増え、真剣に聞いている人も増えた印象がある。これについて、試験の出来も悪くなかったのも、そもそも学生の質が少し良くなったことに加え、コロナ禍が大分収束したことでソーシャルディスタンスを取らなくてよいことで、学生同士の心理的距離も短くなり、学生にとって授業に来るのが楽しいことが影響しているのではないかと類推している。実際昨年度よりも質問も多く受け、アンケートを読むと「授業で充実した時間を過ごせた」旨の感想が多く見られた。今年新たに一つ気になったのは板書のとり方である。私は板書にするものとはほぼ同じ内容のレジュメをDLサーバーにアップしているが、にも関わらず多くの学生がその板書をノートしていた。これはレジュメをDLサーバーにアップするようになる以前ではほとんどなかったことである。わたしが板書と同じ内容をレジュメとして配布するのは、ノートを取る手間を省く代わりに、話を聞き理解することに集中して欲しいからであったのだが、にもかかわらず、パソコンでレジュメを開き、同時にまたノートを取るのは非効率的であると思われる。次の数学IIではレジュメをうまく使い、授業ではより「理解」することに専念するよう指導したいと考えている。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計原理I1
授業コード 42C03-001
教員名 窪田 祐一
教員コード 102901
登録人数 143
回答数 107
回答率 74.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標と到達

「会計の意義と役割について説明できるようになる」「複式簿記の仕組みについて説明できるようになる」「基礎的な決算手続きについて説明できるようになる」の三点であった。これに対して、定期試験の結果を踏まえ、大半の学生は目標に達しているものと判断している。

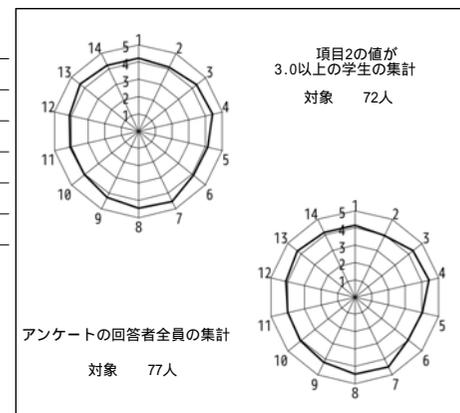
総合的な自己点検・評価

学生毎の回答結果をみると多くは良い評価であるが、一部の学生にかたまって低評価がみられる。授業の満足度が低い学生は、授業の進捗度が早い、情報量が多いという回答となっている。予習・復習が足りず、理解がついていけないことが窺える。小テストを増やしたり、授業内での反復を増やすなどの対策をしたが、効果が上がっていないのかもしれない。また、私語を注意していることに多数の学生が好感を示してくれていたが、一方で反感コメントの書き込みも少なくない。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など私語の注意の仕方について、今後、気をつけたい。また、教科書をベースに配布資料を作成しているのだが、教科書との対比が分かりづらいという意見が多かったので、その点も改善したい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会計原理I2
授業コード 42C03-002
教員名 安田 忍
教員コード 101561
登録人数 143
回答数 77
回答率 53.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

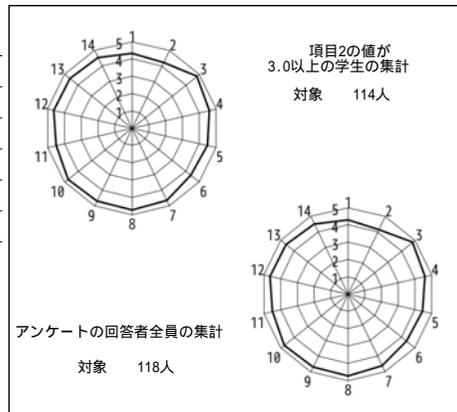


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、簿記、会計学を初めて学ぶ学生を対象に、会計の役割やその基礎となる複式簿記の仕組みを学習し、期中における会計上の取引の記録から、決算における財務諸表の作成まで、会計の一連のプロセスを体系的に理解できるようにすることが目的である。そのため、次の3つを到達目標としている。1. 会計の意義と役割について説明できるようになる、2. 複式簿記の仕組みについて説明できるようになる、3. 基礎的な決算手続きについて説明できるようになる。アンケートでは設問6が3.99と4を下回っていたが、試験の結果では、受講者の9割程度が目標ラインに到達していたし、高得点の層も厚く、目標到達の程度は高かったと考える。理解が深まったかどうかを問う設問14は4.27で大学全体の数値に及んでいないが、設問15の自由記述では、分かりやすかったという記述が多くみられ、「簿記は面白い」という意見もあった。また、毎時間実施してきた復習問題の課題提出も、学生にとっては理解を深める方法として理解され、好意的に受け止められているようである。授業実施上の課題は、ホワイトボードのマジックがかすれて薄くなったり、光の反射具合で見にくくなるとの意見が多かった。自身もマジックが使いづらく、あまり使用が上手ではないと感じているところなのだが、見えにくくならないよう気を付けていきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営労務論A
授業コード 42C05-001
教員名 余合 淳
教員コード 103585
登録人数 269
回答数 118
回答率 43.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

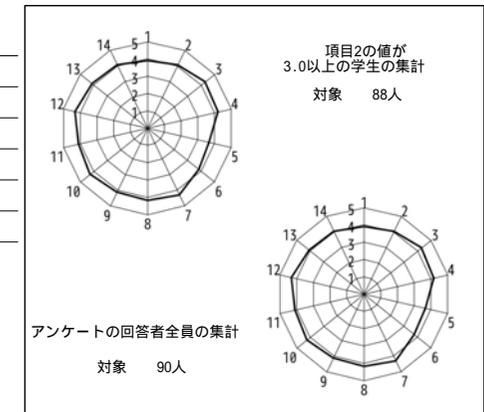


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本講義の目標は、企業に代表される組織と人のかかり方、特に組織側の視点に立ち、組織内の人々をどのようにマネジメントするべきかについて、体系的に理解することであった。講義では、通常消費者、あるいは労働者として接する機会の多い企業におけるマネジメントについて、特に人材マネジメントについて、企業の経営者及び人事部門からの視点を重視した。レポート及び期末試験の結果からは、概ね目標に対する到達度は良好であると考えられる。
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データの平均値は、経営学科平均値よりもすべて高いものであった。学修意欲に改善点ある学生に対しての指導も行っており、妨げとなる行為にも注意している。満足度を問う問14に関しても、平均値より高く良好である。特に項目8については高く、適切な声量で講義を行うことを心がけている。
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
経営学科平均と比較して数値の低いものは特段なかった。ただし、2については他の項目に比しても高いとは言いきれない部分もある。講義内では、学生の積極的な参加を促すための取り組みとして、チャットツールを採用しており、学生からも好評である。また、11に関して、講義参加者向けのレポートに課すことで、自由な意見や自主的な学習を促す工夫をしているが、欠席者が回答する機会が散見される等、学習意欲の低い学生が、講義の円滑な進行や学習意欲の高い学生の自主的な学習を妨げるような状況（フリーライダー）が見られている点大きな改善点である。特に、質問時間等をとっても低調であることも多いため、今後はより質問しやすい環境づくりや、とりわけ積極的な参加をする学生がより有利になるよう評価上の工夫が必要になる。履修者数に合わせた工夫が必要になると考えられる。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 流通論A
授業コード 42C21-001
教員名 南川 和充
教員コード 100478
登録人数 174
回答数 90
回答率 51.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全項目が経営学科科目での平均値を下回っており、毎回のごとく反省している。例年になく本科目の授業評価が改善した前回2022年度Q2と比較して、本科目の授業評価結果は項目1、2を除く全項目で低下した。これは、授業形態がオンラインから対面に戻ったことにより、授業評価が元どおりの低水準に戻ったかたちとなっている。到達目標は(1)(2)（シラバスを参照のこと）を設定した。これを達成するために例年同様に中間試験および数回の課題を課した。目標(1)について肯定的評価の自由記述（課題を通じて学んでいることが理解できる。練習問題を解く時があり、理解を深めやすかった。）があった。目標(2)についてはデータ分析の課題および中間試験（筆答）の出来が良好であったことから、達成されたと判断できる。今回も中間試験結果の返却や提出課題のフィードバックを実施できなかったが模範解答を開示しているので、それを確認している受講生については力が身につけていることを実感させることができたと思う。次学期は中間試験結果や提出課題の返却を実施したい。自由記述欄「改善すべき点」には、説明が理解しづらいなど例年多くあったが今回はなかったが、レジュメのどこを話しているか分からないという指摘があった。オンライン授業のときは授業中のチャットで質問の機会を意識的に作っていたが、今回は質問や問いかけをしていない。今後対面になっても質問が促進されるような取り組みをするとともに、一方的な講義ではなく、受講生に考える機会を設けて発表してもらうなど双方向の講義に努めたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際財務論A<国際科目群>
授業コード	42C31-901
教員名	BREMER, Marc
教員コード	017913
登録人数	4
回答数	3
回答率	75.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

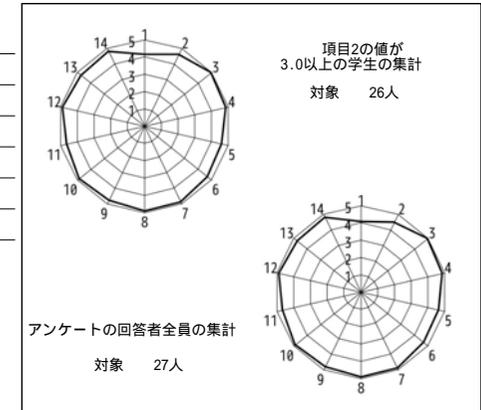
This course is an introduction to international financial decision making by companies. The main issue is how to deal with exchange rate changes. These changes have been extremely large in recent years. The course also discusses foreign direct investment, portfolio investment and trade finance. The course is offered in English. Notes for each lecture are distributed to students; the lectures are accompanied by PowerPoint slides.

The goal of the course was achieved. The students felt that they learned substantial new knowledge about international financial management. These students are now ready to understand basic international financial decisions at the firms they will join after graduation.

The material covered in this course is very advanced. To make it more accessible, I have revised the lecture on foreign exchange options to use an intuitive example. The title of this new material is Dollars to Donuts: Why a Discount Coupon to Buy a Donut is the same as a Foreign Currency Option to Buy a Dollar. I also plan to add material that discusses foreign currency put options and forward foreign exchange contracts.

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ解析B
授業コード	42D10-001
教員名	奥田 隆明
教員コード	102600
登録人数	50
回答数	27
回答率	54.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

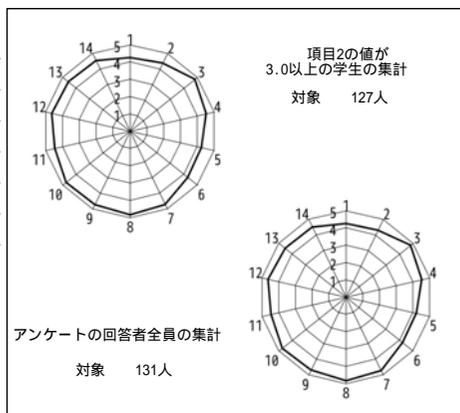


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、リニア中央新幹線のインパクト分析を例に取り上げて、データ解析の基礎になる考え方について説明した。数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にも理解できるように、できる限り復習を行いながら授業を進めたが、当初の目標は概ね達成することができた。実際、受講生の目標理解（設問6）については平均値4.63（学部平均4.09）、目標到達（設問7）については平均値4.67（学部平均4.09）であった。また、受講生の知識・理解（設問13）については平均値4.78（学部平均4.34）、総合的な満足度（設問14）についても平均値4.81（学部平均4.28）であった。自由回答欄を見ると「分かりやすい」という指摘がある反面、「プロジェクターの画面が反射して見にくい」との指摘もあった。来年度は、今年度の経験も活かしながら、数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にさらに理解できる内容にすることを心掛けたいと考えている。また、プロジェクターの画面が反射しないように照明の強度を調節したいと考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	企業論A
授業コード	42E01-001
教員名	後藤 剛史
教員コード	100374
登録人数	297
回答数	131
回答率	44.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

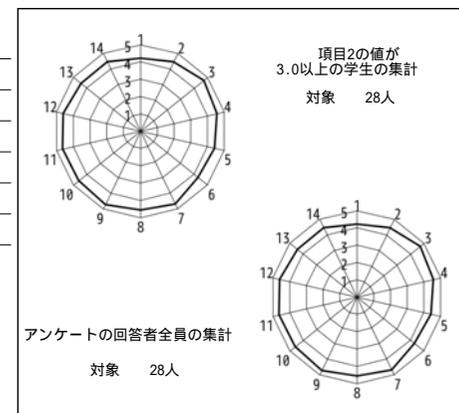
「様々な経営戦略について、そのメリットとデメリット、あるいはそれら戦略の狙いを、経済学的に考えることができるようになること」という、シラバスに掲げている「学生の到達目標」の達成度を期末試験(60点満点)の正答率で測るなら、57%であり、物足りない。なお、期末試験とは別に、4回の小レポート(各10点)を課しており、ほとんどの学生はそれらを提出済みであったため、不可者(F)の数は少ない。

設問14(総合的な満足度)の平均値は4.50で、まずまずの授業運営ができたものと自己評価できるかもしれない。ただし、にも述べたように、講義内容の定着度は物足りないため、これを高めるための工夫は必要である。実は、数年前より期末試験対策の模擬問題の解答・解説をやめ、また、期末試験の問題回収を行ってきた。おそらく、これらを元に戻せば、期末試験の点数は手取り早く、以前と同様の水準に上がるだろう。しかし、それでは、学生の“真の”内容の定着度は測れないと考えている。

設問15(良かった点の自由記述)には、39件の回答があった。また、回答者の85%は設問14で4点か5点を付けている。いっぽうで、回答者は全受講者数の45%であり、ふだんの出席率も60%あるかないかである。設問16(改善してほしい点の自由記述)に「難しかった」との回答が3件ほどあったが、ふだん出席しておらず、授業評価にも回答しなかった学生にも、そのように感じ、「最低限の試験準備だけすればいい」と考えた学生がおおぜいいたのではないか。そのことが、期末試験の平均点につながっているのかもしれない。100%の受講生の興味を惹き続けようとするのは無謀とは言え、もう少し、最後まで興味を持って受講する学生の比率を高めてみたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営倫理
授業コード	42E07-001
教員名	高田 一樹
教員コード	102887
登録人数	64
回答数	28
回答率	43.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

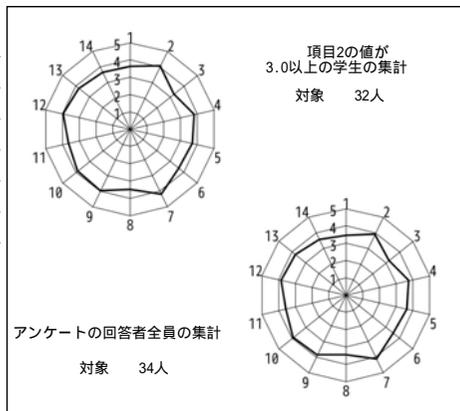
本科目の目標は次の3つである。1) 経営倫理の課題と論点を理解する、2) 「責任ある経営」に関する各自の考えかたを深める、3) 受講者自身が重んじる価値観を文章や発言を通じて表現する。これらの目標を各回の講義、予習課題、期末試験を通じて確認し、課題の提出状況や試験結果の正答率から所期の目標はおおむね果たされたと評価する。

前回(2020年度開講分)との比較において同科目の評価はほぼ同水準を維持し、全項目で4点を上回った。自由記述欄への記入も複数あり、肯定的な意見が多かった。具体的には講義内容の理解を深めるためにコントやテレビ番組など視聴覚資料を一部取り入れ、各回の倫理思想に対応したケース課題を出題し、また課題提出までの日数を2週間ほど確保したことなどである。

例年の課題であるが、アンケートの回答率が低調のままだった。今回は最終講義に10分強の時間をとり、スマホやパソコンでの回答を口頭とスライドで告知したものの、回答率は科目登録者の半数程度にとどまった。熱心に回答しているように見えたが実際のところ「内職」している受講生もいたようだ。また今期は学生による口頭での意見表明に代え、webクラスのチャット機能を利用した。この対応を肯定的に受容する学生と、口頭での回答を望む学生とがいたようだ。教材研究や講義内容の精査に加え、感染予防を勘案した教室内の意見交換の手法も検討したい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 グローバル・ビジネス論A
 授業コード 42E11-001
 教員名 KHONDAKER, Rahman M.
 教員コード 100361
 登録人数 45
 回答数 34
 回答率 75.6%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

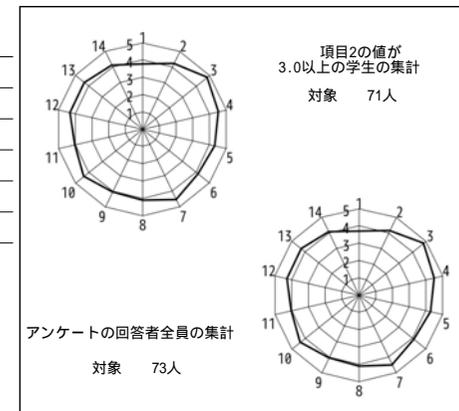


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、グローバル・ビジネス戦略に関する基礎的知識を学ぶこと、グローバル・ビジネス経営の理論・応用的戦略を学習すること、異文化環境における経営の実践を学習することである。授業は、テキストを利用し、レジュメおよび関連資料を配布し、ケースなどを利用して、休講・補講なしで、シラバスを終了しました。シラバスの目的を全面的に達成したと思っている。設問1-2「授業への参加について」に関しては、2023年度第2クォーター全科目と経営学部の42006 - 001 ~ 42H04-999番台科目群と比較すると、多少低めのの評価を受けている。設問3-7「授業全体について」の平均値4.61、4.34、4.10、4.08、4.51 に対して、本科目の評価は、3.21、3.76、3.65、3.53、4.12となっている。設問8-12「授業の運営について」では平均値4.54、4.39、4.50、4.25、4.44 に対して、本科目は3.44、3.85、3.91、3.59、3.88となっている。設問13-14「全体的な評価」では平均値4.35、4.27 に対して、本科目は3.74、3.56となっている。また、設問15「授業の良かった点」では、「先生が優しい、先生のレジュメがとてもわかりやすい、先生がしっかり説明していた、生徒の声を聞いてくれる、学習内容ももちろんとても勉強になりました、教授の生徒を思いやる心が素晴らしい、欠席の時もアフターケアをしてくださり助かりました、授業ごとに分かりやすいレジュメが配られるた、授業が理解しやすかった、補足資料や実際の出来事を使用しながら説明していた」、などがあった。設問16「改善すべき点」では、「うるさい生徒は追い出してよかった、終わる時間が遅い時があった、私語がとてもうるさく先生が何度も注意を促していたが静かにならなかった、静かになる方法を考えたほうが良いと感じた」、などがあった。原因は理解できないですが、毎回数人の学生が遅れて授業に参加した。数人は集団で座り私語をした。彼らに注意をかけたが、これが授業評価に影響を及んだと考えている。一応本学期の経験を生かして、今後もより高い水準をめざして様々な改善を試みたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[HC・HJ]
 授業コード 10A01-001
 教員名 MERE, Winibaldus Stefanus
 教員コード 101180
 登録人数 136
 回答数 73
 回答率 53.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

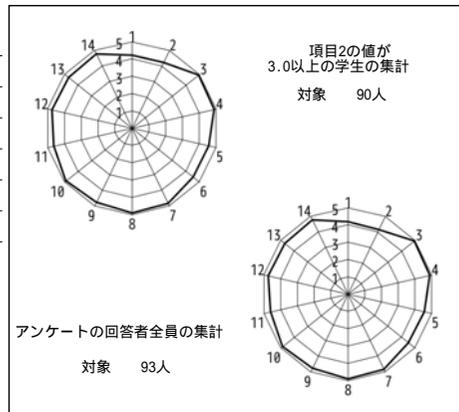


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) The main purpose of this course is to help students understand the theory, values, varieties and roles of religions. By going through each topics set out in the beginning of the course in the form of a syllabus, overall as confirmed in the students evaluation the course had achieved these goals.
- 2) Overall I agreed with the numeric data from students evaluation that the cause had to most extent successfully bought new and proper understanding and perception about religion. This can also be seen in students reaction paper at the end of every class, which showed increased interest among students to know more about various aspects related to religions and change of attitude which is previously apathy toward subjects about religion toward a subject worth to know and study.
- 3) Since there are some valuable suggestions from students, in particular about the language in the materials and the prior distributions of materials for class preparation, making correction on the the language used in the materials and ensuring the availability of materials before the class will become priority in preparing the next class.

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	法と人間の尊厳4
授業コード	10D05-004
教員名	沢登 文治
教員コード	017863
登録人数	188
回答数	93
回答率	49.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

項目5「到達目標を理解できたか」は4.57、項目6「到達目標に向けて力がついてきているか」は4.52と、他の項目の点数よりもやや低めなので、「到達目標」について、シラバスの確認を強化するなどし、授業後半ごろに再確認する。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

数値的には項目1、2以外は4.5を超えており悲観的になる必要はないものの、項目11「学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」は4.60で、さらに工夫をしようと思う。途中でちょっとした課題を出す、など考えたい。

自由記述について、項目15「良かった点、評価できること」に対して、27件の記入があった。例えば「確認テストを毎回設けることで、その日の内容をその日のうちに振り返り、理解度が高まる」や「毎回の授業資料がとても読みやすく、追加の資料で具体的なグラフや数値を見ることができ...たので理解がとても深まった」という、授業方法について好意的に捉えてもらった。

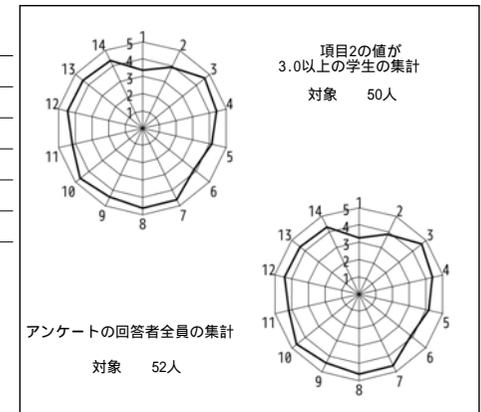
他方、項目16の改善点についても、「毎回出席している人とほとんど出席していない人が評価上区別されない点が少し不平等」という意見があったので、今後の課題にしたい。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

上述以外に、目標設定を明確にし、シラバスの向上と授業時間内での確認などを心がけたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法2
授業コード	12C03-002
教員名	河合 正雄
教員コード	104426
登録人数	143
回答数	52
回答率	36.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

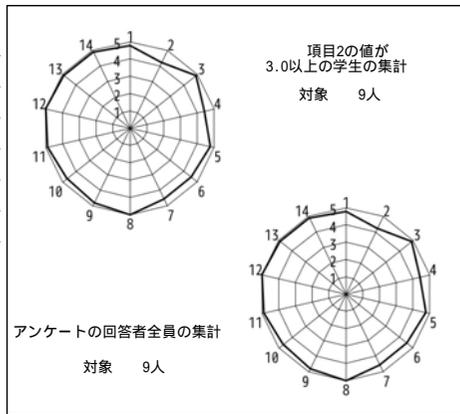
全科目の平均値よりは若干下回るものの、項目16への回答者の全員が項目15にも回答するなど、全体として高い評価をいただくことができた。もっとも、話を脱線させる癖については今後も意識し続ける必要がありそうである。

(1) 講義の手法について。2009年秋に教壇（他大学）に立ち始めて以来、レジュメに沿って授業を行い、適宜テキストと板書で補う方式をとってきた。しかし今期の「日本国憲法2」では、学生の反応を見つつ、板書の使用は最低限とし、板書の代わりにスクリーンでレジュメの余白に青字で書き込む形式を採用した。板書内容を書き込んだレジュメは、毎回の授業終了直後にWebclassと講義資料サーバに掲載した。第2回目の授業の冒頭で、板書方式とレジュメへの書き込みをスクリーンに映し出す方式のいずれがよいか参加学生に質問したところ、概ね半々の回答だったため、そのまま続行した。授業中の反応や項目15の回答を前提とすると、大きな問題はなかったように思われる。

(2) 2限連続講義について。集中講義（他大学）を除いて初めての経験だったものの、受講人数は過去最高だった。第5回目の授業からは、2回の休憩時間をとる方式も試行した。授業中に、1回の休憩と2回以上休憩をとる方式のいずれがよいか参加学生に質問したところ、概ね半々の回答だったほか、この方式を評価する回答（項目15）が1通あった。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較5<国際科目群>
授業コード 13A01-901
教員名 ALVA, Reginald Joaquim
教員コード 102369
登録人数 10
回答数 9
回答率 90.0%
休講回数 0回
補講回数 0回

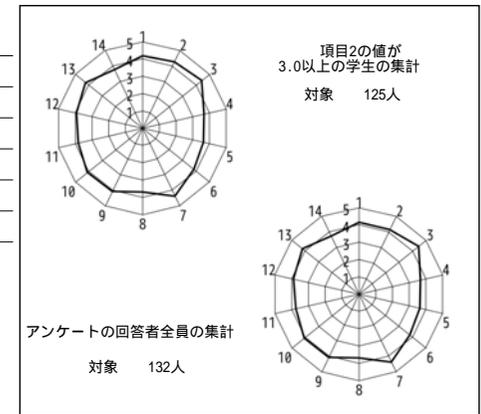


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、「文化の比較5<国際科目群>」の授業を対面形式でやらせていただきました。この授業は全学部 of 学生たちが履修登録することが出来るので学生たちの意欲を引き出せるために授業の内容を分かりやすく説明し、また様々な工夫をいたしました。また、授業中取り扱う資料を事前にwebclassにて掲載いたしました。その結果、学生たちは内容をよりよく理解できたと思います。以下の学生たちのコメントからも同様な印象を得られると思います。「全体を通して難易度が高いと感じたが、適切に指導されていたため、理解する努力をすることができた。」「I have learnt some new information in this class」「I liked that we were doing some interesting themes about how we the humans see each other and how some things we though were normal, in the end, weren't.」「It is in my comfort zone and the teacher has given us a lot of time and opportunities to learn and speak.」「I gained a lot of new knowledge and it also made me improve my English skill in a better way.」「The good point of this class is I can understand this world more than in the past.」「I was not only able to gain knowledge on language development an ethnicity but also I was more than satisfied to continue my studies freely, share my thought and hear what others think as well. It was helpful for me to think inside my head about the problems in the society and what I think of it.」「The good point of this class is I can learn more of culture that I don't know. Although it is the way too deep to understand in a very fast time but i feel good and pleasure to learn it.」「The good points of this class are it gave me more perspectives about life and people. I learned many things, and new perspectives of world. I can compare and understand how different we are (Human).」

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民法総則
授業コード 44A21-001
教員名 王 冷然
教員コード 103577
登録人数 364
回答数 132
回答率 36.3%
休講回数 0回
補講回数 0回

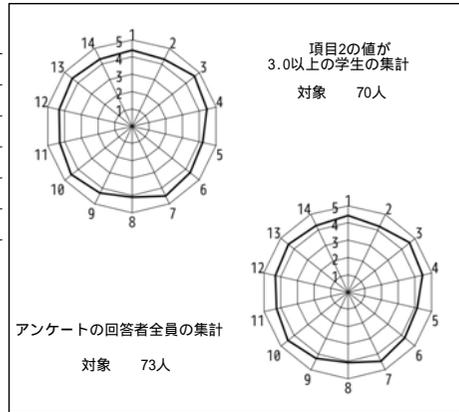


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義のシラバスに掲載した、民法の意義・基本原理について理解すること、民法総則の内容について理解すること、条文の読み方、解釈の方法など民法学習に必要な基礎的知識を身に着けることという3つの到達目標については、中間テストや定期試験の成績から見ると、ほぼ到達したと思われます。民法総則の内容は、1年生にとってかなり難しいところがあり、これは「学生による授業評価」の数値データや自由記述などに反映されています。自由記述において、レジュメの内容や判例を使った説明が分かりやすいこと、レジュメや判例資料の配布、中間テストの実施がよかったなど肯定的な意見が多く書かれています。他方、日本語の聞き取りが難しいことや黒板の字が読みづらいなどの指摘も書かれています。これらの記述内容から見ると、いままで行ってきた努力や工夫によって学生たちに内容のなる分かりやすい講義を提供できたと思われます。一方、日本語の発音や黒板の板書に関してはさらなる工夫が必要です。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑法各論A
授業コード 44B90-001
教員名 大山 徹
教員コード 104613
登録人数 388
回答数 73
回答率 18.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

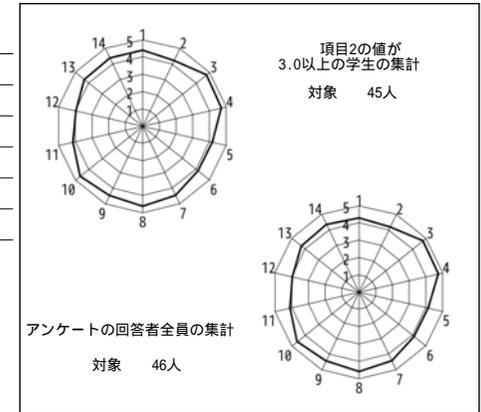


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「刑法各論A」の古典的論点を丁寧に解説し、当該論点の把握に資するよう工夫したが、「開講当初に設定していた目標」を事前にノータシしていなかったため、目標の到達につき受講生とうまく意思疎通がとれなかった。各項目の評価数値はすべて4以上の評価であり、一定の水準は超えていたように思う。「さまざまな事例に触れながら考え方を深められる点。分かりやすかった。判例や大山先生の支持する学説、その批判説などさまざまな学説にふれることができたため、色々な視点から考えることができました。学説や判例の解説が丁寧で、先生の主観も入ったりして理解しやすかった。休憩があること。解説が丁寧だったこと。よく理解できた。講義内容を話す適切なスピード、興味深い内容。パウポの内容を読むことで教科書の内容が理解しやすくなった点。事例をもとに説明して下さったことが良かった」等の肯定的意見がある一方、視覚教材の使い方が不適切、照明の使用方法が逆だったと否定的意見も賜った。視覚教材の適切な使用方法、照明の適切な使用方法に留意したいと考える。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政救済法（応用）
授業コード 44B98-001
教員名 榎原 秀訓
教員コード 100548
登録人数 172
回答数 46
回答率 26.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

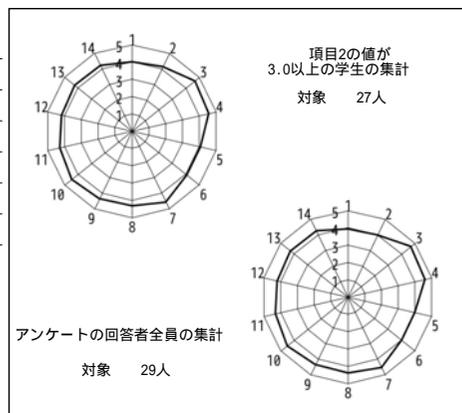


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、2020年のオンラインによる授業から久しぶりの授業評価となる。回答数は、2019年と2020年が21であったので、46という回答数はそれらに照らすと倍以上に増加しているが、履修登録者も倍以上なので、率として増加しているとは言えない。何故こんなに回答が少ないのかは不明である。本科目の目的は、公務員試験などの受験や、法務研究科や法学研究科への進学を考える学生を中心に、行政救済法において判例が展開し、より議論となっているような問題に焦点を当てて、より良く行政救済法を理解してもらうことである。回答者は、もともと勉強意欲が高い者が多いと予想されることから、過去と類似した傾向にあると思われる。例年、比較的点数が低かった設問「到達目標に向けて力がついた」が4.10から4.13、設問「質問や相談の機会」が4.05から3.96、設問「適切な指導や情報提供」も4.00から4.13とやはり他よりは低いが、全体としてほぼ同様といったところかと思う。「質問や相談の機会」については、学生自身が考えれば解決することが少なくないと思うし、メールで質問することも推奨しているので、何故「機会」が十分設けられていないと感じるのはわからない。全体の満足度は、4.35であり、事由記載も積極的評価が多いので、特に問題はないように思う。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 企業法務
授業コード 44C25-001
教員名 佐藤 勤
教員コード 101599
登録人数 140
回答数 29
回答率 20.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

定期試験の結果および設問項目の1・5・6を見る限り、開講当初の目標は達成できたと思う。

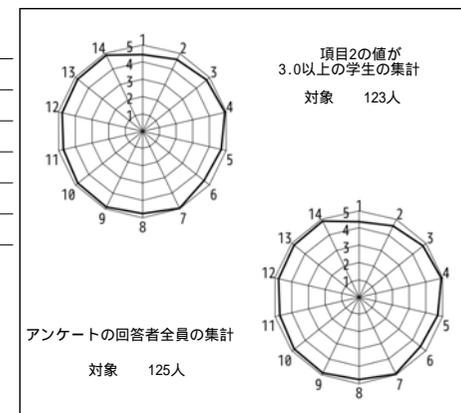
2021年度から授業内容を大幅に見直すとともに、教科書を指定しレジユメとの対比を明確化した。また、2022年度から復習用の自習課題を提供する改革を行ってきた。今年度は、これらの授業改革の定着化を図る年度であった。設問項目の2・4・9・13および定期試験の結果を鑑みると、これらの改革の成果として、授業の予習・復習・定期試験の勉強等、効率的な学習ができるようになってきたと思われる。

今後の改善点としては、自由意見にあったが、板書の使用方法について、工夫することを留意、検討する。また、近年重要になっている企業の社会的責任については、授業内容に取り入れているが、総花的な面があったので、来年度は、もう少し具体的な内容としていきたい。

なお、学生の自由意見に、授業内容が実務的内容との指摘があったが、「企業法務」という学問領域は実務に密着したものであり、本授業は、企業で行われている企業法務活動を理解することに、その目的がある。そのことは、授業でも強調したい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法と人間の尊厳7
授業コード 10D05-007
教員名 三輪 まどか
教員コード 102263
登録人数 183
回答数 125
回答率 68.3%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

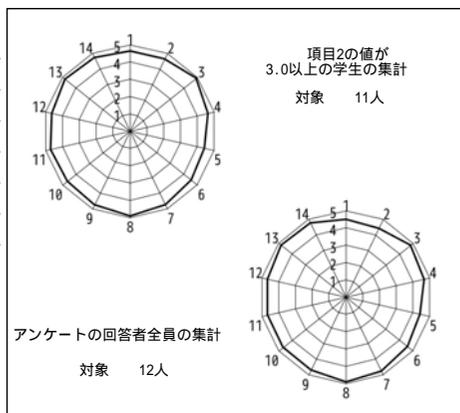
開講当初、自己決定権を理解した上で、自分らしい生き方をしたい人たちに対して、どのように考えるかをグループディスカッションし、グループ内で意見をまとめ、皆の前で発表することができることを目標としていたが、まさにこの点について、学生たちが毎週の訓練を通じて、達成することができたのではないかと考える。

実際に、数値データを見てみても、設問14で4.87の評価をいただき、項目3～14でも4.80という評価となったことは、まさに学生の皆さんもこの目標を達成できたと考えているのではないと思う。自由記述を見てみても、グループディスカッションと発表という形態は多くの学生に受け入れられ、かつ、ピアレビューの機会を設けられたことも、学生にとって多様な意見を得るいい機会になったものと思われる。一方で、時間の管理がうまく行かない回があったことで、早く終わってしまった回が数回あったこと、また人数の問題から発表の機会を得られない学生が出たこと、1度発表したら授業に来なくなる学生がいることなど、公平性においても課題が残った。

しかしながら、初の試みである、グループディスカッションとプレゼンテーションを主とした試行錯誤の授業において、皆さんがグループメンバーのお互いの意見を尊重しあい結論を出した上で、180名近い学生の前で、緊張もせず皆が素晴らしい発表を行い、そのピアレビューを行えたことは、ひとえに学生の皆さんの高いスキル、コミュニケーション能力、学習能力のおかげであり、このような素晴らしい学生の皆さんに出会え、授業をできたことにこの場を借りて感謝したい。ありがとうございました。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(総合)1
授業コード 11L12-001
教員名 山口 和代
教員コード 049726
登録人数 16
回答数 12
回答率 75.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

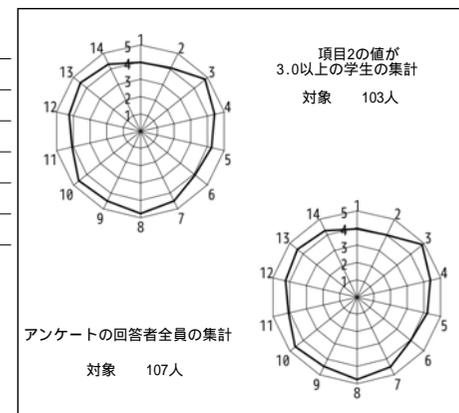


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では社会的トピックに関する基礎的な知識を学びながら、学期中に2回発表し、発表内容をまとめてレポートを書くという作業を行い、能動的学習により知識と技能を活用し身につけることを目的とした作業を行う宿題を多く課した。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、4.42から4.92という結果であった。授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感ずるかという項目が4.83、学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はあったかという項目が4.67、全体として、授業に満足したかという項目が4.75であったことから、学生たちが積極的に授業に取り組んだことが伺われる。また、教員の授業への取り組み方についてと質問の機会、課題等の事前・事後指導についても4.67、自由記述欄（授業の良かった点）にも教員と相談しながら理解できたなど肯定的なもので、授業以外の時間での準備や対応は大変であったが、学生たちが適切に受け止めて行動してくれたことがうかがわれた。以上から、授業目標をおおむね達成できたのではと考えるが、勉強することが難しいので、もっと優しくしたほしいという自由記述が1件あり、ロジックを組み立てることが苦手な学生にはさらなる工夫が必要かとも思われた。今後も学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるようにしたいと思う。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相3
授業コード 13C06-003
教員名 金網 基志
教員コード 102923
登録人数 195
回答数 107
回答率 54.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

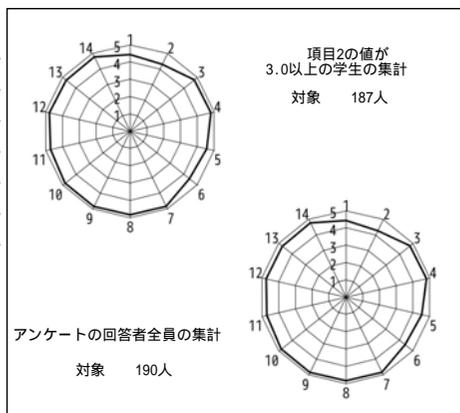


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価の結果は、ほぼ平均並みで満足できる水準のものであった。講義が教員による一方向のスタイルにならないよう、exerciseを取り入れ、教員から学生に質問を投げかけ、学生に考えさせる時間を取り、その後個々の学生にどのように考えたのかを発表させるスタイルをとっているが、このスタイルに対する評価は高い。授業評価アンケートとは別に、学生から授業に対する感想を提出してもらったが、その感想においてもこうしたスタイルの評価は高いものであった。また、授業の最初に、前回の講義の内容を振り返っており、こうしたスタイルに対する評価も高いものであった。しかし、若干丁寧に振り返りを行いすぎたため、進路が遅いと学生の自由回答欄の記載があった。今後は、こうした振り返りの時間が過度に長くないように注意していきたい。また、リーダーシップに関する講義に関連して、DVDを視聴させたが、こうした視聴覚教材を取り入れることに対する評価も高いものであった、今後も適宜、こうした視聴覚教材による講義を取り入れていきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会と文明
授業コード 46B08-001
教員名 狭間 諒多朗
教員コード 104124
登録人数 397
回答数 190
回答率 47.9%
休講回数 2 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では「 文明的な観点から各社会の社会構造を理解する」「 各社会の社会構造を理解した上で問題を解決する力を身につける」の2つの到達目標を掲げている。 については、文明論的な観点として社会学における国際比較研究の成果を紹介するように心掛け、受講生の理解も進んだと考えている。

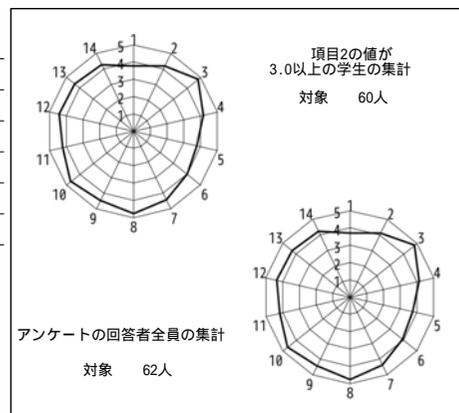
については、家族やジェンダー、労働といった様々なトピックについて講義する際に、国際比較研究を行うことがどのように問題解決につながるかを解説するように心掛け、こちらも受講生はきちんと理解できていたように感じている。

「学生による授業評価」の評価をみると、おおむね高い評価を得ることができたと考えている。特に、項目番号9の平均値が4.84、項目番号4の平均値が4.83と高い評価を得ている。これらの項目は、学生の理解度に合わせて適切な授業を行っていた結果だと思われる。映像教材の使用や前回授業の復習の時間を多めにとったことが効果的だったのかもしれない。これらの工夫が全体的な満足度の向上につながったと考えている。（項目番号14の平均値は4.75）。

一方で、自由回答をみると、他の学生と議論する時間が欲しいというコメントが複数あった。受講生が400近い大講義であり、難しい点は多いが、何らかの工夫を行って、議論の時間を作ることを検討したい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 統計学
授業コード 46D01-001
教員名 水落 正明
教員コード 102745
登録人数 160
回答数 62
回答率 38.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

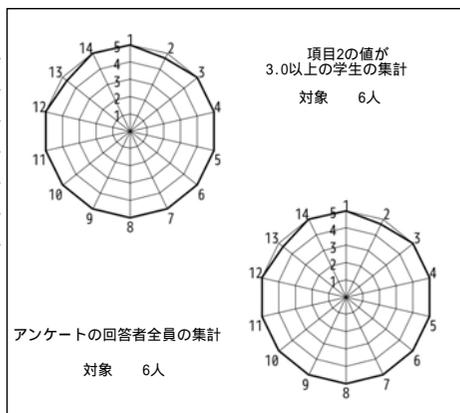


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業に対する総合的な満足度（設問14）は4.21と、総合政策学科平均4.61を下回った。全学の同規模の登録者数121～240名の平均4.42も下回っている。ただし、前回の評価（2019年Q2）では4.22であったため、同一授業としての評価は変わっていない。2018年度の同授業は、板書を中心に数式を理解し、実践として電卓等を使って計算をする形式で行い、総合的な満足度は3.96であったが、2019年度から形式を変更し、学生が各自コンピュータを使いながら、身近な例を使った統計的分析を実践する内容にしている。以前の形式よりも高めの満足度が維持できていることがわかる。他の科目と比較してやや低い満足度ではあるが、数式を含めた確率統計の理解と、関数を利用したExcelでの作業の難しさから考えれば十分な評価をもらっていると考えられる。総合政策学科で平均値が公表されている14項目のうち、平均点を上回ったのは1項目（授業の開始と終了の時間は守られていましたか）のみであった。150名以上の学生に対してTAの補助なしにコンピュータの作業を指導するのはかなり困難であったが、自由回答にあったとおり実践的な内容にしたことで、途中で挫折することなく楽しく学んでもらえたようである。ただし、進度が早いと感じる学生もいたことも事実である。一般的な統計学の講義と比べると、かなりペースを落として授業を行ったが、文系の学生には困難な内容の授業であるため、理解とのバランスを取るのには依然として難しく改善が必要である。本授業の目標は統計学の理解と分析技術の習得であったが、レポートの出来を見る限りでは、ある程度達成したと言える。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	INTERCULTURAL BUSINESS ANALYSIS <国際科目群>
授業コード	46E02-901
教員名	O'CONNELL, Sean
教員コード	100448
登録人数	7
回答数	6
回答率	85.7%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

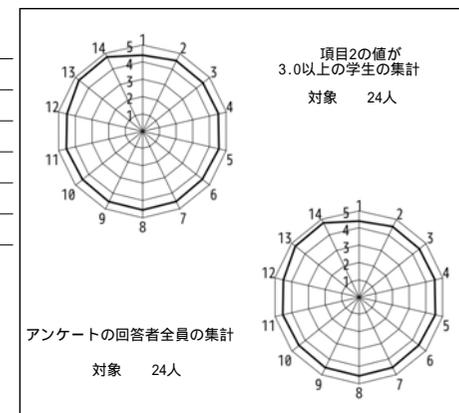
This course focused on the analysis of intercultural business communication. Students studied the frameworks of intercultural communication and cultural intelligence. These frameworks were used to analyse a variety of multicultural workplace case studies using a regular pair-work and group-discussion active learning approach. The goals set for the course were: (1) to be able to understand and use the frameworks of cultural intelligence and intercultural communication, (2) to be able to analyse multicultural workplace dynamics effectively, and (3) to be able to present findings and provide suggestions for multicultural work teams.

Based on the numerical data and student comments, the class goals were not only met, but students were extremely satisfied with the course content, as shown by the 4.95 average. The interactive nature of the class contributed significantly to this evaluation and the students were genuinely interested in learning how to use the knowledge gained in each class.

Some students mentioned that they would have enjoyed even more challenging content, so in future classes I will endeavour to ask if students want more of a challenge during the course itself.

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政策の現場からC
授業コード	46G03-001
教員名	前田 洋枝
教員コード	102264
登録人数	42
回答数	24
回答率	57.1%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

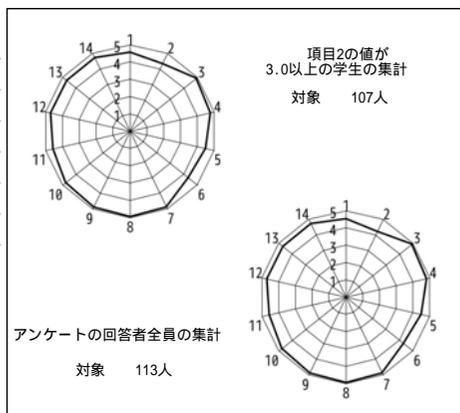
この授業の目標は、1. 人の活動に起因する環境問題の発生過程および付随して起きる問題（貧困など）について、説明できる。2. 行政、事業者、メディア、NPO、市民が果たしてきた役割や協働の成果について理解し、現在どのような課題があるのか説明できる。3. ごみ問題をはじめとする環境問題の解決に向けたさまざまな主体の協働の点で、今後目指すべき社会の姿やその社会を実現するための具体的な取組を他の受講生や講師と共に考え、提案をすることができる。という3点であった。学生たちのグループ討議結果の発表やレポートからは、多くの学生は十分に授業目標を達成することができたと考えている。

授業評価の質問項目に対する回答の平均値は、4.3点台から4.7点台といずれも比較的高かった。自由記述では、グループ討議でさまざまな学年の学生が同じグループとしたことで、異なる学年の学生と一緒に討議することにより多様な価値観・意見に触れることができたり、討議結果の発表を求められることで考える力を養うことができたこと、現実場面をシミュレートしたゲーミングにより楽しみながら学びを深めることができていたことが良かった点として挙げられていた。また、複数のNPOから講師に来ていただいて話をさせていただいたことも実際に活動されている方から話を聞いたことが良かった点として挙げられていた。

残念ながら一部に遅刻をしたり真面目にグループ討議などに参加しなかったりした学生がいた件は、来年度はより一層、毅然とした対応をとるようにしたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織行動論
授業コード 46K05-001
教員名 久村 恵子
教員コード 100026
登録人数 196
回答数 113
回答率 57.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

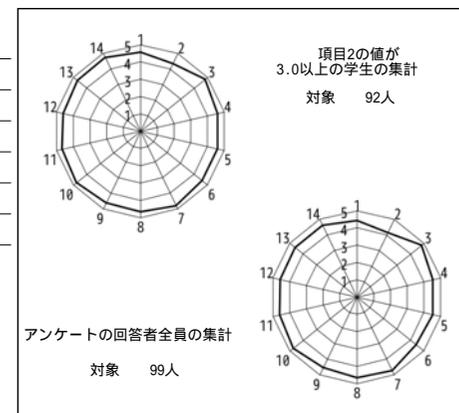
本授業では、組織行動論にて個人レベル、集団レベル、組織レベルで研究されてきた理論や知見を理解すると共に、これらの理論や知見を用いて私たちの社会で生じている問題を考えることを目標にしている。具体的には、組織行動論の主要トピックスであるモチベーション、ストレス、リーダーシップ、組織開発に関する学術的理論や知見を社会問題や日常生活での様々な事象と関連づけながら説明し、組織行動論への理解を深めてもらえるよう努めた。

本年度は、2022年度と比べ、設問1～設問14の平均値が4.67（昨年度4.63）、設問3～設問14の平均値は4.72（昨年度4.69）と若干高い結果となった。また、例年以上に多くの自由記述も寄せられ、「資料や説明が分かりやすい」、「内容が面白い」、「復習や課題のタイミングが適切」、「WebClassによるアンケートが楽しかった」など肯定的な評価が得られたことより、本年度も授業運営および全体として肯定的な評価が得られたと判断できよう。

しかし、主体的な学習に関する項目（設問2）は本年度も項目全体で最低値（昨年度と同じ4.21）であった。だが、大学全体の値（4.13）よりは高く、また「レジュメ資料とスライド資料」と書き込み式のレジュメ資料がダウンロードできることにより予習・復習が捗った」、「トピックス単位での課題により授業内容の理解や復習に役立った、勉強の意欲が維持できた」とするコメントが多く、これらの取り組みが一定の評価を得ていると判断できる。その一方で、授業の進行速度については「適切、分かりやすい速度」とするコメントと、少数であるが「授業の進行速度が遅い」とする相反するコメントが寄せられ、さらにレジュメ資料への改善要望も寄せられたことから、これらの点について次年度は履修生の反応などを見つつ検討し、授業内容と構成、運営についてさらに改善を図っていきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済政策論
授業コード 46M04-001
教員名 鶴見 哲也
教員コード 102265
登録人数 279
回答数 99
回答率 35.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

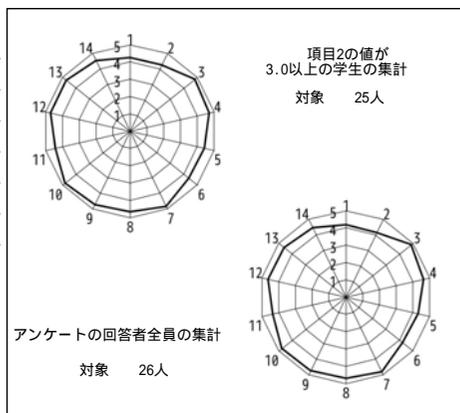


授業評価結果を踏まえた点検・評価

同人数帯（240人以上）の講義の設問1から14の平均値が4.45であるのに対し、本講義は4.57であり、おおむねよい評価を得たと考えている。開講当初に設定していた目標と到達の程度については、学生の自由記述欄および最終レポートより、授業内容に関する理解は良好であり、また政策を考えるという目標についても一定の水準を超えたレポート内容となっており、良好な結果が得られたと考えている。授業内容は最新の内容を含めてアップデートをしているが、他の授業と基礎的な部分が共通することもあり、基礎知識の部分の説明が重なることがある。この重複について冗長であるという自由記述があったが、初めてこの授業を受ける学生もいることから、ある程度の重複はやむを得ないと考えている。しかし、説明の仕方をできるだけ変えるなど工夫をしていく必要があると考えている。授業時に参考となる文献を多数紹介していることについては、おおむねよい反応があったので、今後も続けていきたい。今後は、新たな情報をより追加し、より興味を持ってもらえる講義にしていきたいと考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治行動論
授業コード 46N08-001
教員名 野口 博史
教員コード 100473
登録人数 91
回答数 26
回答率 28.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

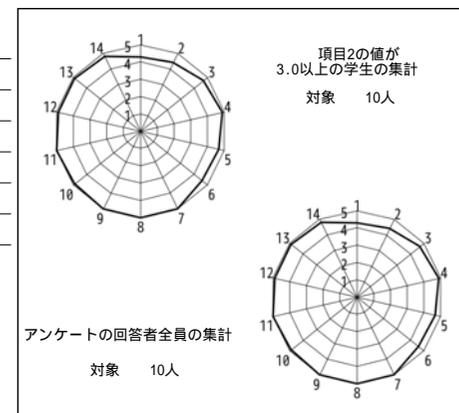
本講義は体系論にもとづく政治の法則および理論の説明であり、第2回から第6回講義において、体系論の基礎を説明し、第8回から第13回にかけては、比較政治学・国際政治学における主要研究成果の法則性と可能な理論的説明をおこない、また政治体系の国際比較法についても実例をあげて説明した。結果として、定期受験者82人のうち、単位取得者79人、うち38人が優秀な成績をおさめており、講義の目的はおおむね達成し得たと考えている。

授業評価における各項目の平均値は2021年度および22年度と同型的であるが、項目1から14の平均値は4.37、4.42、4.53と微増しており、項目3から14の平均値も4.45、4.49、4.59と同様である。各項目ともとくにめだって低い評価はなかった。

自由記述欄において、改善すべき点の指摘はなく、従来の長期的課題であった早口の問題も、おおむね解決しつつあると思われる。来年度も本年度と同様に講義に努めてゆきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境科学
授業コード 46N24-001
教員名 大八木 英夫
教員コード 104123
登録人数 24
回答数 10
回答率 41.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

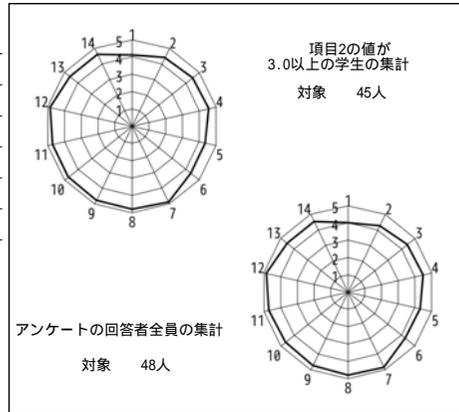
本授業では、環境科学に関する各専門分野の知識を横断し、自然環境と人間との関わりを科学的に探究し、現代社会で生じている地球環境問題についての理解を修得させ、多岐にわたる専門分野における情報（数値）がもたらす意味を基礎的事項として授業を展開させた。内容については、常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れつつ、日本だけでなく世界の各地の情報を提供しながら、学生の意欲を引き出すことに努めた。

アンケート結果からは、2022年度に比べて進行速度や構成について評価された。また、概ね学生からの対応は良好で、特に、「（学生の）積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」についての評価はよい。これは、例年に比べ、学生自らが実施する演習形式の講義内容を多めにしたため、その満足度が高まったものと思われる。

今後に向けては、気候変動などの時事ニュースは常に変化していくものであり、今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら、環境科学や地球科学、自然地理学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し、環境科学の基本論理の講義を介して、環境について自分で考える能力を身につけさせることをさらなる目標としたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境思想論
授業コード	46N28-001
教員名	太田 和彦
教員コード	104469
登録人数	236
回答数	48
回答率	20.3%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度

開講当初の目標は、「環境正義」の概念を受講者に理解させ、具体的な事例を用いて理論と実践の橋渡しを図ることでした。到達目標の理解度は4.33という評価を受け、期末レポートの出来も良好だったので、目標の大部分は達成されたと考えられる。

数値データおよび自由記述等を踏まえた担当科目に関する総合的な自己点検・評価

数値データを見る限り、授業姿勢や学生への配慮、質問への対応などが特に高い評価を受けている。一方で、シラバスなどを通じて講義内容に興味を持ってもらうことが今後の課題と言える。自由記述の意見を総合すると、リアクションペーパーの使用・質問への回答や、講義録画の提供など、学生の理解や参加を促す工夫が評価されていることがわかる。これらの取り組みは、学習をサポートする重要な要素として機能していると実感している。

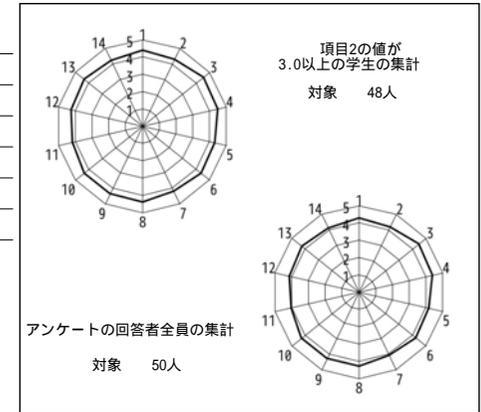
次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

改善点：事前に関心を抱かせるシラバスの工夫。
今後の抱負・方針：引き続き、リアクションペーパーを通じた学生との相互作用、動画提供を維持したい。

学生からの貴重なフィードバックに感謝します。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アルゴリズムとデータ構造
授業コード	54A07-001
教員名	横森 励士
教員コード	101114
登録人数	158
回答数	50
回答率	31.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の基本的な方針として、ソートアルゴリズムについて、その考え方と手順をわかってもらえるかを最優先として、授業内容を組んでいる。実際のところ、プログラムはその考え方を実現しようとしたときに必要以上に複雑になりやすいので、まずは考え方と手順をわかってもらうことを最優先として、プログラムはそこからついてくる形にしている。最終的な試験に相当するレポートに関しても、その部分を中心的に問うており、ちゃんと理解できているかを図る場にしたいと考えている。

実際のところ、試験で問うよりはレポート課題のほうが全体的に広い範囲で問題を出しやすく、理解度を図るにはレポートで幅広く問題を解いてもらうほうがいいのかなと思っている。採点の手間があるが来年度以降もレポート課題を採用しようかと考えている。

基本的には、評価項目についてすべての項目で4以上の値が出ており、受講した学生からは好評であったと考えているが、自由回答の項目にもあった通り、出席率があまり高くなく、それらの学生への対応が必要であると考えている。そのあたりは来年に向けての課題としたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報モデリング

授業コード 54B06-001

教員名 蜂巢 吉成

教員コード 019448

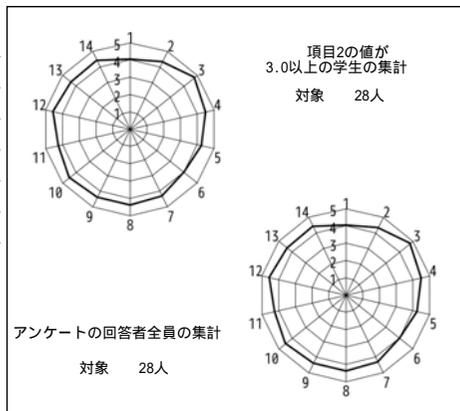
登録人数 178

回答数 28

回答率 15.7%

休講回数 0 回

補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は学部3年生を対象とした科目である．基本的に毎回授業の前半に講義をし，後半に演習問題を出題して，解答および質問の時間を設けた．授業の最初に前回の演習問題の解説を行なった．資料はWebで提示した．

毎回の演習問題とレポート3回で成績評価を行なった．開講当初に設定していた目標に，多くの学生は到達していたと考える．

授業中に授業評価アンケート回答の時間を設け，講義資料のWebでも回答するように案内したが，回答率は高くない．全学共通の設問1～14について平均値は4点を超えている．自由記述欄の評価できる点(設問15)として

先生が生徒の質問に丁寧に一人一人回答していたこと。
先生が親切に質問に答えてくれること。
演習問題の難易度がちょうどよかった。

など，演習問題についての対応が好評だったようである．
改善した方がよい点(設問16)の記述はなかった．

来年度は授業の出席やアンケートの回答を増やすような方策を考えたい．

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 統計学概論1

授業コード 50A30-001

教員名 白石 高章

教員コード 102104

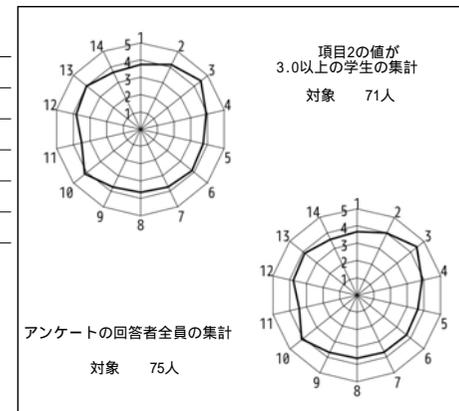
登録人数 138

回答数 75

回答率 54.3%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



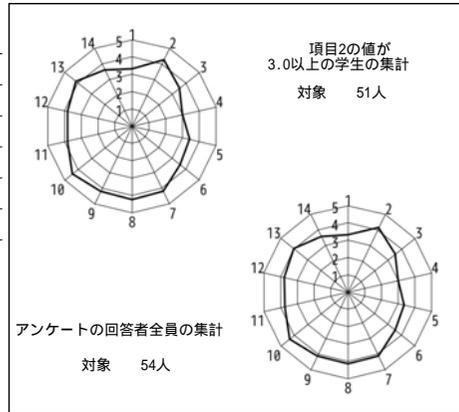
授業評価結果を踏まえた点検・評価

自著のテキストの特長は以下である。(1) 確率の基礎は，論理の綺麗な部分である。この理解を容易にするために，数理論理学(記号論理学)の初歩を説明することから始める。(2) 統計学の理論の構築に，微分積分学と行列の知識が頻繁に使われている。使われる直前に，高等学校数 からの微分積分学と行列の内容を説明する。(3) 本書では，定義や定理の直後に，それに関係した難しい演習問題を配置している。これにより，順を追って円滑に理解できるようにしている。

上記のテキストを使って，学生が，統計の数理による基礎が身に付くように講義を行った。具体的には，可算無限の事象，可算無限の確率測度，可算無限の条件付確率，分布関数と特性値，正規分布の特長づけ，2次元確率ベクトル，2次元分布関数，2次元正規分布の性質，標本基本統計量，相関分析，単回帰分析を説明した。その他の補足部分は，pdfファイルにし，白石のホームページからも見るようにし，授業前に配布した。また，毎回演習問題を与え，レポートとしてwebclassに提出させた。レポートとして提出後，問題の解答を講義中に行なった。大学の教育では，解法テクニックを覚えることが良いことではなく，自らが考え問題を解決する能力を身に付けさせることが重要である。評価の結果も配慮し今後の他の科目の教育にも役立てていきたいとは思っている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 微積分学II[TS]
授業コード 54A02-001
教員名 小市 俊悟
教員コード 101691
登録人数 102
回答数 54
回答率 52.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

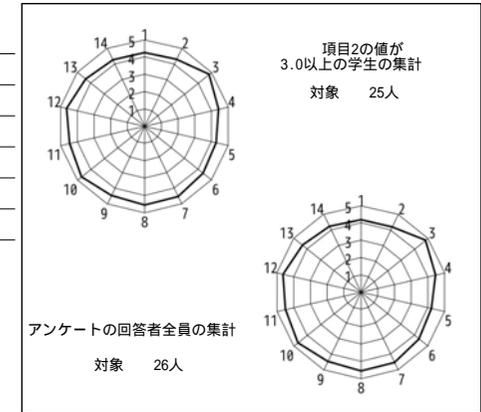
微積分学Iに続く微積分学IIでは、主に1変数関数の積分、微分方程式、確率変数・正規分布を身につけることが目標となる。演習もあって、真面目にやれば、それ相応の力がつくと思うが、定期試験の結果に照らすと、目標の一部に達していない学生もいることがわかる。

評価項目の4について、評価が低く、授業時間・授業の進行速度について自由記述でも注文が多くつくことになったが、それは、成績評価にもかかる授業の終わりの課題に取り組む時間が十分でないという思いからだと思われる。確かに、残り時間が少なくなってしまった回があったので、反省すべきところはあるが、その一方で、そのために説明を急いだり、省いては本末転倒などところがあるし、実際、定期試験で人の話を聞いていればできるはずの問題ができていないところがあったので、学生にはあまり目先のことに囚われすぎず何が大変であるかを考えてもらい。各回の課題は、単純計算で一回あたり2,3点なので、定期試験で一問確実に解答できる方が成績には貢献するであろう。

学生の計算力の低下を感じる。大学の数学は、理論的な部分を大事にし、計算できることは前提としているところがあるので、このような状況が続くようであれば、何か対処を考える必要がある。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 統計データ解析法
授業コード 55B10-001
教員名 松田 眞一
教員コード 017566
登録人数 113
回答数 26
回答率 23.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・授業目標と目標達成度

本授業の目標は統計的方法の中核を成す推定・検定からその応用となる分散分析まで広く統計データの解析について学習することである。2023年度より理工学部の選択科目として開講されることになったが、その前身はシステム数理学科時代の統計的方法である。今回は授業資料をすべて事前にWebclassで公開するが、通常の講義の形態をとった。資料を準備した関係で説明で残った時間を数多く準備した練習問題に取り組みさせた。また、評価の対象となる9回の課題も課した。

コロナ前の2019年の統計的方法と比べると必修科目でなくなったせいかわ若干FやXが多かったが、それほど変わらなかったとも言える。若干多かったのは学習範囲が広がったせいもあるかもしれない。

・授業評価

2019年の対面の頃の回答率に戻った感じである。回答率が下がった分、全体の評価は上がった。設問3から14において全学平均を下回った設問は7問で、平均との差が大きいのは設問13, 14である。

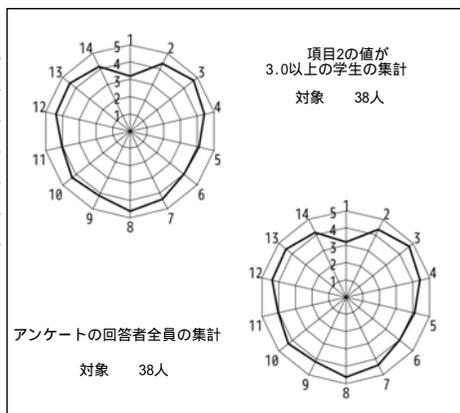
設問13は新しい知識と理解の深まりであるが、理系の科目は課題への取り組みがあるため、深く理解したと認識するのは難しい。4.35という値はそういった中で高い方であると思われる。設問14は満足度を問うものであるが、理系の場合本当に知識を得たのかは定期試験を受けて結果が出ないと安心できないため、4.23というのはやはり高い方であろう。

・次年度に向けた改善点

統計的方法と違い、アクティブラーニングを取りやめて通常の授業スタイルに戻したが、資料は事前配布されているため、昔の板書の頃と比べると評価されたものと思われる。その分、課題への取り組み時間が減り、それに対応する新たな方策が必要であると感じた。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[B]1
授業コード 10C01-035
教員名 宮澤 元
教員コード 019422
登録人数 50
回答数 38
回答率 76.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

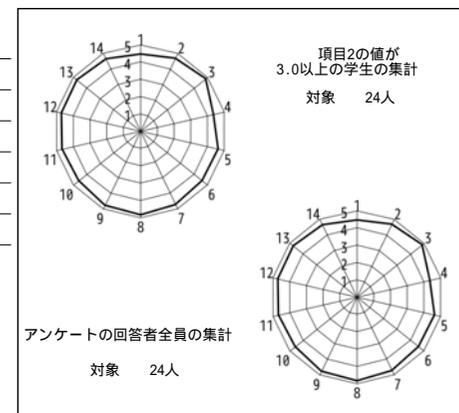
情報ネットワークを安全かつ有効に利用するためのモラル、関連する法律、自衛策、さらに、それらの理解に必要な最低限の技術的事項について、講義およびe-learning、グループディスカッション、発表を通じて理解を深めることを目標とした。設問1以外の項目が4点台で、目標はほぼ達成できたと思う。

設問13・14の結果から科目で目標とする知識・技術は十分伝わったと考える。自由記述でも情報倫理について考えたり確認できたことを評価する意見があった。e-learningやグループワークも知識や技術の習得に役立った様子がうかがえる。レポート課題量に関する改善意見が複数あったが、自主学習を担保する意味で現状の量程度はやむを得ないだろう。発表時の質問人数を減らして効率化すべきという意見があったが、発表において質疑応答は非常に重要であり同意できない。また質問に回答しない人がおり不公平という意見もあったが、質問者・回答者は記録して成績に反映するので、不公平には当たらない。

昨年度に続き2年目の担当だったが、本科目の授業運営にはいまだに難しさを感じている。特にグループディスカッションで、学生に主体的に議論をさせつつ、うまく議論に介入する匙加減がつかめていない。今後は、聴衆の興味を引くような発表成果物を完成させることを意識させることを念頭に、議論をうまく盛り上げる手助けとなるような指導を心がけたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[HC・B]1
授業コード 10C01-039
教員名 藤井 勝之
教員コード 101244
登録人数 29
回答数 24
回答率 82.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生が知っていなければいけない情報倫理について指導を行い、自分たちの身は自分たちで守れるようになることを目指した。受講生からのアンケート評価が非常に高い数値なのは、e-learningやWebClassの教材が非常に優れているためと考えられる。

受講生から高い満足度が得られていることがわかる。

Generative AIについてのe-learning教材の追加が急務であると思われる。

【良かった点、評価できること】

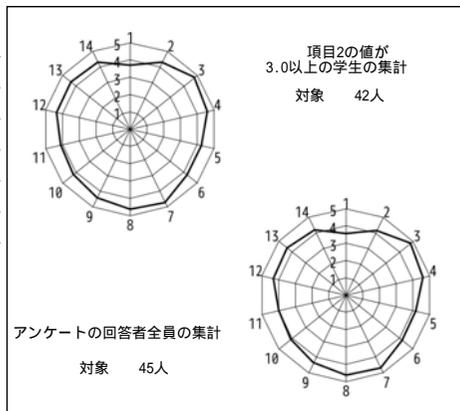
情報倫理というテーマ自体が私たちの生活に身近であり、動画などで詳しく学ぶことができた点良かった。私達が知っておくべきである情報を扱う上でのモラルについて学習できる点。グループワークを通して自分たちの意見をまとめることによって、考えることが増え、より理解が深まったと思う（同様5件）。TAがついていて、少人数学習が充実していた。また、eラーニングの資料も分かりやすく、小テストに何回でも取り組めたのでより力がついたと思います。e-learningから動画作成までの流れが予習復習に最適でとても授業に参加しやすかった。自主的に取り組まないといけなかったのが自ら取り組めるようになった。自分で授業内容をレポートにしてまとめ、発表に向けての準備においても授業内容を理解できた。学生たちが一つの問題に対し、自由にプレゼンができるような授業内容であった点。生徒自身の自主性を向上させる仕組みがされていた点が評価できる。

【改善したほうがよいと感じた点や困ったこと】

グループワークにおいて、担当を決めてもやらない生徒が必ずいて、結局真面目な生徒が負担するということが困る。動画制作の期間が短すぎる。慣れていない一回生にとってはとても負担だった。せめて2週間にしてほしい（同様2件）。特にないです（同様5件）。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	論理と集合1
授業コード	50A26-001
教員名	佐々木 克巳
教員コード	018051
登録人数	137
回答数	45
回答率	32.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

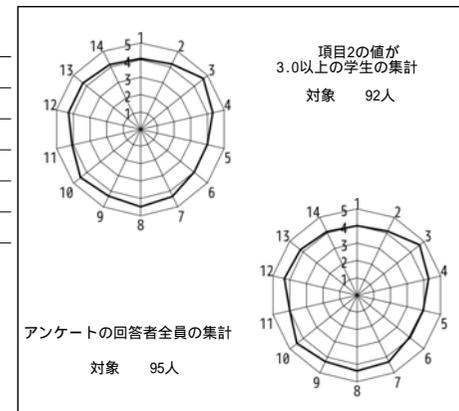
[目標]この授業の目標は、数学で用いられている基礎的な概念に対し、(1) それらの数学的表現を正しく読み取ること、(2) それらの概念を数学的に正しく表現すること、(3) それらの概念の性質を理解すること、(4) その性質の論証を定義に基づいて行うことである。運営面では、中間課題と定期試験を含め対面に戻したが、練習問題の略解を含めた講義資料の事前配布、その資料に基づく解説を主とした進行、質問時間と練習問題を解く時間を適宜設けることは継続した。

[評価] 設問3～14の平均は4.37で例年通りである。設問15には、[目標]で述べた、説明・解説・配布資料の丁寧さやわかりやすさ、質問への対応、授業時間に適宜練習問題を解く時間を設けたことなどの肯定的なコメントがあり、[目標]で述べたことが反映されたと考える。これらは昨年までと同様である。今年度はとくに、その説明の内容について具体的に触れるコメントもあった。対面での質問の対応が可能となった結果と考える。一方、設問16の否定的なコメントは2件（白板のみにくさと話す速さ）で、より注意したい。授業をよりよくするための提案もあり、練習問題や課題を増やすといった内容であった。対面になり課題提出を減らしたが、その影響と考える。また、昨年までの、手書きの文字についてのコメントは、(対面になったことから)今年度はなくなっている。理工学部独自の設問では、設問21と設問22では、35%割以上が3または4を選択し、1を選択は0名であり、達成度が確認できる。

[今後の計画] 冒頭で述べた運営方針がうまくいっていると考える。設問16にあった提案も検討しつつ、今後も継続していきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	通信ネットワーク基礎1
授業コード	50A31-001
教員名	奥村 康行
教員コード	101219
登録人数	151
回答数	95
回答率	62.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

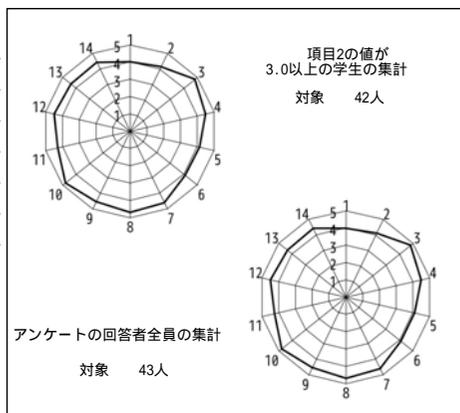


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標： 通信システムの基礎知識を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度： 約80%の受講者が目標を達成した。
3. 担当科目についての授業評価： 評定値は学部科目平均より少し良いレベルだった。自由記述のうち改善を希望された項目は、配布資料が見にくい文字が見にくい(1)、板書を減らして配布資料にあらかじめ内容を書いておいてほしい(1)、逆に講義でカバーしない内容は配布資料に書かないでほうがよい(1)、解説を詳しくしてほしい(2)、であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として、課題の解説が適切(3)、説明がわかりやすい(14)、質問に対し適切に回答してくれた(1)、聞きやすい(1)、ホワイトボードが見やすい(6)などがあり、これらは今後も継続する。
4. 次年度の改善方針： 解説を詳しくしてほしいという要望があったが、具体的にどの説明が要望されているのかを講義のあとに教えていただけるとありがたい。また、現状では配布資料の記述を板書で詳しく解説するスタイルをとっており、資料に講義内容をほぼ書いておくより講義ペースが適切になると考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データベース
授業コード 56B05-001
教員名 石原 靖哲
教員コード 103810
登録人数 176
回答数 43
回答率 24.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

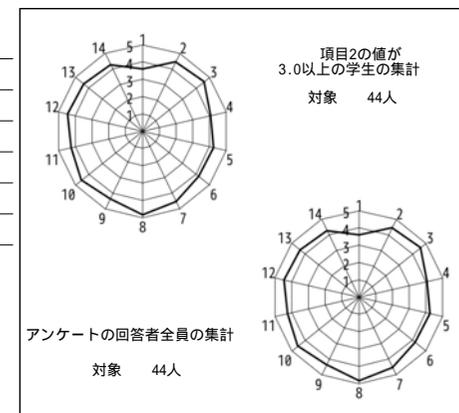
今年度初めて担当する科目であり、過去にもこの内容の科目を担当したことはなかったため、さまざまな不安を抱えてのスタートだった。そのため、目標のレベルとしては低いが、各回の内容が授業時間100分に対して多すぎたり少なすぎたりしないことや、電子的に配布している資料のアップロードが授業直前になったりしないことを最低限の目標として実施した。結果としては、それら最低限の目標は十分にクリアできただけでなく、授業自体も丁寧にこなしたという手ごたえを感じている。

自由記述でもらったコメントとしては、「説明がわかりやすかった」「授業の動画のアップロードがありがたかった」など実施方法に関するものばかりであり、「授業がおもしろかった」「授業内容に興味をもった」といったコメントがなかったのが大きな反省点である。実際、毎回の出席者数は受講登録者数の半分弱程度しかなかった。教える側に余裕がなかったのが大きな原因であると考えている。

シラバスに記載した到達目標に対応したミニレポート課題を計4回出題することで、学生が自主的に考え理解を深めることを促した。また、一方的に講義を行うだけでなく、貸与PC上でデータベースシステムを動かすことも経験させた。これらは来年度も継続していく考えである。それに加えて、「データベース」というものにもっと興味をもってもらえるような仕掛けを、これから1年近くをかけて考えていきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[T]1
授業コード 10C01-051
教員名 張 漢明
教員コード 049627
登録人数 50
回答数 44
回答率 88.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達程度について
以下の観点について概ね達成することができた。

- ・ インターネットによる通信とコンピュータの発展に伴う「情報」の取り扱いやコミュニケーションに関する知識や特性を学習することにより、情報革命の社会的な意義と自分の行動に社会的責任が伴うことを理解する。
- ・ ピアレビューやグループワークの議論を通して、自分の意見を伝えることおよび相手の考えを知る大切さと難しさを理解する。

総合的な自己点検・評価

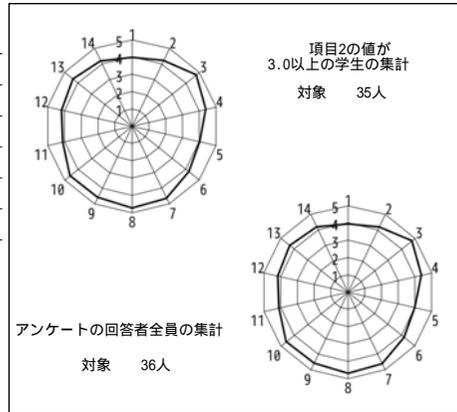
- ・ グループワーク中に議論の目標を提示して、掲示板を用いてグループ毎にテーマについて具体的にコミュニケーションを図ったことが、状況把握と議論の促進に有用であった。

改善点、今後の抱負、方針

- ・ 発表時の質疑応答に時間をかける割合が多くなる傾向があったので、発表の振り返りを十分に用意することができなかったことが反省点としてあげられる。質疑応答の配分を工夫する必要がある。
- ・ 学生はテーマを設定することに苦労しているように感じられる。具体的なテーマの発想を促すために、過去の発表例や適切なテーマ例の提示により発想支援に役立てる。
- ・ 発表では「目的」が重要であることを理解する工夫をする。発表で何を伝えるかを「1文」で記述することにより、目的の重要性理解の支援に繋げる。
- ・ 「方法」は目的に応じて変わることを伝える工夫をする。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 機械・材料力学
授業コード 57B05-001
教員名 稲垣 伸吉
教員コード 104255
登録人数 141
回答数 36
回答率 25.5%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

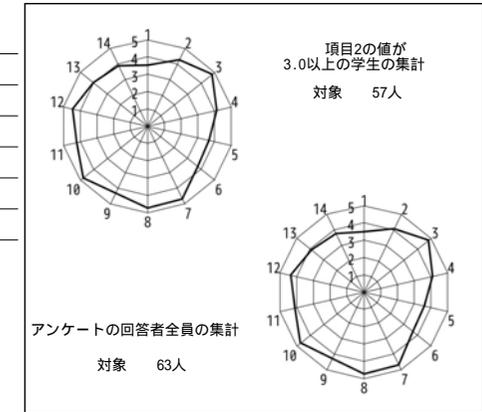
開講当初に設定していた目標は、機械システム工学の基礎となる機械力学、材料力学について基礎理論を学び、かつ演習問題を通して知識を身につけることである。理工学部として初めての材料力学に関する授業であり、授業のレベル、進捗度合い、演習課題の軽重が不明であったが、授業内容に興味を示す学生が多く、多くの学生に機械工学の技術者として身につけるべき材料工学の知識を獲得させることができた。

設問1～14の平均点が4.39であり、学生に授業内容への興味を持たせ続けながら十分な教育ができたと考えられる。一方で、自由記述には、授業時間内で質問時間が十分でなかったことや、用意した資料全ての説明ができなかったことが書かれており、授業内容の調整が今後必要である。

今回は初めての機械・材料力学の授業とすることで、試行錯誤的な授業の進行であった。本アンケートや期末テスト、レポートの結果を基に、次クォーターにおいては授業内容の見直しを行う。特に学生との対面での質問時間を作れるよう、授業内容と授業の進め方を見直す。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[HA・HP]1
授業コード 10A01-002
教員名 VOLPE, Angelina
教員コード 000167
登録人数 110
回答数 63
回答率 57.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

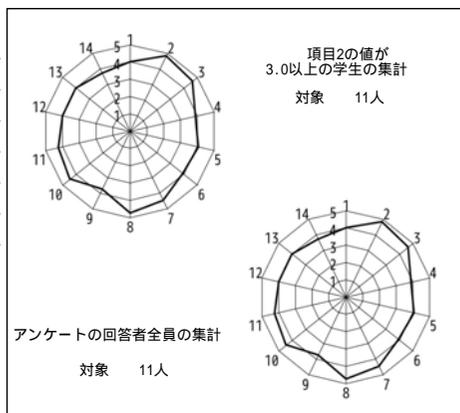
本講義の目標である：1. 宗教学の専門的アプローチに重要性を見出している。2. 真理への人類の探求について考察を深めている。3. キリスト教はまず宗教ではなく、兄弟愛を中心にする人間学であることを発見するに関して、学生の講義内容の理解に対する個人的な努力は別として、到達したと言えます。特に第2に関しては、最終レポートの中で、学生の多くが真理の探究は特定の宗教範囲に制限されている課題ではなく、人間の心の中から自然に湧いてくる神秘的な要求であることを発見したと言います。

設問項目とレーダーチャートを分析すると、3つの項目の平均値の中で最も数値が低いのは、項目番号1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」(3.48)、項目5「この授業の到達目的を理解することができましたか」(3.60)、項目番号6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」(3.65)の3点でした。項目1に関しては、学生は宗教に対する自由な探求心が薄く(高校までの教育によるものと思われる)、むしろ「胡散臭い」イメージを持っていることが原因であると思います。ここで教員は、宗教は人類の遺産であり、本物と「偽物」を見分ける必要があることをもっと説明すべきでしょう。つまり、批評的に物事を考える必要性を訴えることです。項目6については、大学において勉学への情熱が足りないとも推測できますが、教員がその情熱と興味、関心を学生から引き出し、それを育てる必要があると思いました。項目5に関しては、一年生の履修者にとって、テスト式の1+1=2のような答えが出ないレッスンに直面し、戸惑ったことでしょうか。今後とも、大学の講義は出来上がった回答を求められる場ではなく、自分の理性と知性で考え、共に「到達目的」を建設する楽しい場所であることをより深く学生に教える所存です。

この授業におけるもっともポジティブな点は、学生が自発的に質問し感想を伝えてきたことです。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language D<国際科目群>(英米学科生用)
授業コード 31C14-901
教員名 村杉 恵子
教員コード 019034
登録人数 29
回答数 11
回答率 37.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

最終試験やリアクションペーパーを見る限り、多くの学生については開講当初に設定した目標はおおむね到達したと思われる。

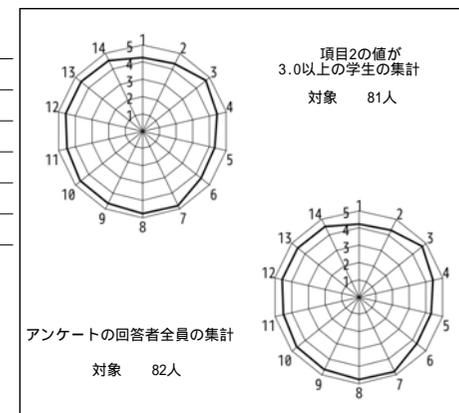
全体的に平均評価は4前後のようである。定員超過ではあったが他学科からの強い受講希望も受け入れる措置を教務課に相談して始まった開始2回目、英語のみによる授業は聞きやすいが、内容が十分に理解できないとする意見が開講科目学科受講生からも多く出された。シラバス内容を確認し、受講生と話し合い、弱いものに寄り添う全体の利益として、英語と日本語との両方のテキストを用い、両言語で説明を加える工夫を施す対応をすることとした。リアクションペーパーには毎回理解した内容を記させ、理解と授業法について確認し、不十分な場合には次の授業の冒頭で復習し、予定された内容講義を終えた。

学生は約10分の英語による口頭発表を行った。教員はリアクションペーパーに記された質問や悩みを確認しつつ、それぞれの発表後には2 - 3点のコメントを与え、学生はそれを参考に最終レポートを英語で作成した。英語を用いて学生同士でコメントしあうタスクも楽しかったようである。ほとんどの学生が、コミュニケーションと言語、言語の音韻的・統語的特性などの授業と関連したトピックから興味のある題材を自由に選び、先行研究を調査し、自身で発見した事実とその分析を行い、英語でまとめるという方法論を習得できた。また口頭発表では、機材準備も含め10分以内にし、最終試験では、授業の趣旨やコメントを活かすなど真摯に学ぼうとする学生に恵まれた。

に比して、プレジャリズムの基本倫理や、「なぜ」を問い、経験的事実について抽象的に分析する基本の難しいケースもあった。全体としては和やかに真剣に取り組む学生が多く、英日語による説明や全員へのコメントなど教員側の努力も報われたクラスであったことに感謝する。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 契約法B
授業コード 44B18-001
教員名 平林 美紀
教員コード 100773
登録人数 276
回答数 82
回答率 29.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



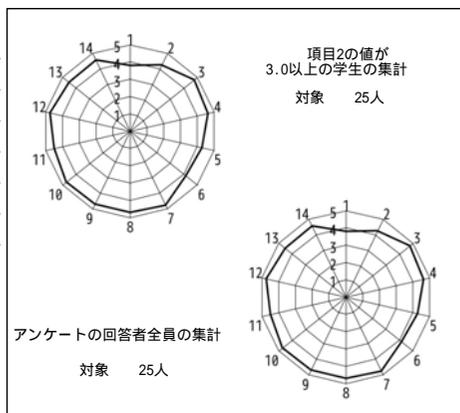
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、売買契約を除く各種の典型契約について講じつつ、契約をめぐるトラブルへの民法による対処法を理解させることを目標とした。授業計画では、和解等の「その他の契約」についても論じる予定としていたが、授業の進行が遅れたため、役務提供契約の概論を講ずるところまでしか進めることができなかった。この点は反省点であり、各回の授業進行スピードを早める工夫を次年度以降はしなければならないと考えている。

ただ、授業評価項目4(構成や進行速度)の数値が4.45であり、同じく項目9の数値(学生の理解への配慮)の数値が4.65であることや、自由記述解答の中に丁寧な説明を評価する意見が多数寄せられていることから、履修する学生にとっては理解のしやすい進行速度であるとも思われる。そこで、単にスピードを早めたり、繰り返しの説明を省略するのではなく、難易度の高い話題を思い切って削除するなどの見直しが必要かもしれない。なお、板書の字が汚く見にくいという意見が例年よりも多かったように思う。その点はお詫びしたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	担保法
授業コード	44B92-001
教員名	深川 裕佳
教員コード	104089
登録人数	81
回答数	25
回答率	30.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では民法第2編「物権」（条文では175条から398条の22まで）のうち、講学上、担保物権としてまとめられる分野（295条以降）について、判例・学説を踏まえながら、その基礎理論および制度内容を理解し、具体的な事例問題を解決できるようになることを目的としたものであり、これに沿って、以下の能力を養うことを到達目標として設定した。

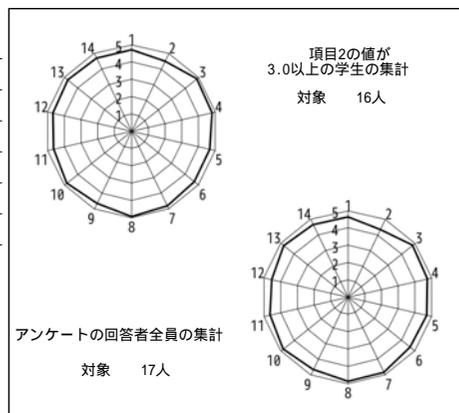
1. 各制度の概要を理解し、具体的な例を挙げて、それを説明することができる。
2. 用語の意味を理解し、具体的な例に即して、それを説明することができる。
3. 適切な条文を適用して、具体的な事例問題を解決することができる。
4. 判例および学説を踏まえて、自己の見解を述べることができる。

受講生は、おおむね、この授業の到達目標を理解することができ（回答平均値4.28）、受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をし（回答平均値4.24）、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じたようである（回答平均値4.52）。これはひとえに受講生の努力によるものであるが、自由記述を参考にすると、レジュメの事前公開、講義内での確認テストの実施と解説が自習に役立つようである。全体的には、本講義について、受講生のおおむね満足が得られたようである（回答平均値4.56）。

本講義において上記のように学生の満足が得られたのは、自習用の資料の提示と、自己の学びを復習するための確認問題によって、受講生自身が努力した結果であると思われ、次学期以降も、受講生の自習をサポートできるような資料を補充していきたいと考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	教職入門4
授業コード	15A02-004
教員名	笹尾 幸夫
教員コード	103858
登録人数	24
回答数	17
回答率	70.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

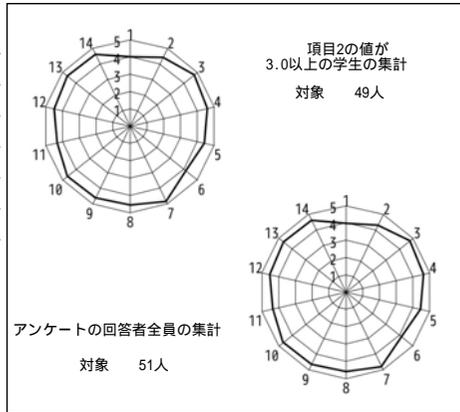


授業評価結果を踏まえた点検・評価

担当する授業の変更により、初めて「教職入門」を担当したが、すべての項目で4以上の評価であった。前半は、大学の教職課程や教師に関する知識を与え、後半は、興味・関心のある教育的課題について毎に調査し、これをまとめて発表させる取組（プロジェクト発表）を実施した。学生の評価は、レポート、プロジェクト発表、授業参加度で実施したが、概ね良好であった。知識を与える授業においては、学生同士の討論の時間を設け、授業の最後には、毎回、課題を与えて学生個人の考えをまとめさせ提出するようにした。学生は、討論することを比較的高く評価しており、来年度以降、討論の時間をしっかりと確保していこうと思っている。教育課題を調査する際、ほとんどの学生がパソコンを持参して調べていたため、すべての机にコンセントを設置して欲しいという学生からの要望があった。教職課程を希望する学生の最初の授業であり、これからも教師の魅力が少しでも学生に伝えられるように工夫していきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学校教育概論1
授業コード	15A18-001
教員名	五島 敦子
教員コード	101282
登録人数	58
回答数	51
回答率	87.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標と到達度および総合的な自己点検・評価

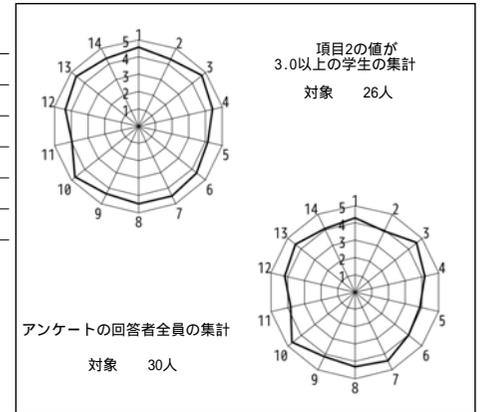
本科目は、教職課程における「教育の基礎に関する科目」のうち、「教育の理念並びに教育の歴史と思想」を理解し説明できることを目的としている。普段の生活にはなじみのない内容であるが、設問5は4.47、設問14は4.61であったことから、目標を十分に達成したと考えられる。また、設問7が4.80、設問9は4.63、設問13が4.63であったことは、授業運営が機能的で、学生の理解度に十分に配慮して進められたことを示していると考えられる。自由記述では、良かった点として「みんなで授業に参加できる雰囲気」「先生が元気」「先生が丁寧」「グループワークが多い」「発言の練習ができる」「常に思考を巡らせながら授業を受けることができた」「小論文の練習ができた」とあった。グループ・ディスカッションや視聴覚教材の活用など、アクティブラーニングの手法を取り入れたことがよい評価につながったと考えられる。

2. 今後の改善点・抱負・方針

設問14は4.61であり、特に低い評価項目もみられないことから、大きな課題はないと思われる。ただし、自由記述の改善すべき点として「マイクがききとりにくい」「スライドの切り替えが早い」といった要望が挙げられていた。教室の携帯マイクの接続が悪く、使わないときもあったため、指示が聞こえにくいときがあったと思われる。また、階段教室はグループワークには適していないうえ、人数のわりに教室が狭かったことも一因と思われる。学生が満足する教室環境を整えることができるよう、今後は、逐次、学生の要望を確かめながら講義をすすめたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語II <E・B>1
授業コード	11G02-004
教員名	陸 心芬
教員コード	101225
登録人数	32
回答数	30
回答率	93.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q2の授業目標であった基礎文法の習得や基礎会話ができることについては、学生による授業評価の設問項目平均値がほぼ4を超えており、おおむね達成できたと考える。

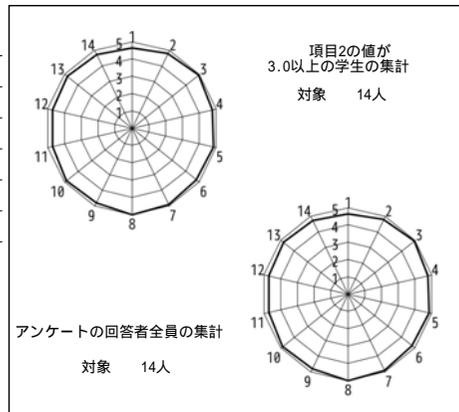
授業評価集計の設問11の平均値が3.83で一番低い数値を示していた。授業に遅れが出る学生に対して指導はしていたものの、学習意欲を引き出すまでには至らなかったように思われる。今後の課題として工夫していきたい。

授業の「良かった点」においては「声が聞きやすかった」「楽しく授業を受けられる」「色々な会話や単語をしれる」「授業プリントがわかりやすく復習しやすかった」「たくさん発音練習ができたこと」が書かれており、授業の方向は学生に合っていたと考える。

授業の「改善点」においては「覚える単語が大変」「少し授業形式を変えて楽しくできるようになったらいいと思います。韓国映画とか見たいです」「授業の進みが早い」「丸暗記と言うのをやめてほしい。覚えてくださいと言ってほしい。パワーポイントに映し出された韓国語の例文に日本語をつけてほしい」「文法の説明のスピードが速いなと感じました」が挙がっていた。これらを踏まえて、Q3では学生のニーズに合わせて可能なことをやっていきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(読解)1
授業コード 11L17-001
教員名 山口 薫
教員コード 019406
登録人数 15
回答数 14
回答率 93.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

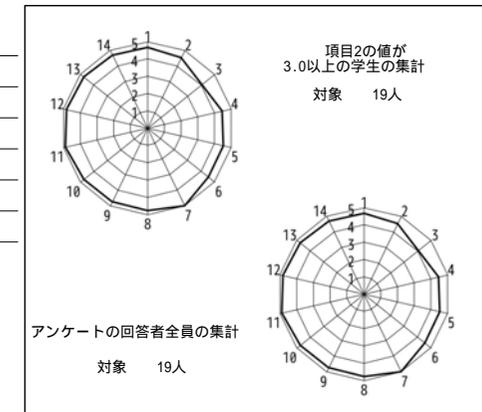


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、文法の時間に習った文型や表現を活用して、留学生が日本語で書かれた文章の内容を正確に読み取れるようになることである。授業評価の集計結果と実際の到達度を同等に考えることはできないが、項目3から14の平均値の高さ(4.82)から、本授業の目標は概ね達成されたものと考えられる。特に、設問5(到達目標の理解)、設問7(担当教員の授業に取り組む姿勢)、設問9(学生の理解度への配慮、教材の適切さ)、設問13(新たな知識や技術の獲得、理解の深まり)などの項目で高い評価を得たのは、担当教員として嬉しい限りである。自由記述のコメントを読んでも、「先生は教えることに情熱を持っている」「新しい言葉や漢字ばかりでなく、日本の文化、社会などについてもいろいろ学べた」「授業の内容が面白かった」「PPTでわかりやすく教えてくれた」「質問したら丁寧に答えてくれた」などの評価が多く、受講した学生たちの満足度の高かったことがうかがえる。一方、「改善したほうがよいと感じた点」として、「テストの前に、もっと練習する時間があつたらよかった」との意見もあった。これは恐らく「質問に対する答え方など、テストで評価する前に、もっと練習させてもらいたかった」との意見だと思われる。十分な練習がないままいきなり評価されると学生はストレスを感じるであろうから、来学期以降は、このような点にも配慮しながら授業を進めていきたいと考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化との接触5
授業コード 13A02-005
教員名 佐々木 陽子
教員コード 019695
登録人数 29
回答数 19
回答率 65.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

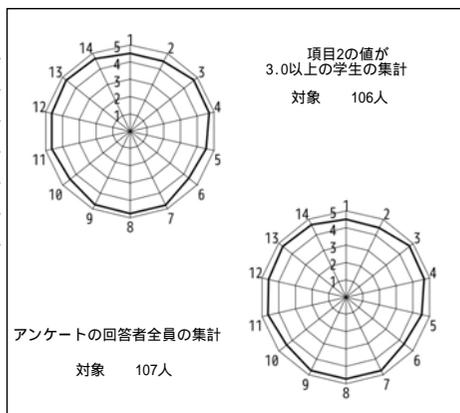


授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年までと同様テーマごとの豊富な資料提示に加え、対面授業が全面解禁となった今年是对話的ワークショップ実施という、受動学修と能動学修のハイブリッド展開により、当初目標への到達度は十分に達成されたと考えている。回答については平均4.66/4.67と高く「毎回の授業が楽しかった」との記述さえあった。近年全国的に能動学修への期待が高まっており、自由記述(項目15)にその傾向が確認された。対話的設営は非常に有益な経験となったようで、従来地域対話事業として展開してきた対話のためのワークショップの手法が生かされたと考えている。さらに多文化体験として学内外国人留学生との「やさしい日本語」の実技演習を設営したが、留学生との交流は授業後も続いているとのこと、実技の追加了承に関し教務課のご手配に深く感謝したい。学生グループワークにおいては帰宅後もラインを用いて共同作業したとのことで、テーマに関する関心の高さおよび教育手法との合致が見て取れたうえ、授業終了後も教卓へ集まる学生、教室内に分散して議論を続ける学生が毎回多数いる状況で、学習意欲と参加度は常に高く、授業前後の学習も充実していた。授業時間最後のまとめ作業と質疑応答の時間配分に一層気を配り、長きに及ぶことが予測されるか、一定の時間外質疑を求める学生がいる場合は、全体解散の指示を確実に行っていきたい(改善点)。能動学修には不慣れた学生向けもかねて、毎回の学習項目を確認するウェブサイト設営も併せて整えていきたい(次年度の追加的工夫)。
グループごと分散して活動する際に複数教室を確保して頂く等の教室配置をはじめ、視聴覚機材不調時の支援、留学生との実技追加設営の際の教務調整など、教務課の皆様にも多々支援いただいた点に深く感謝します。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 健康科学論
授業コード 12D09-001
教員名 畑山 知子
教員コード 101969
登録人数 293
回答数 107
回答率 36.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

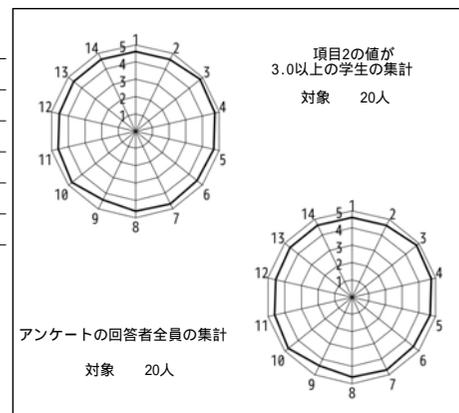
学生の評価から、シラバス記載の到達目標の1については、講義やレポートへの取り組みを通して概ね達成できたのではないかと思う。目標の2については、もう少し基礎理解を促すような構成、資料の工夫の余地があると考えられる。

自由回答に「健康に関する話題を、他人事ではなく自分事であると思えるような講義の仕方だった」という感想があった。これは授業計画に際して最も重要視している点である。健康は身近なトピックであり、自身を中心に捉えることが容易な課題であるが、その関連領域は広く、大学生にとっては自身とは遠い社会の問題だと思っていることが、実は密接に自身の生活や健康とつながっていることも多い。視野を広げること、また自分事として向き合うことができるよう工夫したつもりである。また、webclassを活用し、自身の知識や考えを、講義を通して深める試みも学びの一助になっていることが伺えたことから、数値の評価と合わせ、概ねこの授業の目的は達せられたのではないかと考えている。

今期は約300名の受講生間で異なる学年・学部の学生同士の対話を試みた。クラスでの様子に加え、事後の感想からもその充実ぶりが伺えた。学生諸君が複雑な着席指示を理解しスムーズな授業運営に協力してくれたことについて、この場を借りてお礼申し上げる。今後もトピックの選定や対話の充実を図る工夫を重ねたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ科学演習A
授業コード 12D10-001
教員名 中路 恭平
教員コード 015255
登録人数 24
回答数 20
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

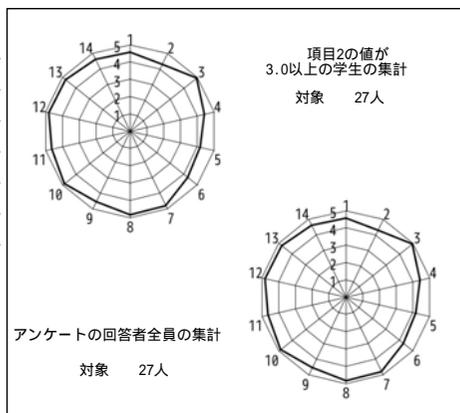


授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標としていた「1. スポーツ・マネジメントの基本概念について理解している」、「2. 社会における様々なスポーツ事業の種類と方法論について理解している」については、自分で課題を調べ他の学生と情報交換しあうことによって、知識の深まりができたと思われる。「3. スポーツ事業のイベントを企画することができる」に関しても、自分たちで実際に企画したスポーツイベントを体験し、振り返りを行うことによって、理解が高まったと思う。しかしながら、最終課題としてのレポートを読むと、学生はまだまだスポーツイベントの経験が乏しく、実際に起き得ることに対する予測や運営に配慮すべき事項についての考えが浅いことを再確認せざるを得なかった。これに関しては、スポーツ経験や指導経験そのものの経験値が浅いことによるものと思われるが、過去の当科目受講者においては、もっと秀逸なレポート提出者もいたので、今回はやや消化不良感が否めない。ただし、受講学生に1年次生が大半を占めていたこともその一因かと推察される。当授業科目は今年度が最後となる。受講生の評価は、自由記述も含めて概ね良好であった。担当者としても楽しく終えることができ、安堵している。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語学入門
授業コード 22C01-001
教員名 久米 啓介
教員コード 104805
登録人数 32
回答数 27
回答率 84.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達度

本授業は、言語学の中でも特に統語論と言語習得に焦点を当て、基礎的な概念・用語や研究法を理解することを目標とした。最終課題の出来から判断すると、概ね目標は達成できたと思われる。

自己点検・評価

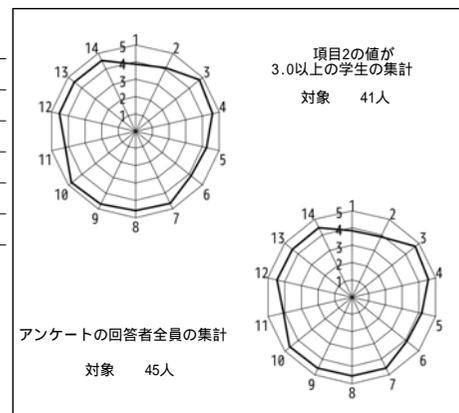
アンケートの数値データは、授業構成・進行速度に関する項目が本授業が含まれる人類文化学科の平均をやや下回ったことを除いて、すべての項目で平均を上回り、比較的高評価であったと言える。ただ、反省点は、基礎的な内容を扱いながらも、授業中の演習や事後課題ではやや発展的な内容も盛り込んだこともあり、入門レベルの授業で扱う内容としてはやや高度過ぎたようであることである。それにより、理解が追いつかず、進行速度が速すぎると感じた学生が多かったのではないかと考える。一方良かったのは、毎回座席を変えながらペアやグループで演習に取り組んだことにより、学生同士で学び合うことで、1人で学習するよりも内容の理解を深めることができた点である。また、毎回出た学生の質問や要望に可能な限りすべて答えるようにしたことや、授業資料を講義用のウェブサイトですべて見られるようにするなどしたこと、安心して学習に取り組めたという声も多く、これらの工夫は効果的であったと考える。

今後に向けて

まず、扱う内容を再検討し、もう少し難易度を下げること、学習内容のさらなる定着を図りたい。協同学習や学生からの質問や要望に丁寧に対応することは教育効果が高いと思われるので今後も継続したい。また、講義用のウェブサイトの内容もさらに充実させ、学生がより安心して学習に取り組めるように努めたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の文化人類学
授業コード 22C10-002
教員名 加藤 英明
教員コード 151456
登録人数 135
回答数 45
回答率 33.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

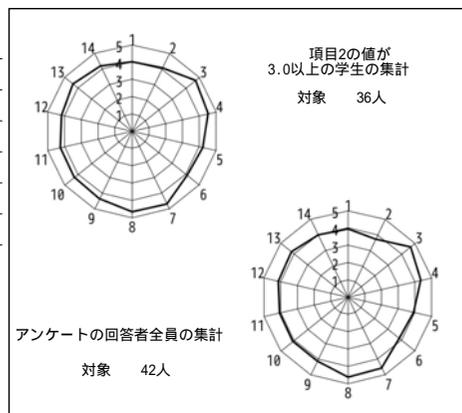
授業では、(1)人類学の観点から現代のモノづくりの特徴を説明できる、(2)私たちの足もとに広がりつつある人類学の動向とその可能性を理解できている、の2点を到達目標にたてて講義をおこなった。リアクションペーパーと最終レポートをもとに確認したが、おおむね達成できたと思う。とくに(1)については、ミクロなわざ理論や身体技法を踏まえたレポートが増えており、学生の関心が高い分野も確認できた。

データをみると、前回同様に、項目1と2が、それぞれ3.82、3.89とやや低くなっている。前回の反省を踏まえ今回はシラバスを書き変えたのだが、逆に難しそうという印象を与えてしまい(リアクションペーパー感想より)、うまくいかなかった。来年はよりわかりやすく内容を書き変えるほか、項目2についても、学生が主体的に取り組めるように改善したい。自由記述では、肯定的なコメントとして、扱うトピックが面白い、理論と事例のバランスが良い、フィードバックに力を入れているなど、授業内容・構成面が好意的に評価されたようだ。一方でマイナス面として、出席のとり方、授業資料としてアップしたPDFに書き込めない、パワポ資料が淡泊など、授業環境面の指摘がいくつかあったので今後、修正していきたいと考える。

来年度も今回の内容を継続しながら、新しいモノづくりのテーマを加え、さらに授業環境を改善し、学生にとって良いものを提供していきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代の考古学
授業コード	22C12-001
教員名	木村 有作
教員コード	104607
登録人数	89
回答数	42
回答率	47.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

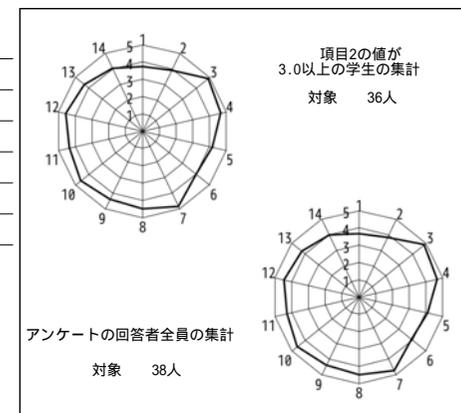
普段の学生生活からでは、触れることない埋蔵文化財について、自分の経歴を通じて語ることで学生に知ってほしかった。方法としては、自分の経歴の順に名古屋の埋蔵文化財行政の歴史をたどり、その中で名古屋市の遺跡＝埋蔵文化財を紹介していく方針だった。大学の講義としては、少し違和感のある方式だったかもしれないと思ったが、14回の講義を積み重ねることで少しでも名古屋の遺跡及び歴史について意識してもらえることを目標とした。出席チェックを兼ねて毎回感想文を書いてもらうことで、ある程度は学生に埋蔵文化財の知識は浸透したのではないかと思う。

アンケートを見ると、自分の懸念していた不安な要素を学生が感じていたことが判った。話のスピードが遅くメリハリがないのは、授業への準備が足らず話しがとっ散らかってしまったと反省する。また、自分の経験談に終始過ぎ、自慢話のようになってしまったことも厳しい評価へつなげていると思う。少なくとも学生の学問的向上心に対し、十分な対応ができていなかったのではないかと反省する。反面、自分の身の回りや足元に今まで知らなかった遺跡や歴史を知ることができてよかったという感想については、講師を受けた甲斐があったと思っている。

もし、今後、チャンスが与えられるならば、この2年間の授業の反省を生かし、埋蔵文化財や名古屋の歴史についての理解を学生が深めてくれるよう講義に芯を作っていく。我々が曲がりながらも積み上げてきたものを、次の世代に理解してもらい、継げるものは次いでほしいと願っている。何より、別の世代と学問について語るのはとても楽しいと思える。この機会を作ってくださった上峯先生をはじめ、大学関係者の感謝したい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	東アジア考古学C
授業コード	22C40-001
教員名	伊藤 正人
教員コード	104262
登録人数	77
回答数	38
回答率	49.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

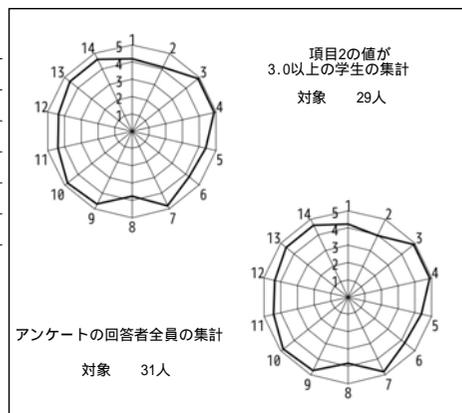
縄文時代・縄文文化に関する基礎的な知識を確認し、関連する諸科学の情報も合わせて、その内容を現在の社会・生活と対比することで各自が興味を深めて欲しいと考えた。人類文化学科の学生が多いが、考古学の専攻生は限られると思われ、他学部・学科生も2割強いることから、考古学の基礎的・一般的情報も混えるよう努めた。表題（縄文土器・土偶論）が掲げる専門的情報とのバランスの取り方に難しい面はあるが、一律な達成度・具体的目標を設定してはいいないので、各自の問題意識のあり方を最終課題の記述意識・内容によって評価した。

アンケートの回答者が受講者の半数をやや上回る程度で、平均値が学科平均をやや下回る状況は、批判的・否定的評価がある程度存在することを予測させる。構成や進行速度に大きな見直しの必要はないものと考え、配布資料の構成など見直す部分はありそうである。到達目標の理解やその修得に対する評価が低いことへの対応は、個別の基礎知識に応じて講義情報の幅を広げる必要を感じる。学問的成果への接近と実生活との関わりをわかりやすく盛り込むことに努めたい。

講義は14回全体での構成を基本としているが、各回の内容において成果を実感し理解できるように各論的構成も意識し配布資料との関連を強化したい。考古学の基礎知識を踏まえての理解が必要となる部分については、受講者総体の知識や理解力の把握に努めて、補足説明などを行っていききたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義（アジア・日本の人類学）
授業コード	22C76-002
教員名	菅沼 文乃
教員コード	150333
登録人数	118
回答数	31
回答率	26.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

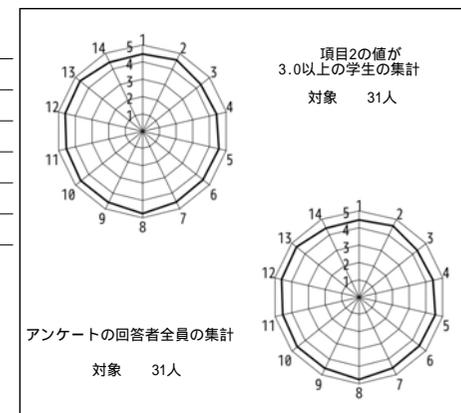
開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
開講当初に設定していた到達目標前年度に引き続き、沖縄地域の歴史・文化・現代的状況を学ぶことを通して文化人類学および民俗学の学術的アプローチを身につけること、また沖縄地域についての受講生の関心を深めさせることであった。このために、各回の講義について要点をつかみやすく振り返りやすい構成を意識し、適切な配布資料の作成、および映像資料等を積極的に用いることで講義の理解を促した。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
上記の目的・狙いについて、おおむね達成することができた。課題としては、まず学生の講義への関心に関連する項目があげられる（アンケート設問1、2）。またアンケート設問項目8（授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。）について大いに改善の余地がある。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
アンケート設問項目8については、教室機材の適切な活用をめざす。そのうえで、積極的に講義に取り組もうと思える授業内容の作成および提示、参考資料、関連情報等のより適切な提供方法について検討する。講義内容の深化・洗練だけでなく、学生の講義への興味関心を高めるために、学生との双方向性をもった構成を意識し、質問やコメントには積極的なフィードバックを行う。学生がそれぞれの関心・目的に応じて積極的に参加できるような講義内容をめざす。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域開発と人間関係I
授業コード	23C64-001
教員名	井坂 泰成
教員コード	104429
登録人数	80
回答数	31
回答率	38.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標については、1) 地域課題と対策、2) 対話の手法、3) ファシリテーターの役割 を理解し、実践することであったが、履修生の各回のレポート、並びに、最終レポート、そして、学生による評価の点数とコメントから概ね達成できたと考えます。

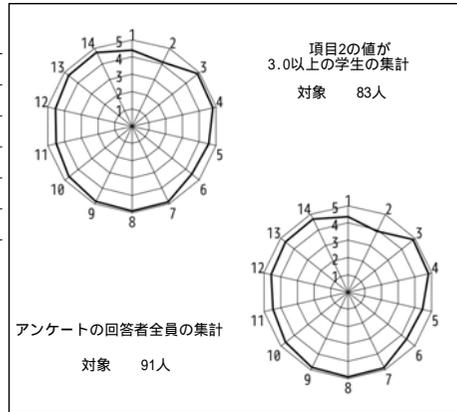
学生の評価の平均点は4.55点ということで、私自身の評価も5点満点にするなら、4.5程度ではないかと思えます。学生にとって身近な問題の設定、人間関係・対話についての多角的な内容、対話実践とふりかえり、講師自身の体験談、実践者を招いての講義等と豊富な学びを提供し、かつ、わかりやすく丁寧な進め方を心がけたつもりです。

ワークショップの進め方の説明がわかりにくかったという声がありましたので、もう少しわかりやすい説明に改善したいと思います。また、ワーク中に私がマイクで注意事項を伝えたりする際には「ちょっと聞いて下さい」など前置きをして、一旦静かになってもらうことを行いたいと思います。

授業環境について、学生の声にもありましたが、絨毯や備品等、教室の清掃がなされていないように思いました。改善をお願いしたいです。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 障害者・障害児心理学
授業コード 23C70-001
教員名 谷口 まち子
教員コード 104476
登録人数 152
回答数 91
回答率 59.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

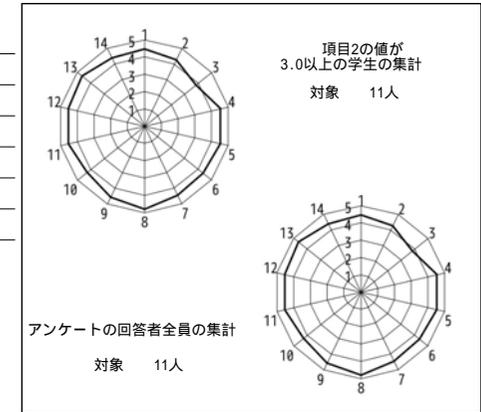
昨年度以前とは異なる教科のため、単純比較はできないが、5番の到達目標を理解し、6番の到達目標に向けて力がついてきているという項目が、3年間で最も高かった。授業内で到達目標について何度かふれ、最終レポートの課題にも反映させたことが影響しているように思われる。従って、開講当初に設定していた目的と達成の程度に関しては、概ね達成されていたと言えるであろう。

1番の履修前の授業内容への興味が、学科の中ではやや低めであったにも関わらず、13番の新しい知識や理解が深まった点、14番の満足度が高かった点、概ね全体や学科の平均よりも得点が高かった点から、1年目の教科としては比較的良い評価が得られたのではないと思われる。また、レジュメが見やすかった、映像資料が理解を深めるのに役立ったという自由記述が複数見られたことから、障害者・児について身近にわかりやすく伝えるという目標は達成されたと思われる。

初のハイブリット形式で、機器操作を何度か失敗をしてしまった。今後はスムーズに操作を行えるようにしたい。また、2番の予習復習含め、主体的に参加理解しようとするという項目のみ3年連続学科・全体の平均以下であった。他学科の学生も多く、理解度にばらつきがあったため、必須とした予習復習が少なく、任意にしていた点が影響していたように思われる。授業時間外の学習については、次年度以降の課題である。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 公認心理師関係行政論(関係行政論)
授業コード 23C80-001
教員名 相馬 信子
教員コード 104432
登録人数 13
回答数 11
回答率 84.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

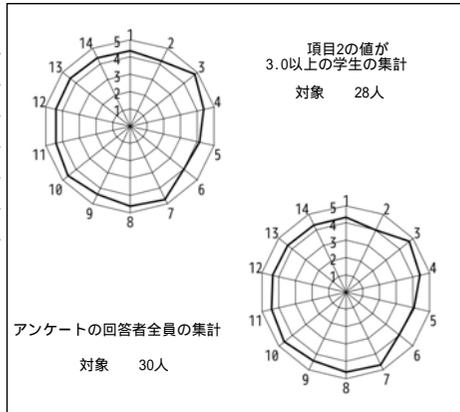


授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の到達目標に関しては、一定程度の成果が認められたと考えている。将来の選択を考えながら受講している学生もあり、主体的な学習態度が認められた。しかしながら、講義内容の範囲が多岐にわたっており、分野によっては細かい知識まで要求されることから、到達が不十分と感じられる点もあった。小テストには、知識の確認及び定着という意味合いもあり、講義を補完するものとして位置づけていたところ、自由記述からは、このように活用したことに意義はあったと思う。今後、より確実に知識の定着を図るために、復習の機会を講義内で設けることを検討したい。なお、設問及び回答については、学生から指摘を受けた点も含め、改善を行う。学生にとっては、今まで触れたことのない分野がほとんどであるため、レジュメを用意しているが、一方で受講態度が受け身となものになってしまう傾向があり、学生が興味を持って参加できるような工夫が必要であると感じている。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本美術史
授業コード	24C27-001
教員名	四辻 秀紀
教員コード	100351
登録人数	101
回答数	30
回答率	29.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

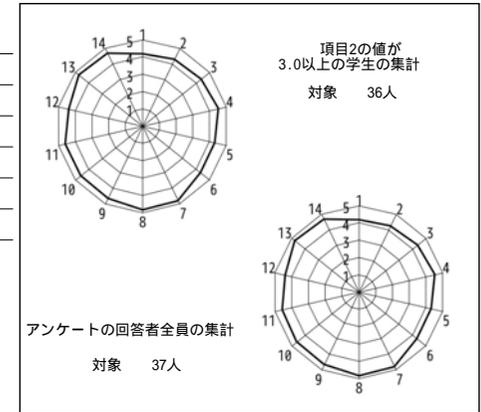


授業評価結果を踏まえた点検・評価

おおよその目標は達成できたかと思う。出版されている作品の写真だけではなく、これまで調査してきた資料写真もなるべく多く加え、授業を展開した。受講生のコメントの中で「一つの作品のことだけでなく、他の作品との関連についても論究したこと」「具体例となる作品を多く提示することで、時代背景や日本の美術世界の印象が残りやすかった」との意見も見られた。また徳川美術館の見学に行ったことが印象に残った受講生が多かった。この見学会は、生憎上南戦の日程と重なってしまい、参加できなかった受講生が十数人いて申し訳なく思っている。日本美術の本物の作品を目にする機会なので、今後はなるべく多くの受講生が見学会に参加できるように時期の設定を考慮していきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	女性と近現代文学
授業コード	24C38-001
教員名	酒井 敏
教員コード	101869
登録人数	54
回答数	37
回答率	68.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

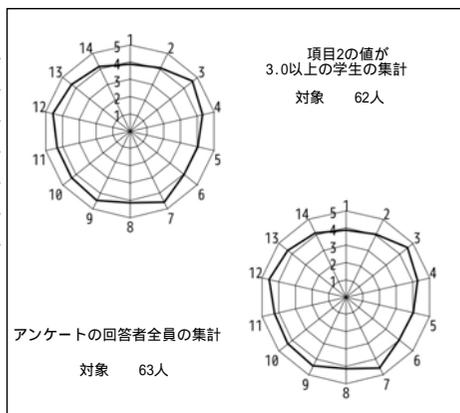
今回も比較的良好な評価をいただき、安堵しています。設問2が、平均を大きく越えたのは受講態度が積極的だった証拠。履修してくれた皆さんの向学心を刺激できたことと受け取れ、とても嬉しい結果でした。同様に設問11の評価も高く、連動しているとすれば(努力の甲斐があったわけでもあり)更に喜ばしいことです。設問13、設問14にも良い評価をいただきました。励みになります。次年度以降、これらの項目の評価が下がることのないよう、努力したいと思います。

一方、設問3や設問12の評価は平均を下回りました。非常勤なので仕方がない部分もあるとは言え、せっかく熱心に受講してもらっているのですから、「質問や相談の機会」を増やす工夫をしたいと思います。ただ、今年は例年になく授業後に質問に来てくれた受講生が多かったという印象がありました。本当は、もっとニーズがあったのかも知れません。

自由記述でも、面白く受講してもらえたことが分かる嬉しいコメントを沢山いただきました。改善して欲しい点として、映画を上映している間に机間巡視をされると気が散る、というコメントがありました。うたた寝していたりスマホで関係ないサイトを開いていたりと、注意する必要があるのですが、受講生にも協力してもらって、机間巡視の必要をなくす努力をしたいと思います。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語史I
授業コード 24C47-001
教員名 宮内 佐夜香
教員コード 104443
登録人数 100
回答数 63
回答率 63.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生の自己評価としても3.98と到達目標の達成程度は低くない。レポート評価の結果も例年と遜色は特になかった。

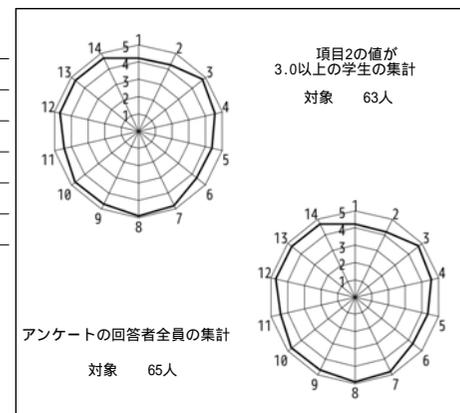
講義内容が理解しにくいと感じる学生も見られるため、説明の仕方にさらに工夫を行いたい。

抽象的な議論も多いため、質問や意見の受付とフォローには十分に気を配っており、学生の意見からもその効果はあったと考える。反面、2時限縦積みの時間割で行っていることが影響し、毎回の冒頭の質問のフォロー時間がどうしても長時間になる。その点を指摘する意見もあり、担当者としても改善を図るべきであると考えている。次年度も縦積みの場合は、トピックの切れ目ごとに質問を受け付けて都度フォローし、調査せねば分からないようなものについてのみ次回に回すなどの方策を取りたい。

本年度は例年感じられなかった出席登録に関する不正行為が目立った。昨年度まで目に見えて分かるような不正行為は、教員側からの出欠管理に関する締め付け的対策がなくても見られなかったため残念である。そうした態度は結局レポート等の成績に顕著に影響するものであり結果的に問題は生じないと考えているが、真摯に取り組んでいる学生の中にそうした不正が目について気が散ったり、不満を感じる者もいることも確かである。次年度は真っ当に取り組む学生が侮辱と感じないような対策を考えたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語分析B
授業コード 24C51-001
教員名 有園 智美
教員コード 104603
登録人数 77
回答数 65
回答率 84.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



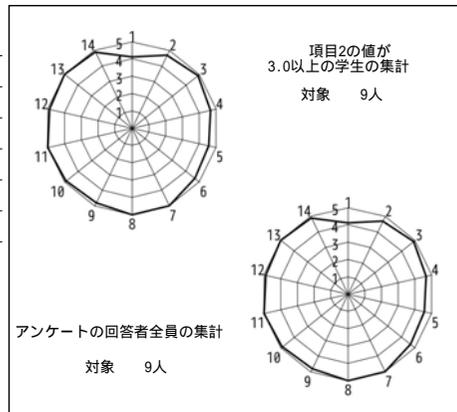
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、「異なる言語間の普遍性と相対性に関心を持っている」、「授業を通して得た知識に基づき日本語と英語の言語現象を考察できる」、「日本語を客観的に観察し、英語と比較してそれらの背後にある話者の捉え方の特徴を説明できる」の三点である。本講義ではこれらの目標到達のために、毎時、テーマに関する講義の後に、学習内容に基づき分析を行うタスクを受講生に課し、その翌週に良い回答と不備がある回答を取り上げフィードバックを行い、受講生が分析のプロセスを振り返り次に生かせるよう授業を進めた。またこれとは別に、コメントにて出された質問も全体にシェアして回答することで、受講生の理解を深め知識の定着を図った。これらが効果的であったことは、「9. 学生の理解度への配慮・資料の効果的提示」の4.69、「12. 質問や相談の機会・事前事後指導」の4.71に現れている。また、アンケートの自由記述ではこの授業構成やフィードバックに関するプラス評価が多くみられた。また、項目全体の平均は4.58、項目3 - 14の平均は4.64であり、おおむね良好であった。

一方上述の到達目標に関しては、「5. 到達目標の理解」が4.38、「6. 到達目標に対する自己評価」が4.34と相対的にポイントが低かったものの、「13. 新しい知識の獲得・理解の深化」は4.69であったため、実際には(6)の目標に対する自己評価よりも、到達の程度は高いと思われる。この点に関しては、到達目標への意識が薄かったと思われるため、今後、授業初回に目標を明示的に説明するなどして、意識を高めたい。また、12項目中最もポイントが低かったのは「2. 予習・復習」に関する項目で、4.18であった。これについては今後、授業で得た知識を発展的に応用する例などを示すことによって、自学自習を促していきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: International Studies A4
 授業コード 31B04-004
 教員名 ROBINS, Anthony
 教員コード 104759
 登録人数 25
 回答数 9
 回答率 36.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

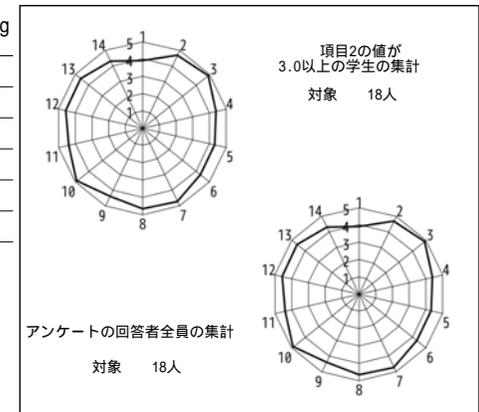


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals I set at the beginning of the classes were to expose students to aspects of UK life, both historically and at present, and to help them make connections and comparisons with Japan, as well as increasing their vocabulary capabilities and their presentation skills. Judging from students' course performance, I feel that was achieved, especially in relation to presentation skills, as I could see distinct progress from the first group presentations to the final ones. Regarding the data and comments, I feel that it was positive to see that students felt that they gained interest through the course, as responses to all questions from 2 onwards were more positive than for question 1. In addition, written feedback from one student explicitly showed that interest increased. I was particularly grateful to read the other written feedback which saw me as kind and that my seriousness and sincerity was recognized (Question 7). As for the future, I will consider the result from Question 9, where there was one score of 3 and endeavour to make sure that all students in future courses gain optimum understanding and that materials and assignments are used as effectively as possible.

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language C
 授業コード 31C13-001
 教員名 SHILLAW, John
 教員コード 100560
 登録人数 37
 回答数 18
 回答率 48.6%
 休講回数 1 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

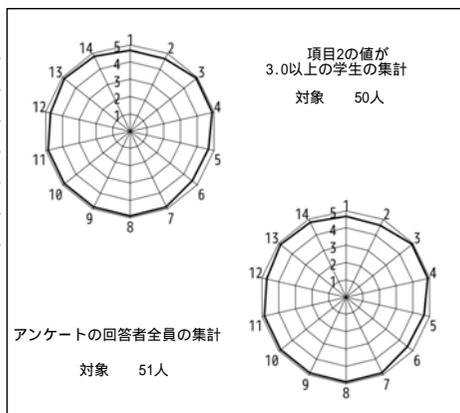
The Special Topics in English: Language C course is concerned with the History of the English Language. The principal goal of the course is to introduce students to changes that English has undergone since its establishment in the 5th century up to the present day. An important secondary goal is to show how the history and cultures of English speaking nations have influenced English and made it the global lingua franca.

The course follows a chronological course with important changes in the language summarised through extensive written support. Each class includes sections from a video series that focuses on linguistic changes and/or one that focuses on the use of the language throughout history. The course content is extensive and requires a significant amount of input and I'm very conscious that some students find the required reading tasks to be onerous.

Overall, despite the amount of work students are required to do, I believe that most of them find the course to be interesting and the feedback I get from most students at the end of the course is very positive. Unfortunately, I have taught the course for the last time. It's one I will really miss teaching.

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語音声学
授業コード 31E17-001
教員名 中郷 慶
教員コード 104472
登録人数 58
回答数 51
回答率 87.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「授業当初に設定していた目標と到達の程度」については、当初の予定通りに到達できたと考えています。

設問1から設問14への回答の平均値は4.80で、設問ごとの平均値は、最少が4.68（設問2、設問6）、最大は4.94（設問3）でしたので、特に大きな問題もなく授業を運営できたと認識しています。

設問2（受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか）と設問6（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）については、昨年度ももっとも低い値でしたので、もう少し、予習や復習などの課題を多く出した方がよいのかもしれません。

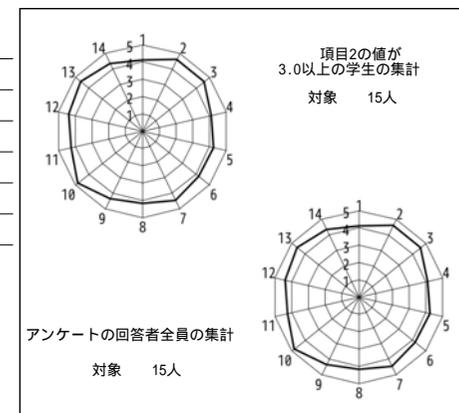
自由記述では本当に多くのご意見をいただきました。心から感謝しています。英語音声への理解が深まったこと、実践的な練習の機会が多かったこと、説明がわかりやすかったことなどの意見が多くありました。わたし自身の授業の意図や目標、授業を進める上でのさまざまな工夫などが学生に肯定的に受け入れられ、よかったと思います。

改善した方がよいと感じた点として「発言する学生が偏ってしまうので、もう少し、発言させる学生をばらけさせた方がよいと感じた」というコメントがありました。個々の学生にじっくりと回答を求めたり発音してもらったりする場合と、できるだけ多くの学生に当てるのは、授業の内容によって変わります。「声に出して練習する時間が授業内でもっとあるとより身につくと思った」というご意見もいただきましたが、授業内での解説や練習の時間は十分に取っていますので、練習が必要な場合は、授業外でやっていただければと思います。

今年度は特に熱心に受講する学生が多く、わたし自身、とても楽しんで授業をさせていただきました。ありがとうございました。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済学
授業コード 31E21-001
教員名 栗原 裕
教員コード 104294
登録人数 42
回答数 15
回答率 35.7%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。到達目標は次の2点でした。

1. 国際経済・国際経済学、金融に関する知識、基礎的な考え方や理論を修得し、それらについて説明することができるようになる。
2. 上記に関わる国際経済や国内経済の諸問題が理論的に説明できるようになる。

おおむね達成できたように思いますが、若干の受講生の皆さんにおいては、その度合いが満足いくものではありませんでした。

設問番号5・6の評価も高くはありませんでした。

「暗記」に頼らざるをえなかった受講生が、若干ながらもいたようにも思います。

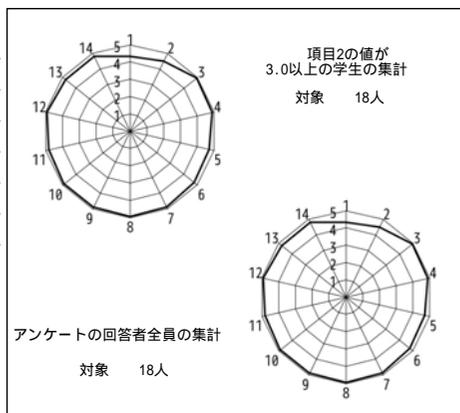
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

上記を除いて、項目番号1、4、8、11の評価が高くありませんでした。コロナ禍でグループワークなどを控えたこともあったかもしれませんが、こちらの工夫により、望ましい方法を取り入れることができたのかもしれません。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など安全・安心な環境を維持しつつ、受講生の皆さんの創発が期待できるような授業にしたいと思っています。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語圏思想特殊研究A
授業コード 32C39-001
教員名 安藤 真次郎
教員コード 104611
登録人数 21
回答数 18
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

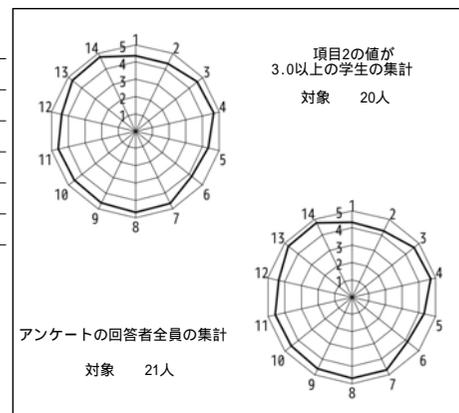
概ねシラバス通りに授業を進めることができた。また到達目標として4つのテーマを掲げたが、毎授業時に行った確認シート、および最終レポートを確認したところ、すべての学生が到達目標に到達していることが確認できた。

設定項目とレーダーチャートを確認したところ、最も低かったのが項目1の4.33で、それ以外は4.50から4.94であったことから、学生からの評価は概ね好評であったと考えている。自由記述の項目15では、しっかりとしたレジユメを準備していたことや、写真資料・映像資料・音声資料を多く準備していたことで、授業を理解しやすかったというコメントが複数見られた。また項目16と17に関するコメントはなかった。

「スペイン語圏思想研究」というやや難解な印象を与える授業であるので、できるだけ学生たちがアプローチしやすいシラバスを作成したい。また授業内においても、パワーポイントや映像・画像資料を利用しながら、各時代の重要な出来事や思潮を説明し、代表的な知識人や思想家についてよく理解してもらえるようにしていきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの政治
授業コード 33A08-001
教員名 長谷川 一年
教員コード 103576
登録人数 49
回答数 21
回答率 42.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初の目標は、「現代のフランスが抱える諸問題を理解し、グローバルな観点から考察することができる」というものであった。授業はおおむねシラバスどおりに進行し、フランス革命から两次世界大戦を経て、戦後の第四・第五共和政に至るまでのフランスの政治・社会史をたどることができた。また、とりわけ現代フランス政治における最重要課題である移民問題について、ドイツやアメリカとの類似・差異を検討するなど、グローバルな観点から考察できたのではないかと考えている。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

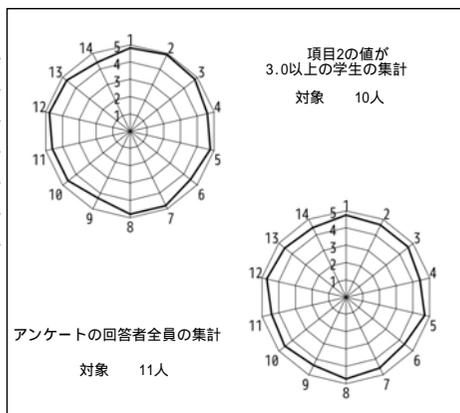
アンケート結果についてはおおむね良い評価であったと理解している。とくに两次世界大戦やアルジェリア戦争など、映像資料をもとに解説を加えるやり方は、学生にとっては効果的であったように思われる。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次クォーター・次学期以降の授業についても、これまでと同じ方針で臨みたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語I語法2
授業コード 35A07-002
教員名 趙 晴
教員コード 100960
登録人数 46
回答数 11
回答率 23.9%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標にほぼ達成したと思います。教科書自体が少し問題点があるので、学生たちにとっては難しいところもあったと思いますが、一生懸命理解して、覚えようと努力していました。講義後もよく質問していて、真面目で熱心に学ぶ学生が多いクラスです。教科書は少し分かりにくいところがありますので、講義中、私は補足したり説明したりしていましたが、学生の反応とコメントを見ると、それが良かったようです。学生のコメントは以下の通りです：教科書の補足説明が充実していて良かった。教科書の補足説明を丁寧にしてくださった。教員の解説がとても分かりやすかった。

分かって貰えて、私もたいへん嬉しく思います。

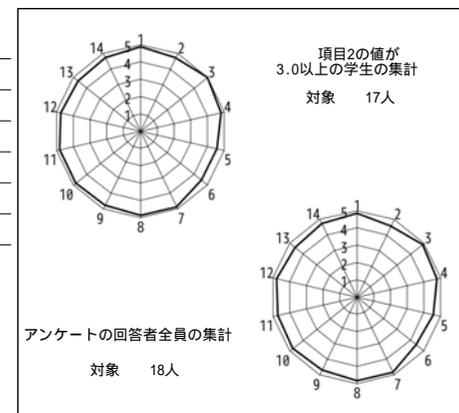
いつも思いますが、先生というのは教えるだけではなく、学生と一緒に学ばなければならないです。いままでも、これからもこの思いは変わらないです。難しいことを難しく感じさせないように、分かりやすく覚えて貰いながら、学生たちと楽しく学習していきたいと思ひます。

同学们，谢谢！

一起加油！

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語通訳法
授業コード 35C31-001
教員名 蔡 毅
教員コード 100086
登録人数 21
回答数 18
回答率 85.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今の若者は「読書離れ」などよく言われますが、アンケート結果によれば、平均得点は4.7にのぼりますので、開講当初に設定した授業目標はおおむね達成したように思われます。

そもそも自己点検とは問題点を確認したうえで、将来に向けてよりよい授業を受講生に提供するための改善策と決意を表すものですが、私は去年3月すでに定年退職し、今回の授業は南山での最後の講義でした。ですので、自己反省の代わりに、老婆心ながら南山生に一言申し述べさせていただきます。

孔子には次の名言があります。

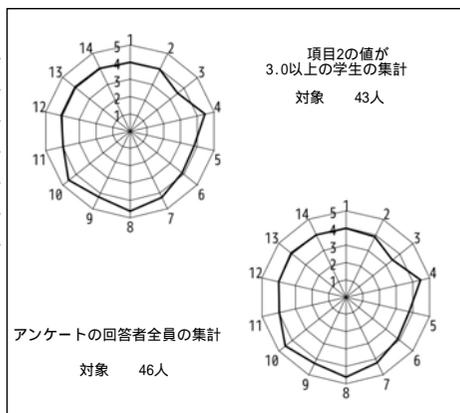
「知之者不如好之者。好之者不如樂之者。（これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず）」。その意味は、あることを理解している人は知識があるけれど、そのことを好きな人にはかなわず、あることを好きな人は、それを楽しんでいる人には及ばないということです。すなわち知る者より好む者、好む者より楽しむ者が勝っています。

学習を苦痛に感じることなく、自ら学ぶ意志がはたらき、さらに心が躍る思いになる「楽しむ」という状態であれば、最高の大学生活を送ることができるのではないのでしょうか。就職後、自分の従事する仕事に対しても同じ感覚であれば、最高の人生になるのではないのでしょうか。

学生諸君とともに私も次の研究活動を楽しみたいと思ひます。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 農業経済論A
授業コード 40D52-001
教員名 園田 正
教員コード 102233
登録人数 120
回答数 46
回答率 38.3%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

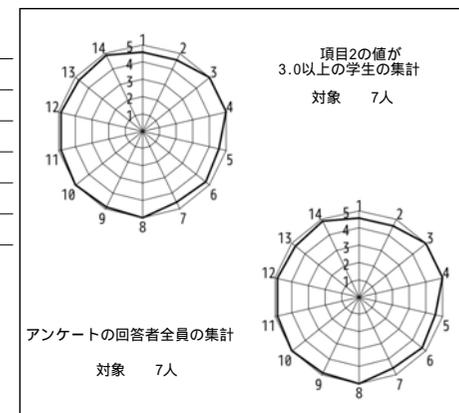


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、日本の農業を取り巻く問題の変遷を、経済発展と関連づけて理解できるようにする、これまでに採用されてきた農業政策を経済学的観点から理解できるようにする、日本の農業について、自分なりの考えをもつことができるようにする、というものであった。とについては、開発途上国と先進国（日本も含む）では農業生産や農産物に関連して異なる目標をもつために、異なる農業政策が実施されてきたことを経済モデルに基づいて学び、試験の成績から、相応の理解が得られたものとする。については、講義での質問や試験の解答などから、各学生が日本の農業に関心をもつようになり、自分なりの考えをもつようになったのではないかと考える。授業評価集計とレーダーチャートから、全体としてこの講義に満足したかどうか4.00であることから、おおむね良好な評価が得られていると考えられる。授業の開始と終了の時間は守られていたかについて3.46、この授業の到達目標を理解することができたかについて3.78とやや低い評価となっているため、これらの点に今後注意する必要があるが、基本的には現在の講義方法を継続していけばよいと考える。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 内部監査論
授業コード 42C38-001
教員名 岡田 昌也
教員コード 101623
登録人数 15
回答数 7
回答率 46.7%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

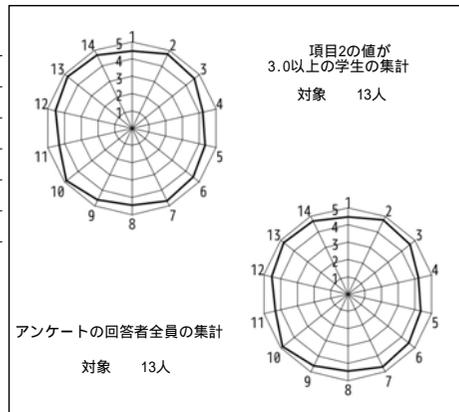


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、現在の内部統制の標準モデルであるCOSOモデルの理解とそれを利用した内部監査制度の理解である。もともと内部監査というのは一般的には馴染みがなく、ましてや学生にとっては全く縁のないものであるため、まずは「監査」の意味を理解し、監査の基本的な手法について説明した。授業は、もっぱら講義形式であるが、授業終了後に質問に来る学生もおり、それなりに興味を持ってくれたのではないと思う。授業評価としては項目1から14までの平均が4.80、項目3から14までの平均が4.83であり、内部監査という全く馴染みのない科目としては、高い評価かと思っている。約4年開講している中で最も高い評価であったが、実際の実務の話の割合を多くした結果かと思う。今後の改善点としては、学生からの発言が出やすい環境を作りたいと思う。内部監査というものは明確な回答があるものではないため、理解を深めるためにもディスカッション形式が良いのかもしれない。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報基礎1
授業コード 42D01-001
教員名 小澤 和弘
教員コード 103586
登録人数 50
回答数 13
回答率 26.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

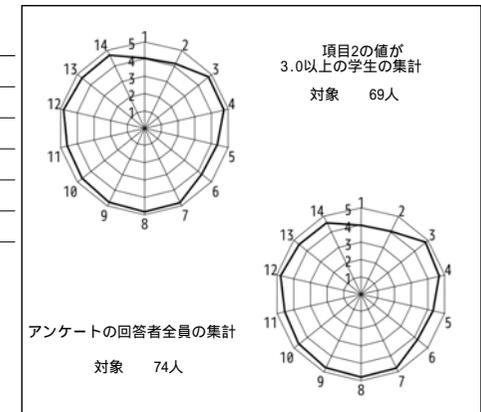
本授業は、情報処理機器の基本的な操作方法、文書作成、表計算処理の基本技術の修得、ビジネス文書におけるマナーやルールの理解、さらに各種データの基礎的な統計処理方法の修得を主な目標とし、コンピュータによるMicrosoft WordやExcelの演習を中心に授業を実施した。

学生による授業評価は概ね高評価であり、授業目標もほぼ達成できたようである。自由記述には、「今後必要になってくるパソコンの知識（Word、Excel）を深く学習できたのがよかった」「パソコンスキルを身につけられる」「実践的な力が身につく」「非常に分かりやすい授業だった」等のコメントがみられ、授業内容や進行も概ね良好だったようである。

次年度においても、本年度の授業内容を踏襲しつつ、主体的にコンピュータ操作の特徴や利点をより深く理解し、社会生活を見据えた実用的かつ効率的な技術が身につけられる授業を展開できるよう努力していきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(先輩実務家と語る)3
授業コード 42F08-003
教員名 近藤 智也
教員コード 104806
登録人数 192
回答数 74
回答率 38.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

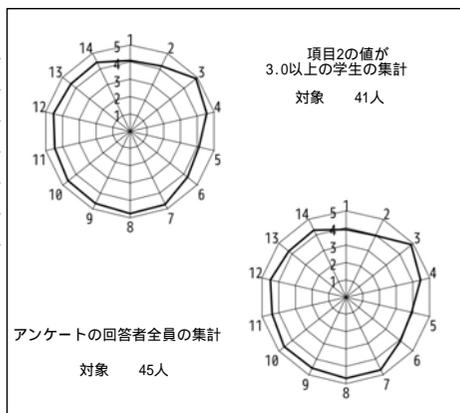
開講当初は経営学部出身者が主な履修者であることを想定していたが、実際にはばらつきがあったため、目標として「実務に役立つ」というよりも「関心を持ってもらう」という程度に修正した。おおよそ目標は達成できたと考えている。

学生評価については毎回提出させているリアクションペーパー（RP）の反応と近く、また毎回の講義においてもこのRPを反映しながら行ったため講義の目標をある程度維持しながら学生の求める内容になったのではないかと考える。また項目「3」以降で4.5ポイント未満は「この授業の到達目標を理解することができましたか。」「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の2項目であったが、これらについては講義中意識していたため正しい評価であるかには疑問が残る。

今年度は南山大学での講義担当は初めてであり、Webclassの使用方法や効果的な活用の模索に終始し十分な活用ができたとは言えない。今後はさらにこれらの活用を促進させたいと考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学総論
授業コード 46D11-001
教員名 中島 靖次
教員コード 000246
登録人数 219
回答数 45
回答率 20.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

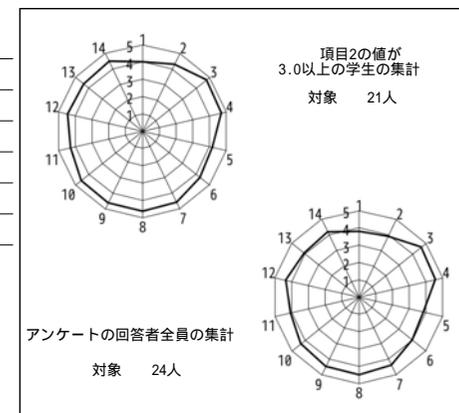


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は受講者多数のため前年までオンラインで行われてきたので、対面での実施が3年ぶりであった。コロナ禍の影響なのかよくわからないが、授業を受ける雰囲気や若干の変化が感じられたように思った。なかでも、顔をあまり上げずにひたすらノートをとる姿が目立ったように思えた。したがって、これまでに得られていた学生の反応をなかなか知ることができず、授業のその場に合わせた修正も判断がつかねる具合であった。そのため、授業の内容もこちらの思惑のように学生に届いているか非常に心配であったが、自由記述を見る限り、それなりに理解してもらえたのではないかと思う。しかし、問5、6の結果を見る限りやはり十分な理解には至っていなかったようで残念である。そもそも抽象的な授業内容なので、具体例を示しつつ話を展開したつもりであったが、それも不発に終わったようである。こちらの提示する「具体例」の具体性が、学生の日常においてはどこにも見当たらないとなれば、抽象的な話の抽象性は、思わぬ様相を提示するようになって、学生の理解を却って妨げるようになっていたのかもしれない。具体的事例、今後の課題としたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東洋史B
授業コード 12B06-001
教員名 西江 清高
教員コード 019356
登録人数 127
回答数 24
回答率 18.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

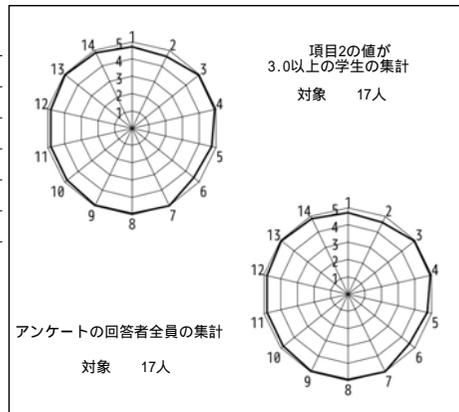


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、「古代」というもののイメージが、民族や国家のアイデンティティにどのようにつながってきたのかを問うという仕掛けによって、中国史を古代から現代まで総覧する内容となっている。過去にもほぼおなじ狙いをもって東洋史Bを組み立ててきた経験があるが、今年度、受講者数が3倍以上に急増していたことは予定外の変化であった。学生の評価をみると、「授業の満足度、知識の習得度」に関する質問項目13、14がけっして良好な数値ではなかった。過去の数値よりも低くなっているとおもわれ、次年度へ向けて十分に検討すべき課題である。「履修以前にこの授業の内容について興味を持っていたか」という質問項目1に対しては、4.0を大きく下回る低い数値であった。つまり、必ずしも興味のない科目ではあったが、履修登録したという受講生も少なくなかったと思われる。共通教育科目では、そうしたケースが少なくないかもしれない。しかし、そうした履修生を念頭において、学生の興味関心を引き出し、最終的な学修成果に高い満足が得られるようにすることが求められるはずである。大人数の授業環境にも対応しつつ、このような目標にいかにして近づけるのか、次年度の講義にむけて授業の方針を練りなおす必要がある。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語アトリエA
授業コード	33C07-001
教員名	七條 めぐみ
教員コード	103896
登録人数	21
回答数	17
回答率	81.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

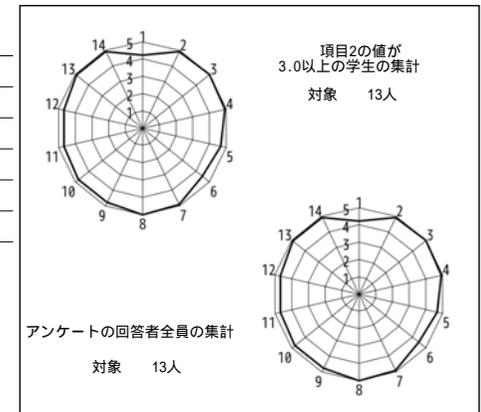
開講当初に設定していた目標と到達の程度：本科目では17～18世紀フランスのオペラに関して、(1)歴史や作品の特徴を理解する、(2)声楽・舞曲作品の基本的な理論を習得する、(3)声楽およびダンスの実践を通じて、フランス語と芸術作品との結びつきを体感することを目標とした。(1)(2)に関しては各回のコメントシートおよび期末レポート、(3)に関しては授業後半で行った実践的な取り組みにから、十分に到達されたことが確認された。

数値データ、自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：今回のアンケートでは項目全体の評価が4.83という、全学平均と比べても高い評価を得られた。本科目は西洋芸術音楽の歴史という、一般大学では触れることの少ない分野を扱うものである。そのため、音楽の専門知識に頼るような説明は避けるとともに、受講生からの質問には十分な時間を取って答えるように努めた。その結果、高い満足度につながったと思われる。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：オペラ作品の視聴と実践による理解を重視するあまり、思想的背景、他の芸術分野や社会との関わりについては比重が軽くなったといえる。今後はこれらの点を補強することで、受講生のより多層的で深い学びへとつなげていきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語II(読解)1
授業コード	11L09-001
教員名	鈴木 照
教員コード	103293
登録人数	14
回答数	13
回答率	92.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

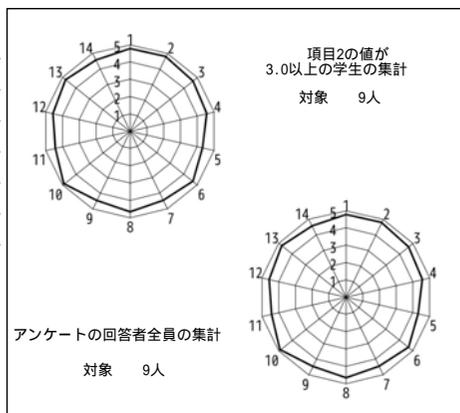
この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材やグラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。

比較的受動的な態度で授業に参加する学生が多く、コース開始時には、初級とは異なる授業形態への対応に苦慮する様子が見られたが、授業が進むとともに積極的に参加する姿勢が増した。そして、コース終了時には学習した文法等を概ね正確に使用し、読解文を理解して適切に要約することができるまでになった。学生自身も日本語の上達や理解の深まりを実感しているようである。(設問6:4.46、設問13:4.92)しかし、設問6で1、教員の授業運営に関する設問(設問9~12)で2~3の回答もあったことから、授業についてこれなかった学生がいたことも窺える。

これらを踏まえ、次学期は今学期の授業内容を中心に、学生が興味を持ち積極的に学習に取り組める内容を組み込み、学生個々の理解度や様子にさらに気を配りながら、授業を運営していきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語II(表現技術A)1
授業コード	11L10-001
教員名	蒔田 雅子
教員コード	102042
登録人数	15
回答数	9
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は初級の日本語を修了した留学生に対する学部での日本人との授業を念頭に置いた、口頭表現力の向上を目指す授業である。具体的には、社会問題となっているものに注目し、日本語の資料やデータを読み解き、理解した自らの言葉で表現したり、疑問や不安も含めて日本語で相談したりできることを目指している。そのため、調べ進めた資料をその都度、グループやクラス内で報告すること、グループで1回、個人で1回全体をまとめて発表することを求めた。発表に向けては資料の妥当性や構成に関する指導も行っている。開講当初は資料を探すことにも読むことにも苦労する姿が見受けられたが、グループ発表で助け合いながら作業を進め、個人発表ではその活動を活かして個人で発表の準備を進める段階的授業を行ったことで、理解を促進させた学生が大半であった。一方で、質問がないか、準備は進んでいるか尋ねても反応がなく、積極的に参加できていなかった学生もいた。授業の到達目標が理解できず、教員の指導にも満足していなかった学生が1人いたが、力がついたという自己評価はしているため、授業効果については肯定的であったと理解している。「初級の会話中心の授業を終えた学生に社会問題を日本語で」という点で自立学習への期待とその指導の難しさを感じるが、学生の様子にさらに注意し、的確な指導を行っていきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語II(表現技術B)1
授業コード	11L11-001
教員名	三輪 志保
教員コード	103665
登録人数	17
回答数	4
回答率	23.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

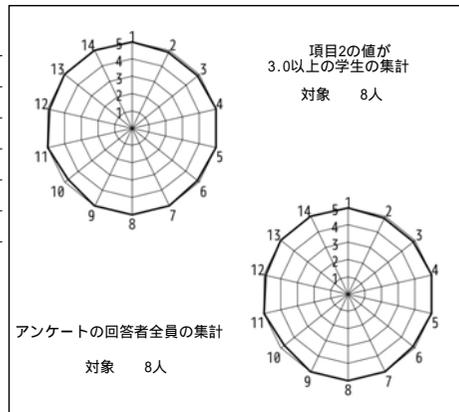
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目では、レポート作成の基礎知識を理解し、正しい文で書くこと、報告型レポートの作成に必要な表現や形式を身につけることを目標としていた。最終到達目標は、今後レポート・論文の先行研究の執筆に役立てられるような報告型レポートの作成とした。日本語初級を終えたばかりの学生に対し、今後の助けとなるよう図書館での講習やレポート執筆の基礎力を高める表現演習を取り入れている。また、先学期の反省を踏まえて理解しやすいよう教材を改善し、毎回の課題で定着を試みた。ほとんどの学生がレポートの基礎知識を理解し、当初の目標の1つである「レポートの構成を整える、出典を明らかにして引用する、客観的な表現でレポートを執筆する」ことに関しては、ほぼ達成できたように思われる。しかし、期末のレポートでは、実質的な文章表現の運用やレポートの構成・内容に関して個人差が顕著に表れた。自身のコロナ感染によって最終回が休講になり、補講時に授業評価の説明と実施を失念してしまったため、学生からの回答数が4件以下で集計されなかった。しかしながら「たくさんレポートを書く知識を学んだ」という自由記述が見られ、授業内容に関しては評価ができるかもしれない。最終課題のレポートが提出できなかった学生が若干名いた。テーマ設定の仕方、資料検索、構成等、レポート執筆の前段階での躓きが見られたため、教材や説明を更にわかりやすく工夫し、レポート提出率100%の授業への改善を試みたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)1
授業コード 11L15-001
教員名 牧野 由美
教員コード 100727
登録人数 13
回答数 8
回答率 61.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

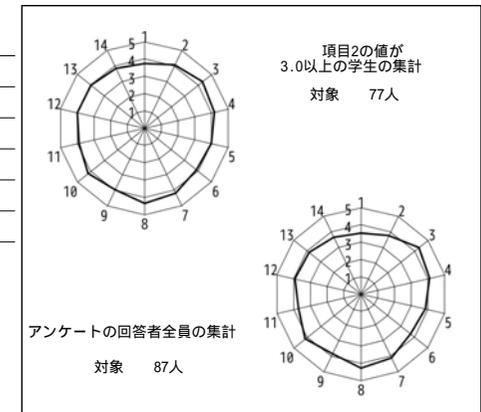
授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文を用いて、述べたい内容を的確に表現できる文章力の習得であった。最後まで履修を続けた学生は課題にまじめに取り組み、文章力を高めることができた。合格した学生はまとまりのあるレポートが書けるようになり、学部の授業で課せられるレポート課題にも取り組める日本語力を身につけてきたと言えるだろう。設問13への回答を見ると学生自身も日本語力の伸びを感じていることがうかがえる。

自由記述では「書くスピードが問題になったので、たくさん練習したい」というコメントが見られた。レポートを手書きで書く機会はないと思われるが、クイズや試験で十分に力を発揮できるよう、また機械に頼らず自分で考えて文章を書くことができるよう、引き続き手書きの課題を課し、作文形式のクイズ・試験を実施していくつもりである。

今学期は受講人数が少なく、課題に対するフィードバックを行う時間の余裕がいつもよりあったと感じている。受講人数が多い時にも、学生が理解・満足できるフィードバックが行えるよう、授業の進行には引き続き工夫をこらしていきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳4
授業コード 10D01-004
教員名 浅野 幸治
教員コード 100779
登録人数 188
回答数 87
回答率 46.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は、全体として学生の満足度が低かった。いくつか改善すべき点がある。

1、「講義資料も配布してほしい。」「パワーポイントも講義資料サーバーに挙げてほしい。」

そのように学生から要望があって私もそうするつもりであったにも関わらず、忘れていた。これは、忘れないように改善する。

2、「レポートのことをもう少し早く知りたい。」「最終レポート課題の発表が遅すぎです。」

学期初めにレポートの概要を説明し、正確な課題の説明も数週間前倒しする。

3、「ホロコーストの映像がつかかったため見るか見ないか自由にしてほしい。」

了解である。事前の注意説明をより丁寧に行いたい。

4、「最終レポートで使う参考文献が入手しづらかった。」

最終レポートに必要な参考文献に柔軟性をもたせるようにする。

5、「大学の本屋で販売されているような本を課題図書にして頂きたいです。」

紀伊國屋に注文しておきます。

6、「上南戦で公欠になった学生への対応が不適切である。」

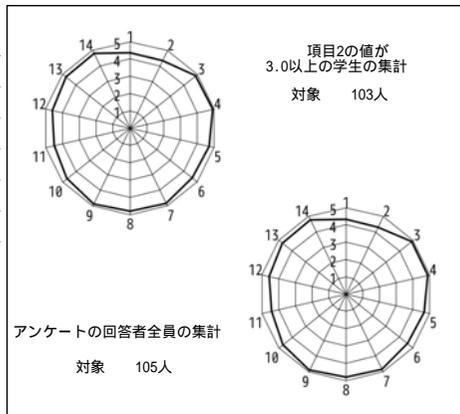
「公欠」は「公式に欠席した」という意味だと理解している。授業に出られなかったのは残念だけれども、その分勉強ができなかったのは事実である。勉強ができた学生よりも不利にならざるをえない。

7、「教室が暑い。」

冷房を入れていたにもかかわらず、教室が暑かった。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	性と生命における人間の尊厳4
授業コード	10D06-004
教員名	三谷 竜彦
教員コード	102441
登録人数	182
回答数	105
回答率	57.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



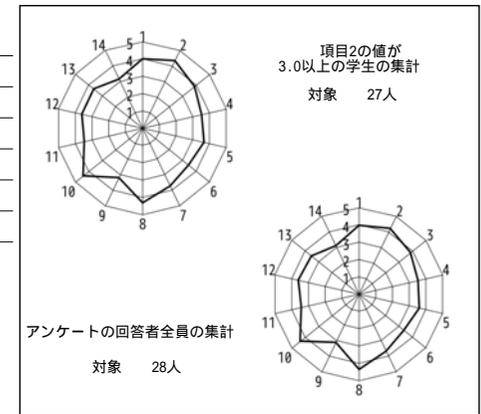
授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生数は182名で、回答者数は105名（回答率58%）でした。設問3～14の平均値は4.73で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.61）を上回りました。いつも個人的に最も重要視している設問13（「...新しい知識...」）および設問14（「全体として...」）の数字は、4.71および4.75で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.57および4.57）を上回りました。これらのことから、開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって 今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していった方がいいのだと思っています。改善点として指摘されたことのいくつかについて、以下、回答します。

- ・資料や動画が古い 重要なのは新しいか古いかということよりも、授業にとってどれだけ有用かということ。古くても有用と思われれば使います。また新しい情報は、必要性があれば適宜補足します。
- ・授業資料の配布がオンラインで、リアクションペーパーの提出が紙というのは、ペーパーレス化と言っておきながら矛盾しているのでは？ 授業資料は、余った分（受講登録されている学生が全員出席するわけではなく、多少の余りが出るのが常）は基本的に廃棄対象になってしまいますが、リアクションペーパーは、余った分は次回にそのまま利用できますので、ロスは出ません。また出欠確認の意味もありますので、紙のものをリアルタイムで配布して回収するという方式が、その意味でも望ましいと思っています。
- ・取り上げる話題に偏りがあり、中立的な立場で進めるべき この授業で取り上げられるテーマは、私が把握している限りでは、ほぼ一般的な概説書・教科書類の通りになっていますし、取り上げる意見等も然りです。当然授業のなかで教員が個人的な意見をいうことは（少なくとも授業内容にかかわることに限っては）ありえませんが、偏りがある、中立的ではないと感じられたなら、それは元ネタとなっている概説書・教科書類に帰責性があるのでしょう

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	哲学B2
授業コード	12A02-002
教員名	星 揚一郎
教員コード	100986
登録人数	89
回答数	28
回答率	31.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

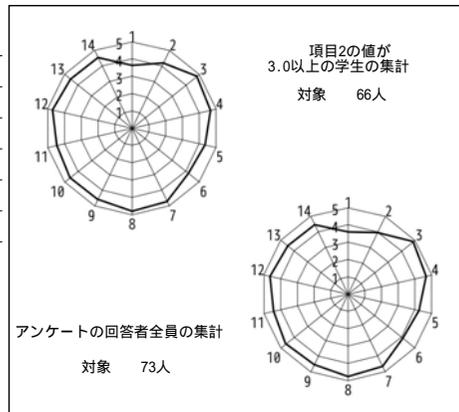


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスのとおり、20世紀以降の哲学者の言説をヒントに、現代の身近な問題を具体的に考察しました。その結果、期末レポートで、受講者一人ひとりに自ら哲学していただくことができました。つまり、学術的なレポートの書き方のルールに則って作成してもらったレポートは、どれも十分に思索の跡がありました。また、各回の授業後に、毎回、全員に授業内レポートをwebclassで提出してもらうことで、その翌週の授業内での議論を活発に行うことができ、具体的な応用哲学の問題に対して、ひとりひとりの意見を伺うことができました（質問がある方には、すべて、その際に対応しています）。授業に積極的に参加してくださった方々に感謝申し上げます。「他の授業では先生の聞いているばかりで、なかなか発言の機会がなかったが、哲学の授業では学生同士の意見の交換ができてよかった」と、好意的に受け取っていただいた方もいました。次期以降も、闊達な意見交換ができる哲学の授業を継続してまいります。出欠については、事情がある場合には、そのつど連絡をいただき、それに対して配慮しました。理由の報告もなく規定の3分の2以上の授業に出席せず、かつ、期末レポートを提出してきた学生には、学則に則り不可とし、厳格に単位認定を行ないました。100分授業を2コマ連続で受けることは、学生にとってたいへんなことだと想像しています。これからも、教員が伝える部分と、学生の意見を交えて議論をする部分とを織り交ぜて、工夫してまいります。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	美術B1
授業コード	12A06-001
教員名	井上 瞳
教員コード	104795
登録人数	107
回答数	73
回答率	68.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

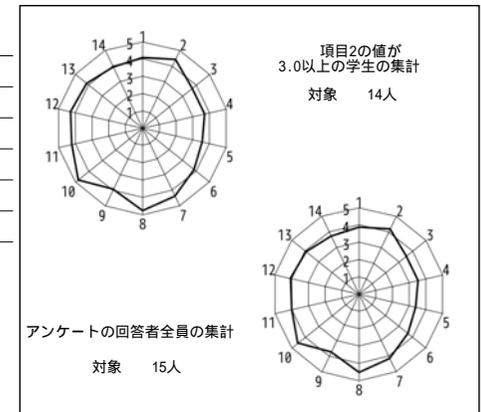
開講当初に設定していた目標と到達の程度について
本講義では日本の美術史について時代の流れとして把握できるような構成で授業をすすめた。そのため 美術作品を断片の集まりでなく、流れとして理解することを目標とした。アンケートではそのような理解が深まったと捉えることができ、設定目標に到達したと考えてよいだろう。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
設問1の当初の期待度の低さと、設問3以降の理解度、満足度の数値から明らかのように、美術史に対する鑑賞能力と理解、そして何より興味が深まっている。まず第一としては、やはり美術史という学問に対して興味を持ち、知りたい、見たいという欲求が深まることが何より重要である。学生たちには今後も継続して美術を探究することへの興味を失わず、美術館や博物館に足を運びきっかけとなればと思う。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
教室が瀬間卓という意見が多数あったため、教室改善を申し入れたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治学A2
授業コード	12C04-002
教員名	海川 能理子
教員コード	104654
登録人数	38
回答数	15
回答率	39.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

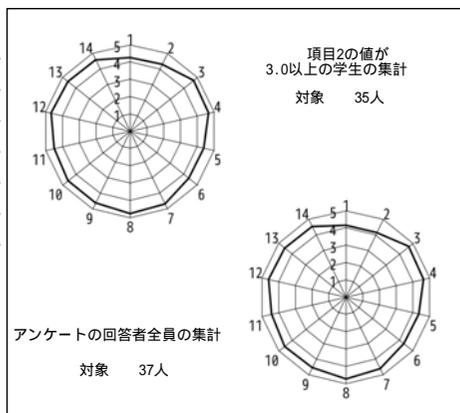
開講当初に設定していた目標と到達の程度について
前年までとはほぼ同じ内容の授業だが、受講生の基礎学力が全体的に下がっていることが定期テストの結果からも読み取れる。これは、たまたま今年度の当該授業の受講生だけの問題なのかもしれないが、高校生活のほぼすべての期間がコロナ禍にあり、対面授業が十分に行われていない結果かもしれない、検証が必要だと感じる。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
にも関連するが、今年度は前年度までの授業内容を15%近く削減し、十分に説明の時間をとって進めてきた。前年度までと同様にレポートを書く時間は15分としたが、ほとんどの学生が時間内にレポートを書くことができず、提出時間を延長することが常態化したことは反省点としてあげられる。一方で、毎回提出するレポートは「授業の内容をどれだけ理解しているか」を評価するものであり、その評価基準については、第1回～第3回の授業の冒頭で詳しく説明している。にもかかわらず、自由記述をみると趣旨を理解していない学生がいることは残念である。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今期、受講生が15分でレポートが書けない状況を鑑みると、授業の内容を易しくすることも検討せざるを得ない。そもそもレポートの体裁になっていないものを提出している学生も少なくないことから、作文や小論文など「記述」の学習をしてこなかった学生が増えている傾向にあるのではないかと。評価方法を再度検討する必要があるかもしれない。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学B2
授業コード 12D07-002
教員名 金森 大成
教員コード 103294
登録人数 180
回答数 37
回答率 20.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

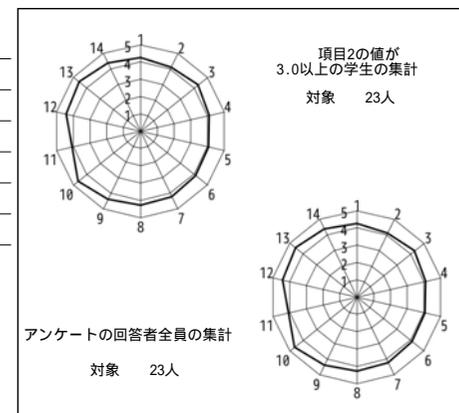


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1.本講義については、各回の講義内容についてシラバスに記載したとおりに行うことができた。したがって講義の目標について、シラバス通りに到達できたと考えている。
- 2.学生アンケートの数値データを見ると、受講前は講義内容にそれほど興味を持っていなかった学生も講義を通して、興味を持ち、新しい知識などを得ることができたと感じている学生が多いことがわかった。各回の講義内容や講義スピードが適切であったためだと考えている。また、本講義は教科書を指定せず、毎回自作の講義資料を学生が南山大学のサーバーからダウンロードできるようにしており、内容もイラストや最新の研究結果をふんだんに盛り込むなど工夫を行っている。そのことが受講生の理解度の向上や講義内容について興味を持つ結果になったと考えている。今後も資料の改善を継続的に行うことにより、より理解しやすいものにしていく予定である。
- 3.自由記述欄などを見ると、講義資料を講義中にダウンロードしたり、各自のPCで見ながら受講する学生がおり、教室にコンセントなどの設備がなかったため苦労したようだった。また教室が受講生数に対して狭いと感じている学生がおり、室内温度などに不満を持っている学生がいた。今後は学生数に合わせた適切な教室選択や講義資料の配布方法などを検討したいと考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生物学A
授業コード 12D12-001
教員名 成田 靖子
教員コード 100250
登録人数 59
回答数 23
回答率 39.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

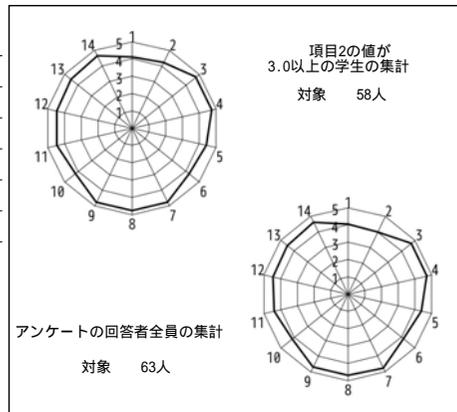


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 副科目名は「宇宙から見た生命史」。
- 生物にとって重要度の高い元素として、炭素、リン、窒素、酸素、鉄を抽出して、医学・生理学も含むものとした。また地球上の生命の由来を宇宙とする最近の研究傾向にも言及した。
- 受講生の高校生物の履修には個人で幅があることを考慮した。吉田たかよし『宇宙生物学で読み解く人体の不思議』を教科書とし、教科書をベースに、カラー図や画像が多い配付資料を作成した。また関連する新聞記事や視聴覚資料を多く取り入れた。
- 質問3～14の授業全体に対する問いの回答は4.31。学生の理解度への配慮、教科書、配布資料、視聴覚教材などの効果的使用（質問9）は4.39。「新しい知識を得、理解が深まったか（質問13）」は4.57。授業への満足（質問14）は4.39。レーダーチャートの丸みや各質問への回答から見て、授業進行と内容に大きな偏りや問題はなく目標はクリアしたと考える。自由記述では、動画を多く用いたことを評価する声が多かった。具体的には「映像資料があると体内で起こる仕組みがイメージしやすかった」、「授業内容に関する動画を流していた。こうすることで学生たちにより深い理解を促すとともに飽きさせないようにする効果があったと思う」である。
- 科学離れが多いと報じられる中、生きるものの仕組みや必然性に多少なりとも興味を持ってくれたことは担当者として嬉しいことである。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較1
授業コード 13A01-001
教員名 山田 幸代
教員コード 101367
登録人数 193
回答数 63
回答率 32.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



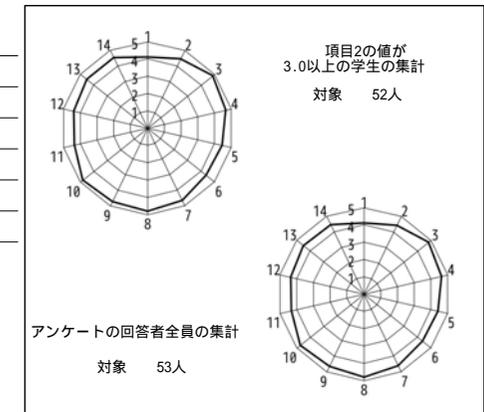
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「ケルトの文化圏について、基礎的な知識を得る」「アイルランドの歴史について、紀元前から現代まで概観できるようになる」「具体的な知識を身につけることで、今まで気づかなかった身近なアイルランド文化を再発見する」という授業目標は、おおむね達成できたと思われる。特に映画や音楽を毎回使用したことで「アイルランドという一見、とっつきにくい内容について、映像資料からも学ぶ事ができ、講義内容も頭に入ってきやすかった」「映画やドキュメンタリーを使った授業がとても興味深く、面白かった」といったコメントが寄せられていた。

今クォーターでも引き続き、授業の始めにWebClassで集めた前回の授業の感想をまとめて口頭で紹介しており、その時間が長すぎるかと心配したが「授業の感想を紹介する場面では、自分では気づかなかった点について指摘している感想があり、新たに気づかされることも多く、勉強になった」というコメントがあったので継続したい。改善点としては、私語への注意が不十分だった点である。実際に学生から要請があったにも関わらず、翌週の授業で注意するのを失念しており、授業の最後に言及してしまった。非常に反省している。今後も対面で100名を超える受講生がいる授業では、私語への配慮が必須であることをつねに忘れないよう気を付けたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ヨーロッパとの出会い3
授業コード 13B04-003
教員名 山田 亮子
教員コード 104283
登録人数 89
回答数 53
回答率 59.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

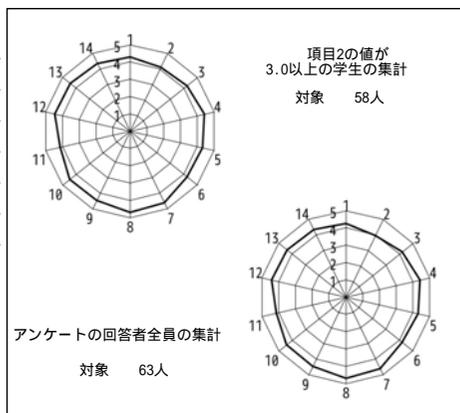


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当授業は 毎回の授業の最後に出題する課題への解答ー20%、小テスト3回ー30%、期末レポートー50%、の割合で成績を評価する。最大の割合を占める期末レポートでは、授業内容をどれだけ理解し、到達目標を達成しているか、授業内容を俯瞰し、自分の考えを発展させているかを評価する。提出されたレポートを見ると、殆どの学生が授業内容を正確に理解し、到達目標を達成していることが読み取れる。さらに考察を深め、自分なりのヨーロッパ統合観に発展させているものもある。驚いたことに、小テスト3回で最低レベルの点数しか取れなかった者が、期末レポートではかなり優秀なレポートを書くケースがある。レポートの内容からは、授業内容を正しく理解していることが読み取れる。理解しているのになぜ小テストでは正解が書けないのか。予め答えが設定されているテスト問題への解答は不得意でも、自由な発想に基づくレポートでは本来の力を発揮できるということなのか。また、その逆もある。小テストではトップクラスの点数を取り、理解度の高さに感心したにも関わらず、期末レポートでは全く力を発揮できていないケースもある。これは得意なところでは力を存分に発揮できるのに不得意なところでは発揮できないという、固有の能力によるものなのだろうか。様々な手段によって評価することの必要性を感じた。また、小テストでは本来の力を発揮できる設問を心掛ける必要もある。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解2
授業コード 13C01-002
教員名 堀江 未央
教員コード 104284
登録人数 240
回答数 63
回答率 26.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本授業で設定していた目標である、異文化に関心を持ち、異文化を様々な観点からとらえるための基礎を理解すること、そして自身の依拠する無意識の前提に注意を向け、相対化することができることについては、繰り返し具体例を用いながら講義中に説明したこともあり、毎回課していたコメント課題の内容の思慮深さからも、学生たちの到達度はおおむね達成されたと考える。

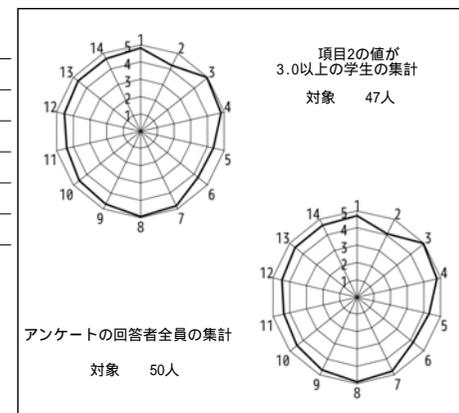
数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

数値データはおおむね高く、自由記述においても、教員の具体的経験に基づいた講義内容を評価する声が多かった。他方で、異文化理解の「困難さ」についての内容が薄いという指摘もあった。また、予習復習に関する項目は他の項目に比べて数値が低く、改善の余地があった。自身のフィールドワーク経験をもとにした講義内容であるため、予習や復習の材料の選択肢が少なく、工夫が必要である。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
期末課題であるフィールドワークの内容については、昨年度に比べて指示をすべて守らず実施しているものが目立った。昨年度よりも受講者が大幅に増えたため、内容説明をもう少し丁寧に行う必要があった。また、予習復習や主体的な学びの創出のために、ミニディスカッションを来年度は取り入れることを検討している。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 税金と社会
授業コード 13C07-001
教員名 武山 卓史
教員コード 104455
登録人数 148
回答数 50
回答率 33.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

・複数の税理士が講義を担当し、自身が税理士を志した理由や経歴についても話すことで、税理士という職業の使命・業務内容を広く理解するという目標については達成したと思う。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

・設問1の授業の内容について事前に興味を持っていてくれた生徒が多かったことは少し意外ではあったが大変嬉しかった。

・昨年度は初めての講義ということもあって熱心なあまり講義を時間内ギリギリまでやられた担当講師がいたので、今年度は少なくとも講義終了時間の15分前までには講義を終えレポートの時間に充てることを徹底したことから3の評価が高かったことは良かったと思う。

・2、5、6の項目の点数が低いことから、より学生が主体的に参加し、力をつけるようになるよう講義内容を工夫していきたいと思う。

・昨年に引き続き設問7・8・9の教員の講義に対する姿勢や、声の大小強弱、授業の進め方についての評価が高かったことは良かったと思う。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負・方針など。

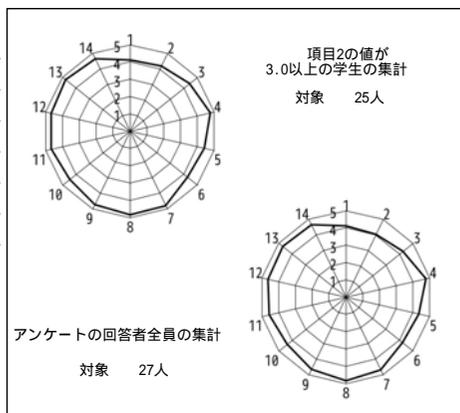
・複数の講師が担当するという点については学生からの評判も良いので、今後もこの形式を続けていきたいと思う。

・今年度でいえばインボイス制度等よりタイムリーな学生が興味を持てる話題をより多く講義の中で取り上げていくように心がけようと思う。

・昨年度に引き続き空調が寒いという声が講義中も確かに多く聞かれたので毎回空調の調節等、学生の学ぶ環境についての配慮をしていきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは2
授業コード 13E02-002
教員名 成瀬 翔
教員コード 103262
登録人数 109
回答数 27
回答率 24.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講当初に設定していた目標としては以下の2点をシラバスに記載いたしました。

1. 19世紀末から現代にいたる哲学者たちが議論してきた言語についての哲学的議論の内容を理解することができる。
2. 人間の言語活動の多様性に対する興味関心を深めることができる。

これらの目標はおおむね達成できたと考えております。

数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

受講者の協力もあり、総合的には問題なく授業を運営することが出来たと考えております。

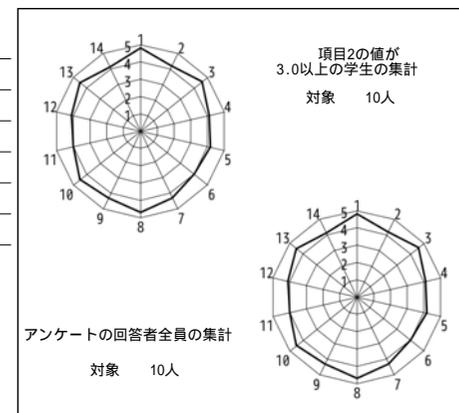
また受講者がおおむね全体として、「あなたはこの授業に満足した」と回答した点はよかったと思います。

次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

来学期は受講に際して、受講者が予習や復習を含め、主体的に授業に参加できる工夫を考えていきたいと思っております。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と機械4
授業コード 13E04-004
教員名 久保田 進一
教員コード 104075
登録人数 33
回答数 10
回答率 30.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

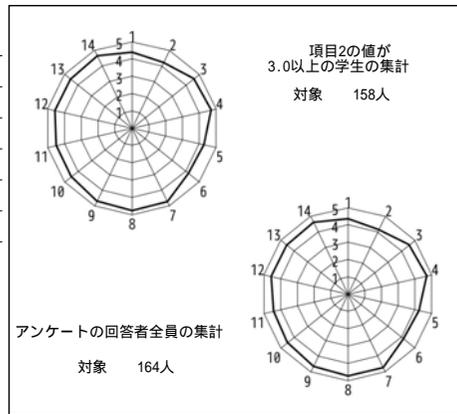
開講当初に設定していた目標と到達の程度については、試験の採点の結果から判断して、概ね達成できたのではないと思われる。この授業では人間と機械を対比させることによって、「人間とは何か」という問いを深めることを目標としており、その目標は基準としては達成されたと思われる。ただ、答案の内容から見ると、もう少し深掘りした答案をかいてもらいたかった。

学生のアンケート結果から概ね高評価を得たと思う。今回は午後からの授業で（昨年までは午前の1・2コマ）、学生の数も多かった。そのため、学生とのコミュニケーションも取りにくく、また私が足の親指を骨折したため、どうしても前の方に座っている学生とのやりとりに偏ってしまった。その点は自由回答にも指摘されていたことである。また、プリントを中心に授業を行ったのがかなり好評でもあったので、今後も続けていきたいと思う。

今後の授業の改善点としては、映像資料について適切に使っていききたいと思う。今回は映像資料を使わなかったため、今後は適宜使用したいと思う。それから、昨年度から100分授業になったということで、学生もかなりしんどいと感じ、時折集中力が切れたりしたため、途中休憩を挟んだりしたのは良かったと思う。今後もより一層、学生とのコミュニケーションを通して、授業に全員が参加しているという実感を持てる授業を行なっていきたい。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報社会の構造1
授業コード 13E06-001
教員名 井上 寛雄
教員コード 102683
登録人数 397
回答数 164
回答率 41.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

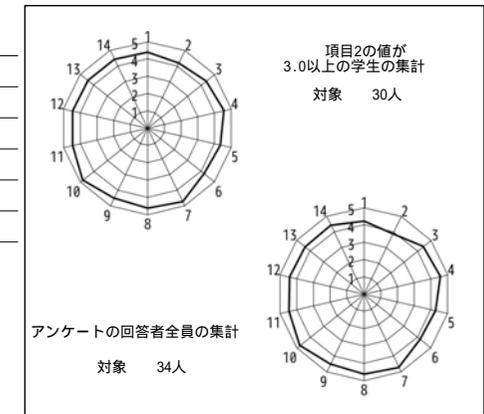


授業評価結果を踏まえた点検・評価

コロナ禍以来久方振りの対面形式の講義となったが、オンライン講義を行っていた時の経験を生かし、大教室での講義ゆえに学生が気軽に質問が難しい点を、WebClassのチャット機能を利用して質問を募ることで、うまくコミュニケーションを取ることができた。総じて学生からの講義の満足度は高く、内容や進め方についての不満はなかったのであるが、到達目標の達成といった肝心な項目での評価が伸び悩んだ。講義内容が学生の関心を引きやすいものであるため、楽しんで受講してもらえているようであるが、それが学問のレベルに結びつけるという点で不足するところがあった。本講義の到達目標を確認し、講義内容が、どのような学際的な意味を持ち、自分の学習分野と関係付けることができるかを積極的に示し、また学生自身でもそのような学習態度を持てるよう、訓練をする場を、レポートを通して設ける工夫をしていく。また、大教室での対面講義に戻ったにもかかわらず、学生の私語な受講態度に対し注意が十分ではなかった。学生同士で対話する時間と講義に耳を傾ける時間のメリハリを付け、適切に注意できるようにする。

2023年度 Q 2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 博物館学B
授業コード 15M02-001
教員名 成田 朱美
教員コード 104648
登録人数 63
回答数 34
回答率 54.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

出席をしっかりしていた学生に関しては、目標と到達に関しては、十分に理解し到達していた。ただし、出席が少ないものは、事前に授業で使うパワーポイントをDLサーバーに上げていたが、このパワーポイントからの理解は少なかったようで十分とはいいがたかった。

概ね好評をいただいているようではあったが、まだ噛み砕けたり、詳細を説明したほうがいいのかどうか内容があると感じている。

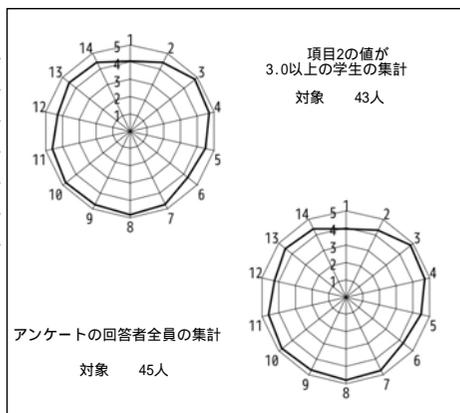
パワーポイントもページ数が増えるが、1枚にかける時間が長いものもあり改善の余地があると感じている。欠席者がパワーポイントを確認することで理解できるような工夫も必要と感じている。

また、時間配分に関しては、今年2年目で初年度に比べると改善はできたが、まだ配分が完全ではなく、引き続き改善を行う必要がある。

好評であった実地に則した内容をさらに盛り込み、興味を持ってもらうことで、この講義全体の内容を理解し、学生が学芸員になった際に活かせる内容にしたい。また、学芸員にならなくとも、文化財に対する正しい知識・理解を持ち、適切な活動ができる人材を育成したい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 児童サービス論
授業コード 15P09-001
教員名 青木 文美
教員コード 104273
登録人数 82
回答数 45
回答率 54.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

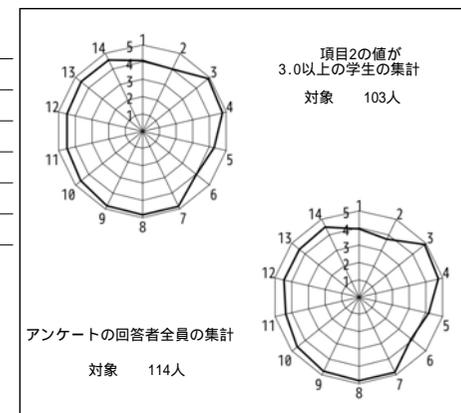


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標と到達度に達するように授業を行った。週1回、2コマ連続科目だったため、課題の準備等に非常に労力を割いた学生が多いと推測されたが、当初の予定通り授業を実施した。アンケート結果を拝見し、授業内容を十分理解し、楽しみながら受講した学生がいる一方で、授業構成や解説に疑問を持つ学生がいたことも分かった。また、課題の準備や事前学習に時間を要し、その点に対して不満を持った学生がいたことも分かった。そして、授業に参加するためにハードにしごかれ、欠席した学生の方が得をしているのではないか、というモヤモヤとした気持ちを抱かせたことも分かった。ネガティブな感情を抱かせてしまったのは申し訳ないと感じているが、そのようにコメントした学生には、「あなたの努力は見ていましたよ!」とぜひとも伝えたいと思った。アンケートに寄せられた自由記述内容を鑑み、次年度は、講義と演習を織り交ぜた授業構成は維持しつつも、事前学習や準備時間を十分に設けられるように配慮するなど、授業方法について検討しようと考えた。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 典礼音楽I
授業コード 21C80-001
教員名 吉田 文
教員コード 102447
登録人数 188
回答数 114
回答率 60.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

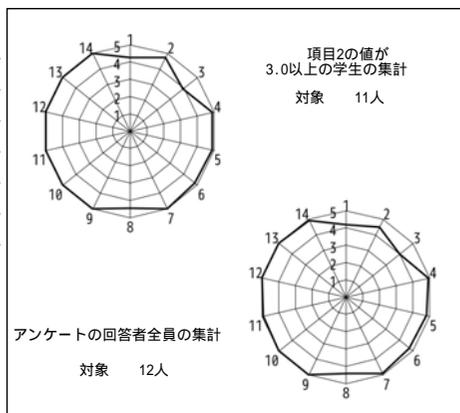
学生の評価によると目標と到達の程度がやや低めに見受けられる。しかし、毎回の授業後に学生より提出されるリアクションペーパーを確認すると、概ねの学生には毎授業ごとにシラバスで提示している内容が理解されていることを読み取ることができる。今後、学生自身が理解した内容について肯定して声をかけが必要と考える。

授業内容が学生にとっては全く未知のものである可能性が非常に高い為、当講義では学生に対して、専門的な知識を鵜呑みにするよりも授業内容に対して学生自身が能動的な学びへの動機を見出す様に声かけを行ってきた。自由記述からは、学生も教員の意図を汲んで学生自身が「楽しい」「面白い」「興味がある」内容を見出している様子を読み取れると考える。

項目16で受けた記述を元に、よりわかりやすい説明や資料提示を心がけたい。近年になり、学生のPC持ち込みが多くなってきた為、教員側からは学生が授業内容をPCへ記録しているのか授業外の作業を行っているのが判断しにくくなってきている。今後も、できるだけ多くの学生が有意義に講義時間を主体的な学びの時として活用できるよう、授業環境についても改善していきたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 道徳教育指導論1
授業コード 15A07-001
教員名 藤井 基貴
教員コード 101236
登録人数 23
回答数 12
回答率 52.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

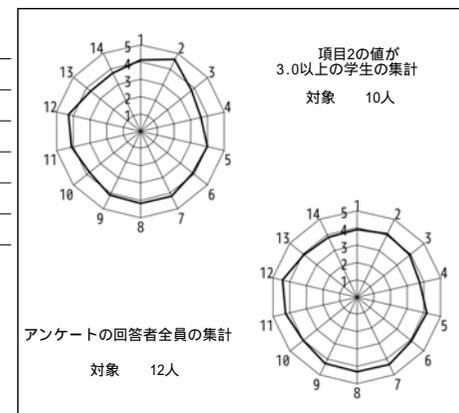


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については概ね達成できたと考えている。受講生の学習理解や意欲も高く数値データ及び自由記述などから教職課程の授業として一定の水準を保つことができたと判断している。とりわけ、教員採用試験に向けての心構えや教職のキャリア形成について個別に相談にのったり、授業者が有している知見やリソースを提供したことで、南山大学で教職を目指している学生の状況や課題についても把握することができた。また、教材開発も含めて、より実践的かつ対話的な授業になるようにした点については受講者からも好意的な意見が寄せられた。改善点としては、授業用のコース packets を用意したものの、適宜作成した授業プリントの印刷にあたって、印刷室の混雑などで印刷に時間を要し、授業開始が遅れることがあった点である。事前に印刷をしたり、PDFで配布するなどの対応を今後検討したい。あわせてコース packets についても、初回授業の際に受講生の意向を確認して、2回目より使用することになったが、受講生それぞれの意向により配慮できるように留意したい。また、教育実習のために欠席する学生に対してのフォローアップについても充実させていきたいと考えている。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会・地歴科指導法A1
授業コード 15B45-001
教員名 成田 健之介
教員コード 101555
登録人数 27
回答数 12
回答率 44.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、講義や演習、模擬授業等を通して、中学校社会科地歴分野と高等学校地歴科の授業に必要な授業実践力の基礎を養うことを目標にしている。前半は、新学習指導要領を中心にして、その教育的背景や「主体的・対話的で深い学び」を促す授業作りについての理解を中心に進めた。後半は、模擬授業を通して実践的指導力の育成をめざした。平均値の数値データからは、項目1から項目14の平均が4.09、項目3から項目14の平均が4.10、さらに項目14の「全体としての満足度」は3.83であり4.0を切っている。これまでの授業評価では見られなかった低い評価であったのでその点について考察する。

本授業の受講生は27名で、2年生から4年生が受講した。この内、回答者は12名で半数以下であった。授業を受講して改善点についての自由記述は、例年に比べて要望が多かった。受講生は、中高免の取得を目指す地歴科指導法A・B、公民科指導法A・Bの受講歴が様々であり、初めて指導法を受講する2年生と4回目の指導法の受講生とで意識の違いを感じられた。また、この授業の良かった点、評価できるかの自由記述では、「社会地歴科の指導法ということで来年度の教育実習のための良い練習をすることができた。何が良くて何がダメな指導なのかという具体的な指標を考えることができた。」「先生は非常に熱心に指導して下さる。学生との行き違いが多少見られるも、生徒のためならという考えの元、授業を進めてくださるので、生徒全体の力についてはついてきている。また授業の方向性もこの授業を受けて、180度変化しつつあり、今後も大いなる期待をしている。」という記述がある一方で、改善点を求める記述では「模擬授業のフィードバックの際に先生からの言葉が厳しすぎる」という趣旨の記述が見られた。「学生との行き違いが多少見られた」という感想が示すように、一部の学生の感情的な改善を求める声になったと思うが、授業実践力の習得のためには、冷静に模擬授業を評価し適確に課題を指摘することは重要であると思う。その趣旨が理解できるような指導を加えたい。

2023年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商業科指導法A
授業コード	15B73-001
教員名	服部 文彦
教員コード	103205
登録人数	8
回答数	4
回答率	50.0%
休講回数	8 回
補講回数	8 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標に達成している。商業科教員として、高校現場の経験をいかした即戦力のある人材育成を目標している。

特に問題なし。概ね目標に達成しているが多くの自連を含めて即戦力にある高校現場での問題点やICTを活用した授業展開を実施して教育実習の研究授業でもICTを活用した指導内容に変化しているので、授業でもより多くのICTを活用した授業展開を創意工夫している。

今後も学生に意見を真摯に受け止めた授業を展開し、毎年多くに教員が正規教員に3年連続なっているので、今後のより多くに教員採用合格になるように模擬授業に資質向上に努めていきたい。さらに、学習指導要領に改定により多くの商業科の科目内容が変更になっているので、変更点や変更内容の指導方法に関しても創意工夫していく。そのために今年度、日本商業教育学会の会員になり、8月19日～20日の行われました日本商業教育学会第33回全国大会（新潟大会）で多くに大学教員や高等学校教諭の発表に参加、文部科学省の田中圭先生の講演を聞き、今後の商業教員の指導力の向上と授業の指導方法に関して研究をして来ました。今後はこの学会に発表をいかして授業のいかして行きたいと思います。

今後も学生の意見を尊重した多くに教員人材育成に微力ながら貢献していきます。